第3章　設楽原古戦場散策
②設楽原の戦いの舞台を
探訪しましょう。

決戦場まつり馬防柵

三英傑集結・決戦火蓋の地
設楽原古戦場散策

新城市の素敵な魅力を語ります
国道151（一期一会）号線沿いをご案内します
設楽原は戦国の歴史と史跡の宝庫

【設楽原決戦場のガイドポイント】：設楽原の狭さを感じ取る。

見どころ：聞きどころ

織田信長は、石山合戦で、雑賀鉄砲衆に苦しめられた事が、鉄砲隊を組織する事を編み出したと云われる。

・織田・徳川連合軍の設楽原の参戦武将

○　徳川軍・・・・・・・・・・・・・・・・・・８０００人

・弾正山➡　　徳川家康
・松尾山➡　　徳川信康
・連吾川右岸➡　　大久保忠世　本多忠勝　榊原康政
　　石川数正　平岩親吉　鳥居元忠　内藤家長
・鳶ヶ巣山➡　　酒井忠次

○　織田軍・・・・・・・・・・・・・・・・・３００００人

・極楽寺山➡　　織田信長（柴田勝家）
・天神山　➡　　織田信忠　河尻秀隆
・御堂山　➡　　北畠信雄　稲葉一鉄
・本陣後詰➡　　佐久間信盛　滝川一益　羽柴秀吉他

決戦場まつり
：馬防柵再現地にて
【長篠設楽原鉄炮隊】

【決戦場の設楽原散策概要】

・設楽原歴史資料館
イ．勝頼公指揮の地
ロ．勝頼公観戦地
ハ．信長公本陣地茶臼山
ニ．家康物見塚（八剱神社）
ホ．武田武将訣杯の地
ヘ．村人の避難場所
ト，設楽原に倒れた戦国の武人たち
チ，丸山砦跡
リ．馬防柵再現地
ヌ．首洗池
ル．火おんどり由来記
ヲ．信玄塚

その他ガイドplus
寄り道・道草
ようこそ新城市へ

【戦国の歴史の散歩道のガイドポイント】：勝頼の思い

見どころ・聞きどころ

・武田勝頼は、設楽原の弾正山に現れた織田・徳川連合を前にして、決戦の【前日】に、領国の家臣の三浦右馬助宛に送った手紙には、自信に満ち溢れた内容とも思われる文面が見受けられます。

【敵 失 行 之 術 一 段 逼 迫 之 体】
【遂 本 意】

・敵は、手立てを失い、一段とひっ迫して柵に閉じこもっている。これを好機と捉えて、今こそ撃ち掛かり、念願を叶えたい。
・武田勝頼は、乾坤一擲の大勝負に出た。押し太鼓と共に、武田軍に一斉突撃を命じた。
・天正2年の奥美濃・高天神城の、連戦連勝の高揚した武田騎馬隊と、信長・家康の鉄砲集団の激突になりました。

五月二十日
武田本隊、進軍開始
突撃

・柳田橋の欄干レリーフ
武田軍の騎馬隊図

お手元の地図を基に元気に【戦国の歴史の散歩道巡り】を致しましょう！寄り道・道草を沢山して、自分なりの思い出を追加しましょう。
・すべての史跡を探し廻れば、貴方は歴男歴女です。

【横断幕のガイドポイント】:説明

見どころ・聞きどころ

・設楽原ボランティアガイドの会が、最初に作成した横断幕です。新東名開通直後に、ミステリーツアーと　して、1ヶ月間に2000名のバスのお客様が、設楽原歴史資料館と信玄塚を訪れました。その時信玄塚に向かう、小径の桜の木に掲げたものです。
・決戦場まつり、オリエンテーリングなど特別な時に使用します。

・横断幕は左から新城市章と、戦った武将の家紋:武田勝頼の【武田割菱】:織田信長の【織田木瓜】:豊臣秀吉の【五七桐】徳川家康の【三つ葉葵】:奥平信昌の【団扇軍配】が、横断幕に印刷されています。

・柳田橋の欄干
武田軍を迎え撃つ
連合軍の鉄砲隊図

設楽原古戦場地図

【古戦場地図のガイドポイント】：歩いてみましょう

見どころ・聞きどころ

- 現在古戦場は、田畑の広がる静かな風景の中に在り、四季折々の景色が楽しめます。大自然と歴史の浪漫が、あなたをおもてなし致します。
- 武田軍を迎え討つ、織田・徳川軍の、壮大な戦国スペクタルの陣形の中を、古戦場地図を参考に散策すると往時の面影がよみがえります。
- この地図は、新城市東郷自治区の事業で、10000枚作成しました。大変好評を得ています。歩きたくなる歴史の町の【古戦場地図】です。
- 【もっくる新城の道の駅】の、観光ブースにもこの地図を拡大した看板が掲示されています。

・もっくる新城の観光ブースの設楽原の看板➡

【新城市設楽原歴史資料館】(その1)　☎0536-22-0673

住所新城市竹広字信玄原552番地

・設楽原歴史資料館は、平成8年4月28日に開館しました。館内では、【長篠・設楽原の戦い】の解説及び【火縄銃】【火おんどり】幕末の外国奉行【岩瀬忠震】の3つのコーナーの展示がされており、特に火縄銃の収集では、およそ100挺の【日本一の火縄銃のコレクション】を誇ります。

・屋上からは、設楽原の馬防柵再現地を望むことが出来る。

・資料館の裏手には、火縄銃の玉発見地の標識【後藤玉】【高橋玉】【熊谷玉】の3本が立っています。時間が許せばあなたも歴史の発見者！玉を探してみましょう。

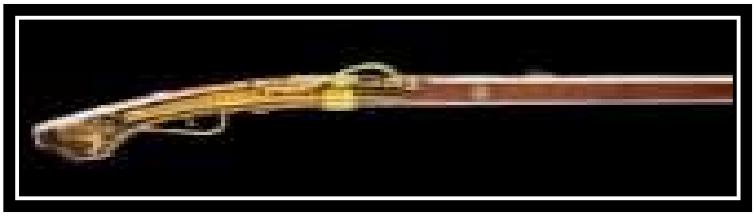
【新城市設楽原歴史資料館のガイドのポイント】:笑顔で挨拶

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄原552番地

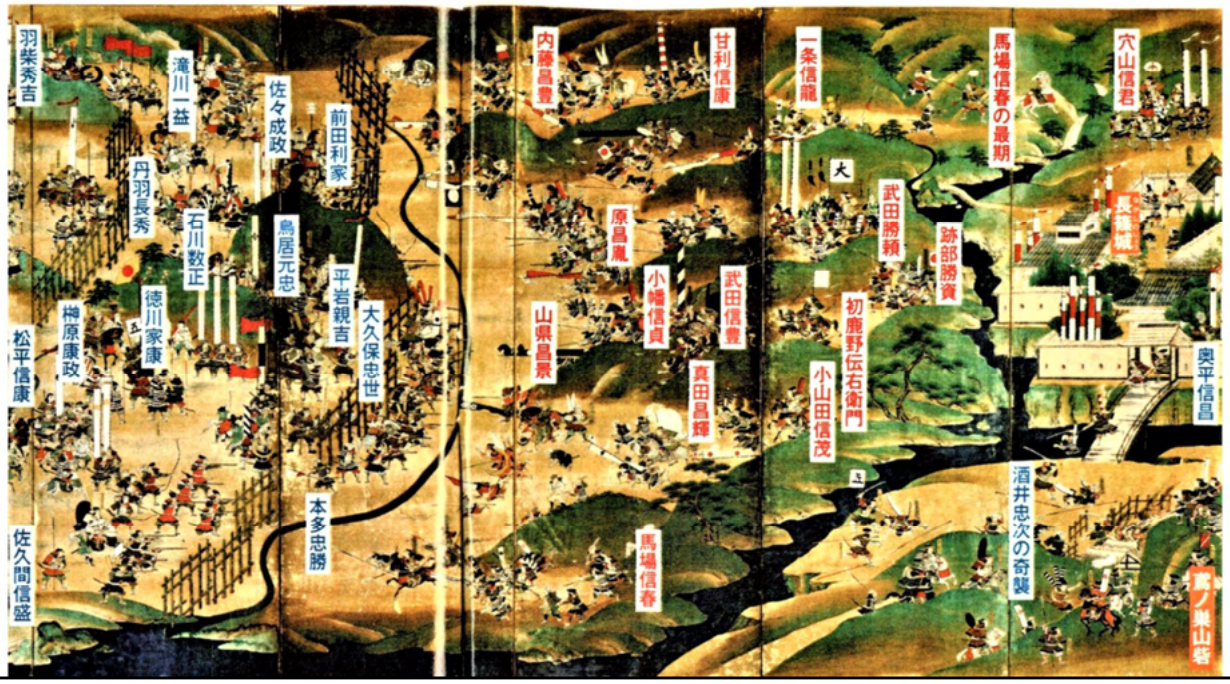
・地元の豪族設楽氏が治めていた場所(設楽原)で戦いが行われたので【設楽原歴史資料館】の名前に成りました。

・設楽原をまもる会の会合拠点として、郷土史研究会の例会、蔵のコンサートなど音楽会等、多方面に利用されています。
・設楽原決戦場まつりで、資料館前の芝生広場は、小学生の歌や踊り等で賑わいます。

・鉄砲は、全国制覇をねらう【信長・秀吉・家康】から庇護を受けて、【近江の国友】は、我が国最大の鉄砲産地に成りました。資料館内にも、国友産の鉄砲の他、多くの種類の鉄砲が展示してありますので、是非ご覧ください。



【長篠合戦屏風】・武将を書き入れた絵図



【長篠合戦図屏風のガイドポイント】:屏風の説明

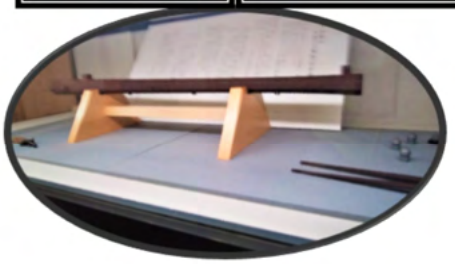
見どころ・聞きどころ　設楽原歴史資料館館内に展示

・設楽原歴史資料館内の真直ぐに進んだところに、地元の東郷東小学校の6年生が、卒業記念に美術の中山先生の指導により描いた【長篠合戦図屏風】の大作が掲げられています。
この屏風で、長篠・設楽原の戦いの概要の説明を受けます。合戦屏風には、多くの謎が隠されています。その謎を合戦屏風を見て解読します。　ポインターがあると便利です！

・長篠合戦図屏風は、現在12点程が伝わっていますが、その多くがこの屏風(犬山白帝文庫)の写本です。描写・構図の完成度は、現存する【長篠合戦図屏風】の中で最高の作品です。合戦屏風は、日本独特の歴史資料でこの【長篠合戦図屏風】で後世の人は、武田騎馬隊が、織田・徳川の大量の鉄砲により瞬時に粉砕されたイメージが、頭の中に植え付けられたと思われます。・・歴史は勝者により作られる。

・決してこの戦いがワンサイドゲームで無かったことは、武田軍の戦没者が1万人、織田・徳川連合軍が6000人とも云われる数字が物語っています。

【新城市設楽原歴史資料館】(その2)



【館内説明】

- 日本最古の伝説の火縄銃【信玄砲13匁】を見逃がすことなかれ！
- 三方ヶ原の戦いに勝利した武田信玄が三河の野田城を囲んだ戦いで、信玄が笛の名手の、村松芳休の笛の音に聞きほれて出てきた所を、菅沼家の家臣の、鳥居三左衛門が、狙撃したと伝わる、宗堅寺（新城市）所蔵の火縄銃が 展示されている。
- 武田信玄は、これが原因で体調を崩し、甲斐の甲府の躑躅ヶ埼の館に帰る途中の、信州根羽村に至る駒場で亡くなったと伝う説がある。

設楽原歴史資料館の一番の宝物はこの火縄銃だ!!

戦国時代の最古の火縄銃と伝わる「信玄砲」だ!

戦国時代の火縄銃は、日本全国に数挺しか現存しないと云われています。
その内の1挺がこれだ!

これを見逃す事無かれ!

元亀4年（1573）武田信玄が菅沼氏の野田城を攻めた時に、村松芳休の笛の音に誘われて武田信玄が出てきた所を、城兵の鳥居三左衛門が狙撃した鉄砲と伝わっています。

・信玄砲

【新城市設楽原歴史資料館】(その3)

【館内展示の信玄砲】

●新城市設楽原歴史資料館には、武田信玄を狙撃したと伝わる、日本で最古の火縄銃の一つ【信玄砲】が(1570年ごろの製造と推定)展示されています。

●元亀元年、(1572)冬、三方ヶ原で徳川家康を撃破した武田信玄は、宇利峠を越えて三河の野田城を囲んだ。年を越して正月、囲まれた野田城は中々落ちなかった。その城内から夜毎に美しい笛の音が聞こえてきた、笛の名人村松芳休の吹く笛の音であった。信玄は、その夜も闇に紛れて城に近づき、その音色に聞きいった。城内からこの様子を察知した鳥居三左衛門は、十三匁の鉄砲で信玄を狙撃した。たちまち武田軍に衝撃が走った.
……落城2月10日、信玄死去4月12日(死因はこの鉄砲説と病気説の2つがある。)
その火縄銃が新城市の宗堅寺に伝わる【火縄銃信玄砲】である。

●徳川家康から野田城の菅沼定盈に贈られたと伝わる火縄銃。台木やカラクリは失われて銃身のみ、銃身の上には「十三匁」と象嵌、銃身長105cm口径20mm

●戦国時代の火縄銃で、現在に伝えられているものは、僅かに数挺、その代表ともいえるのが【信玄砲】です。

⇒野田城趾内の看板

【野田城のガイドポイント】:信玄砲の説明

見どころ・聞きどころ　新城市豊島字本城地内

・夏のガイドは、竹藪の中ですので、蚊の殺虫剤が必用です。
・もっくる新城の道の駅から行く場合、駐車場がない為、豊橋方面に向かい【川田交差点】から、保育園前を回り込んで城址看板前で、下車し看板の内容を説明して野田城址に入ります。
・見どころとして、城内の大きな井戸、武田信玄公を、鳥居三左衛門が狙撃したと伝わる場所等が有ります。信玄公が狙撃された場所も、近くのお寺の【法性寺】境内の裏山に在ります。この戦いで、500の兵で守る家康家臣の菅沼定盈の野田城が武田軍により開城されてしまいます。
・この戦いで使用された鉄砲が、宗堅寺に伝わる【信玄砲】で現在設楽原歴史資料館で、展示されて見る事が出来ます

・野田城址の石碑

【新城市設楽原歴史資料館】(その4)
【影武者のスチールパネル】

当時の映画のチケット拡大

・三方ヶ原の戦いに続き、三河の野田城を攻め落とした、武田信玄は、不思議にもここで進軍を止め、領国の甲斐の甲府に引き返す途中の信州の駒場辺りで亡くなったとされています。（根羽村の説もある。）

・黒澤明監督の【影武者】は1980年に公開された映画で、主演は仲代達矢。信玄公の遺言にある【3年間は我が死を隠して国を鎮め候へ】を映画化したもので、この映画がヒットしたことがきっかけとなり、新城市が、設楽原歴史資料館を建設しました。影武者の撮影は、北海道で行われた為、広大な原野を駆け巡る【武田騎馬隊】とそれを迎え撃つ、強大な【馬防柵】が描かれています。映画を見られた方は、資料館の屋上から見える設楽原の遠望と比べて、 武田軍と、 織田徳川軍の戦国の雌雄を賭けた戦いの場所が 実際には【狭くて細長いウナギの寝床】のような設楽原で行われた事に驚きます。

【影武者のパネルのガイドポイント】:パネル説明

信玄怒涛の西上作戦

見どころ・聞きどころ　　**設楽原歴史資料館内展示**

・館内で、パネルを説明後、エレベーターで屋上に案内します。屋上へは、エレベーターの他に、階段で行くことも出来ます。

・パネルは、【野田城】を、武田信玄が攻撃した場面からスタートします。最後は、武田軍が馬防柵で、織田・徳川軍に奮闘する場面で終わります。映画のロケが、【北海道の原野】で行われた為、スチール写真と比べ屋上から観える【設楽原】の風景の狭さに驚かれます。

・設楽原歴史資料館屋上から、馬防柵再現地が一望できます。

決戦設楽原

【新城市設楽原歴史資料館】(その5)

【資料館屋上の説明】

・資料館の屋上へは、階段とエレベーターで上がる事ができます。武田軍が陣を敷いた【信玄台地】と織田・徳川軍の陣地の【弾正山】とその中央を流れる【連吾川】がコンクリートの床面にモニュメント風に造られている。馬防柵再現地と、織田信長が戦地本陣を敷いた茶臼山も遠くに見ることが出来ます。

【設楽原歴史資料館屋上のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広信玄原５５２番地

・羽柴秀吉の陣地の説明。新城市牛倉宗国の雁峰山の中腹で、武田軍が回りこまないように陣を張りました。
木下藤吉郎から、羽柴姓に改名されたのは、元亀4年(1573年)以降の事で、設楽原では【羽柴秀吉】として、織田軍の中核を担いました。

・地元の村人が避難した【小屋久保】の位置の説明。
・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎が、長篠城脱出の狼煙を上げた【雁峰山】の場所の説明。涼み松:のたば
・火縄銃発見の標柱の説明・【3本のコンクリート標柱】を上からのぞいて見る。
・連吾川の説明。信玄塚を上から望むことが出来ます。

【は】はたぼこと　秀吉の陣地の名を伝う・イロハカルタ

＊古戦場検定②:織田信長と徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる神社は、次の内のどこでしょう？　❶竹広八釼神社　❷大宮石座神社　❸一宮砥鹿神社

【新城市設楽原歴史資料館】(その6)

【岩瀬忠震公の銅像】

・地元設楽家の末裔の、幕末外国奉行で開国の先駆者です。アメリカの総領事ハリスとの【日米修好通商条約】の締結の日本代表でした。

・平成28年4月29日に岩瀬忠震公の銅像が、設楽原歴史資料館前に建立されました。館内にも岩瀬忠震コーナーが有り業績を顕彰しています。5つの国？との条約の締結に携わりました。5ヵ国の答え・・頭文字で【アオイフロ】です。耳寄りの話で回答

・安政の大獄で、失意のうちに亡くなりました。銅像は、資料館の地元竹広に、設楽家の竹広陣屋が在った縁で此処に建立されました。銅像が指さす方角は、忠震が提案した開港場所【横浜】の【開港記念館】を指している。

【岩瀬忠震公のガイドポイント】:岩瀬忠震公の説明

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄原552番地

・岩瀬忠震公の銅像前は、記念写真を撮る絶好のポイントです。資料館入館前に、岩瀬忠震公の説明をします。
・岩瀬忠震公は【日本の開国の先駆者】です。
・館内にも、岩瀬忠震公のコーナーが在ります。
・岩瀬忠震は、安政の【五か国条約】を締結した、新城市ゆかりの幕閣です。竹広の東郷中学の付近に、設楽家の竹広陣屋がありました。・・竹広表の戦い　☛・・設楽原もう一つの戦いページ

・アメリカの総領事ハリスとの間で、【日米修好通商条約】の調印をするなど活躍しましたが、安政の大獄で、失意の内に43歳で亡くなりました。多くの書画を残しています。
・岩瀬忠震公の銅像の指さす方向は、忠震が提案した小さな漁村・・現在の横浜の【開港記念館】を指さしています。

菩提寺勝楽寺の
岩瀬公顕彰碑と現在の横浜

【新城市設楽原歴史資料館】(その7)
【資料館周辺は桜のお花見の穴場です】

＊資料館入口ゲート付近にはシダレ桜等12本
＊資料館裏手の鉄砲玉発見地周りには8本
＊資料館正面付近には21本
＊資料館裏手の信玄塚横の高台には11本
＊信玄塚には全体で12本
＊天王山周辺には13本

:設楽原歴史資料館敷地の41本と、信玄塚と天王山周辺を含めると合計77本の桜の木が有ります。資料館屋上から観る満開の桜の花は、豊臣秀吉が催した【醍醐の花見】にも劣らない華麗さを誇ります。4月初旬が見ごろです。

【お花見のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄原552番地

・【宇宙桜】を探してみましょう！:設楽原歴史資料館から信玄塚に向かう小路の右側に在ります。武田勝頼公伝説により、武田勝頼土佐の会が植えたものです。

・武田勝頼公は、天正10年3月11日に、天目山で自刃、武田家は滅亡したと云われていますが、四国の仁淀川町では、当時の土佐の武将:長宗我部家を頼って落ち延びて、名前を【大崎玄藩尉】と変名して、この地で26年間ほど活躍して，慶長14年8月25日（1609）に、64歳で逝去されたと云われています。
・チンギスハンは義経なりの【英雄伝説】が此処にも在りました。

モンゴルの英雄チンギスハン　　**源の義経**

【新城市設楽原歴史資料館】(その8)
【火縄銃の玉発見地の標識】

・火縄銃の玉：大きさは様々です

・新城市歴史資料館の裏手に、①後藤玉 ②熊谷玉 ③高橋玉の火縄銃の玉発見地の標柱が立っている。

＊設楽原の決戦場で発見された火縄銃の玉は現在19個発見されている。

そのうちの【18個が鉛玉】です。鉄玉の融点が1500℃、銅玉が1000℃、鉛玉が320℃で一番加工が容易であったことが影響していると思われる。

・ちなみに天下分け目の徳川家康と石田三成が戦った【関ヶ原の戦い】では1発の火縄銃の玉が見つかっている。

・この場所からは、眼下に馬防柵再現地と決戦場の設楽原一帯が見渡せる。

【火縄銃の玉発見地の標識のガイドポイント】:標柱の確認

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄原５５２番地

・火縄銃の玉発見者の内訳
　・小学生4個　・地元の農家3個　・個人6個
　遺跡発掘6個　計19個の火縄銃の玉が、設楽原で発見されています。小学生発見の【高橋玉】は、課外活動で資料館に来ていた、山梨県の大和村小学校の高橋梓さんが見つけたものです。決戦の設楽原と、武田家終焉の地の大和村を結ぶ奇遇ですね！
・火縄銃の玉の発見された、最初の記録は【大正10年】頃です。
　連吾川の川沿いの畑で、当時の小学生が見つけています。
・戦い当時の、火縄銃の玉は多くは国産でしたが、火薬はほとんど【外国産】でした。大坂の【堺】が外国との貿易港でした。
　火縄銃の玉は、当時兵士が造りました、玉の径は10mm程で銃に合わせて大きさは【まちまち】です。
・令和元年5月に、資料館裏のこの場所で50人規模の発掘作業が行われ、【天正3年の5月21日】に発射された【信長玉】とおまけとして【10年前にパター練習で紛失ゴルフボール1個】が発見されました。
・このゴルフボールは、また元の場所へ埋め戻されました。NHKの粋な計らいです。400年経ればこれも立派な遺物です！

【M/T】ゴルフ玉

【武田勝頼公指揮の地の石碑】

・【武田勝頼公指揮の地の石碑】は、平成5年7月11日に、山梨県大和村特産の甲州鞍馬石の自然石で造られ、武田勝頼公顕彰会により寄贈された。会長は大和村平山村長

・勝頼は、武田軍の中央隊で指揮しました。隣には大将の武田勝頼を守り、壮絶な戦死を遂げた、内藤昌豊公之碑が【武田勝頼公指揮の碑】を見守るように並んで建立されている。

・新城市設楽原歴史資料館の横の、東郷中こども園裏駐車場(新城市八束穂字天王山)に在ります。

【武田勝頼公指揮の地のガイドポイント】:碑面の確認

見どころ・聞きどころ　新城市八束穂字天王:天王山公園奥

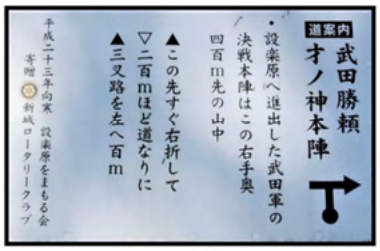
・天王山には、大きな柴山の上に、陸軍大将土屋光春書の【招魂碑】:大正5年4月30日建立と、太平洋戦争中の戦死者を祀るお墓が、武田勝頼公指揮の碑の裏側に在ります。
・設楽原まもる会が制作した、カルタ【そ】の看板が在ります。

【そ】 そこかしこ顕彰碑たてし、牧野文斎・・イロハカルタ
・牧野文斎翁は、大正3年に【長篠古戦場顕彰会】を主宰し設楽原古戦場に、11基の墓石碑などを建立しました。
信玄病院の医者で、信玄祖師導を始め，娯楽施設の花菱座や、この天王山にはよく見ると【競馬場？】の跡もあります。

・戦い当時の馬の大きさは、【ポニー】ほどであったと云われ、武田軍は、1000頭ほど、この戦に連れて来たと云わります。

・現在は、信玄病院跡は、牧野文斎記念公園になっています。

【武田勝頼公観戦地の石碑】



・武田勝頼は、長篠の医王寺から、戦況が変わるごとに観戦地を移動した。
決戦最後の戦時本陣地は、八束穂の【才の神】です。当時ここは赤ハゲ山の地名どおり、裸山で眼下に設楽原一帯の決戦場が見渡たせたと思われる。

・昭和50年5月4日に、四百年祭奉斎会により高さ100cm　幅23cmの【武田勝頼公観戦地】の石標が立てられた。ここには謎のホコラがある。

・現在は、里山の中に在り、設楽原の史跡探訪の中でも最大のわかりにくい場所です。

【武田勝頼公の観戦地のガイドポイント】：蛇に注意

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字才の神：赤ハゲ山

【あ】赤禿げに勝頼　本陣進めたり‥イロハカルタ

・八束穂の信玄の、観戦地への入り口に案内看板が在ります。それをたよりに田畑の中を進んで、三股に分かれる所の右側の道を進みます。左側の道は、林の中を【常林寺】へと向かう道です。森の中ですので数人で行くことをお勧めします。
戦い当時は、アカハゲ山の名の通り、立木が無くて、馬防柵の織田軍側が見渡せる場所でした。長篠の医王寺から、【本陣】をこの場所へ移動をして、戦況が激しくなると、武田軍の中央の天王山で、指揮を執ったと云われています。
武田勝頼公観戦地の石碑と小さな祠が訪れる人もなく、ひっそり佇んでいます。

・近くにあるはかりの宿
（個人博物館）

【織田信長戦地本陣地茶臼山】

・織田信長は、5月18日に設楽原に到着すると、極楽寺で軍議を開き決戦場の布陣を敷いた。織田信長は本陣を茶臼山に置いた。

・ここは家康が陣を張った、弾正山から1キロ強の地点で、戦況によっては何時でも戦場から離脱出来る位置です。

・『狐なく　声もうれしくきこゆなり　　松風清き茶臼山かね』・・戦いに臨んで、密かな自信の現れの句とも読み取れる歌を詠みました。

・新東名の下り線の【長篠・設楽原パーキングエリア】の隣横の位置に在り、年間多くの人が訪れる観光地になりました。ここへは、一般道の川上地区からも行くことも出来る。

【織田信長公本陣地のガイドポイント】

長篠設楽原パーキング➡

見どころ・聞きどころ　　新城市牛倉字城山：茶臼山稲荷境内

【ゐ】 絵図開き　軍議をかさねし　極楽寺・・イロハカルタ

・織田信長の戦地本陣は、決戦場の設楽原とは少し離れた位置です。この時点での信長は、最前線で戦闘をするのは、当時は、部下に任せるという立場になっていました。
極楽寺で軍議を開き、この高台の【茶臼山】に陣を敷きました。

・ここを案内するときは、新東名の下り線のパーキングは、織田・徳川軍の陣の様式で、上り線は武田軍の飾りで、沢山の見どころと、買い物も楽しむことが出来ます。
パーキング裏側から、新城の街並みを眼下に見る事が出来ます。毎年8月13日には、見晴らし台があり夏の新城【桜淵の花火】を見る絶好のポイントです。

信長

【この戦いにおける織田信長の移動経過】

・織田信長は、【長篠・設楽原の戦い】で当時日本最強とうたわれた武田軍と戦うに当たりどのような行動を取ったか。
・5月13日　信長、3万の軍勢を率いて岐阜を出発し、熱田神宮で戦勝祈願をして熱田に陣を置く。5月14日　岡崎城に到着後軍議を開く。
・5月14日　鳥居強右衛門ら長篠城からの援軍要請を受諾する。
・5月16日　牛久保に到着。5月17日　野田城に到着。5月18日設楽原に到着後、極楽寺山で軍議を開く。・・内容❶馬防柵を構築する事。❷家康配下の酒井忠次による鳶ヶ巣山の武田五砦の奇襲作戦の決行。
・5月21日　戦地本陣を茶臼山に移動。設楽原に於いて武田軍と決戦。

【馬防柵での鉄砲三段撃ちは本当にあったのか？】

見どころ・聞き所　：うなぎの寝床のような細い連吾川を確認

・馬防柵を案内していて、お客様から質問される事柄に❶鉄砲三段撃ちの事。❷織田軍と徳川軍の馬防柵の違い。❸柵木はどこから持ってきたか等の問題です。❶の鉄砲三段撃ちは、江戸時代から流布されていたようですが、馬防柵再現地に立つと果たしてこの場所で三段撃ちが可能だろうか疑問を抱きます。地元の【長篠・設楽原鉄砲隊】も幾度か三段撃ちを検証して来ました。号令が届かない点。敵を目前にしてこの動作は出来ない点。この狭い場所では3千挺の鉄砲の展開（2m間隔で6㌔の戦線）は無理との点でした。
・設楽原には、連吾川を挟んで連合軍側には3つの丘陵があります。上段、中段、下段の三段の丘にそれぞれ横一列の隊形で鉄砲隊を組織するとあたかも三段撃ちの戦術に変わります。もう1つの有力説として、玉込▸渡し手▸撃ち手との分業体制があります。❷番目は虎口（こぐち）兵士の出入り口に違いがあります。❸番目の柵木はどこから？は、地元調達が合理的ですが、それでは馬防柵を2日半で構築するには無理があります。岐阜から柵木を大量の鉄砲のカムフラージュを兼ねて兵士に持たせたと言うのが通説ですが、この戦いの謎の1つでもあります。

馬防柵

【家康物見塚】(その1)
【物見塚と山岡荘八氏揮毫の石碑】

・徳川家康の物見塚は、東郷中学の東に位置します。此処は弾正山の設楽原に張り出した小高い丘の南端にあり、最前線の【戦闘指揮所】に最も相応しい場所だと云われている。

・本陣は八剣神社に置きました。目前には連吾川が流れ、武田軍の左翼、山縣昌景隊が陣を張りました。

・設楽原の決戦の中でも、最大の激戦地と云われる【竹広前激戦地】が広がるエリアです。『徳川家康』の著者の、山岡荘八氏揮毫の【長篠役設楽原決戦場】の石碑が立っている。

【家康公物見塚のガイドポイント】:石碑の裏面確認

見どころ・聞きどころ　新城市竹広断上地内;弾正山南端

・バスで、馬防柵再現地に向かう途中に、連吾川を渡る車窓より右手遠くに見る事が出来ます。

・【ひ】日は悲し　一五七五と　武田七九・・・イロハカルタ

・此処はまさに、武田軍の主力のともいえる、武田軍左翼の山縣昌景隊と相対する場所です。設楽原の決戦の中でも、最大の激戦地と云われる、【竹広激戦地】の広がる場所です。今では、のどかな田園が広がり、その中央を連吾川が静かに時を忘れたように流れます。

・昭和41年、5月に花崗岩の角柱の、徳川家康の著者、山岡荘八氏揮毫の【設楽原決戦場碑】を、新城市郷土研究会(設楽原をまもる会初代会長の峯田十光氏)が中心になり建てました。

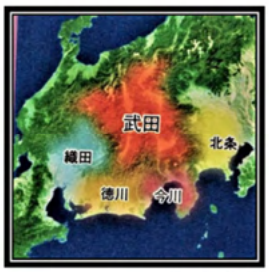
断上山古墳群の10号墳は(物見塚古墳)は、全長50m高さ6mで新城市最大の前方後円墳です。

・断上山では見事な古墳群が見られます。

【家康物見塚】(その2付近)

【連吾川と雁峰山】 151号線資料館南の交差点付近

雁峰山



決戦当時の勢力図

・この小さな小川が、【連吾川】です。
かんぼう山を源流とする全長4キロほどの豊川へ注ぐ川です。雁峰山に向かって右側が、武田軍が11の部隊の陣を張った信玄台地です。

・左翼に山縣昌景隊、中央に大将の武田勝頼と内藤昌豊隊、右翼に馬場信房隊が布陣しました。左の山が弾正山で、遠くに織田軍・近くに徳川軍が、鉄壁の陣城を築き大量の火縄銃で、武田軍を迎え撃ちました。

・新東名の橋脚が見える上に目をやると、それが鳥居強右衛門が、長篠城を脱出しのろしを上げた【雁峰山】です。

【連吾川と雁峰山のガイドポイント】:川の狭さを体感

見どころ・聞きどころ　新城市竹広字断上:連吾川竹広橋地内

【に】 日本の歴史　かえたる　設楽原・・・イロハカルタ

・当時の雁峰山(かんぼう山)は、付近の37ヶ村が入会権を持つ草山でした。現在の様に、緑で覆われた木々はありませんでした。戦後の植林で今の様になりました。

・連吾川は、雁峰山を水源地とする、【5キロ】ほどの豊川に注ぐ細い川です。弾正山と、信玄台地に挟まれたこの場所で新城市の人口(4万7，000人)以上の兵士が、壮絶な戦いを繰り広げました。

・織田信長軍3万人と、徳川家康軍8，000人
武田勝頼軍12，000人が【長篠城付城軍3，000人】が
この設楽原の狭い場所に集結しました。

＊古戦場検定③:長篠合戦屏風の中に鹿の兜で
仁王立ちしている徳川軍の武将は次の内だれか？

❶ 榊原康政　❷ 本多忠勝　❸ 平岩親吉

【家康物見塚】(その3付近)

【戦いはなぜ連吾川で行われたのか】

・設楽原の中央を、ほぼ真っ直ぐに連吾川が流れています。図の中の黒い線です。この左横には、大宮川が同じように豊川に流れ込んでいます。大宮川は蛇行が激しくのこぎりの歯のような形状をしています、火縄銃を使用する馬防柵を築くには適していません。なぜなら味方の兵士に、火縄銃の玉が当たってしまいます。

・連吾川と、この【鰻の寝床】の様な狭くて細長い【設楽原】の地形が、武田騎馬隊の動きを止めて織田・徳川の連合軍に大きな勝因をもたらした要因だとも云われている。

『長篠・設楽原の戦い鉄炮玉の謎を解く』(●点は火縄銃の玉発見地)

黎明書房

今では連吾川も、ウナギが少なくなりました。

・連吾川周辺の地図

・連吾川は、柳田川、断上川、連吾川と川の流れる村落の名前が付いていましたが、現在は総称して【連吾川】です。
こ小さな小川が、織田・徳川連合軍が弾正山に築いた、陣城のお堀の役目を果たしました。

・連吾川は、竹広の古文書によると、寛永7年(1667)に柳田付近で水田灌漑の為、上側に新川が出来ました。
豊川用水により灌漑の役目を失い、昭和になり無くなりましたが、所処に川の跡を見ることが出来ます。

【家康物見塚】(その4付近)
【竹広激戦地の石碑と供養碑】

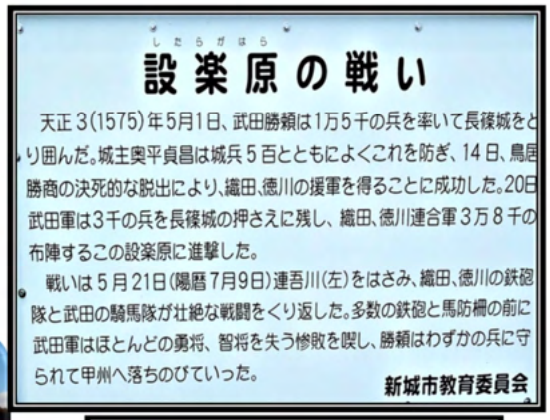
・8月15日の火おんどりの盆行事の際に、お清めをする連吾川の堤に、昭和47年に施主・東京の星野仁様により、武田方討死家臣と軍馬の供養木柱塔婆4本が建てられた。その後痛みが激しい為、平成28年秋に、地元の「連吾川の会」により新しい標柱2本が建てられた。

『故郷へ別れを告げるすべもなく』

『連吾川　共に倒れて馬がなく』

・この標柱の句は、故郷を遠く離れて、この地で亡くなった多くの兵馬の無念さを偲び読まれました。竹広激戦地の石碑も路傍に佇んでいる。

当時の馬(木曽駒)程



設楽原の戦い

天正3(1575)年5月1日、武田勝頼は1万5千の兵を率いて長篠城をとり囲んだ。城主奥平貞昌は城兵5百とともによくこれを防ぎ、14日、鳥居勝商の決死的な脱出により、織田、徳川の援軍を得ることに成功した。20日武田軍は3千の兵を長篠城の押さえに残し、織田、徳川連合軍3万8千の布陣するこの設楽原に進撃した。

戦いは5月21日(陽暦7月9日)連吾川(左)をはさみ、織田、徳川の鉄砲隊と武田の騎馬隊が壮絶な戦闘をくり返した。多数の鉄砲と馬防柵の前に武田軍はほとんどの勇将、智将を失う惨敗を喫し、勝頼はわずかの兵に守られて甲州へ落ちのびていった。

新城市教育委員会

【竹広激戦地のガイドポイント】:看板説明

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広地内

火おんどりの安全祈願のお清め➡連吾川

【ぬ】　ぬかるみに　馬も　しりごむ　連吾川・・・イロハカルタ

・竹広陣屋跡から東郷中学校へ、向かう連吾川の道路の橋のたもとの片隅に設楽原の戦いの説明看板が在ります。

・竹広激戦地の石柱が立つこの下が、連吾川です。
此の場所では【火おんどり】の行事でのお清めが行われます。
毎年8月15日のお盆の夜、竹広の【火おんどり保存会】 の面々が、この連吾川の場所で【水ごおり】を行い身体を浄めて、火元峰田家より、信玄塚の火おんどり会場へ歩いて向かいます。

・火元の峰田家でお神酒を頂き、火おんどりの戦没者の慰霊の火祀り・・【火おんどり】が始まります。

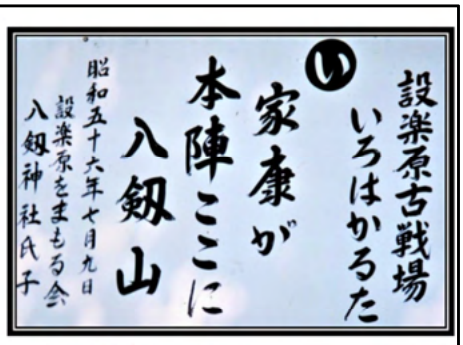
・軍馬の供養塔は、全国的にみても珍しい塔です。

火おんどり道行き➡

【徳川家康本陣地】(八剱神社)

・徳川家康が戦地本陣を置いた、八剱神社は、東郷中学の西門の位置に在ります。創立年月日不詳古来より八剱大明神と称され祭神は【剱若御子天神】

・この地の領主は、慶長6年から再び設楽市左衛門になる。明治元年八剱神社と改名。ここは弾正山の最西の場所で、設楽原古戦場イロハカルタ【い】【家康が本陣ここに八剱山】の看板が在る。



【八剱神社のガイドポイント】:中学の馬防柵のフェンス確認

徳川家康公☞

見どころ・聞きどころ　新城市竹広字宮川172番地

【た】 たぐいなき　騎馬隊　倒す　三千挺・・・イロハカルタ

・もっくる新城の道の駅から、バスで馬防柵再現地への、大宮交差点を右折した所で、八剱神社が目の前に現れます。

・八剱神社は、竹広地区と大宮地区の一部の【鎮守】の森で、春と秋には、村祭りが行われます。昔は村芝居も盛大に行われました。

・戦い時、徳川家康と織田信長は、弾正山の裏手側の窪地に大軍を隠して、いざ戦いが始まると、新手の兵士を次々に、前線に繰り出し、武田騎馬隊を悩ましたと云われています。

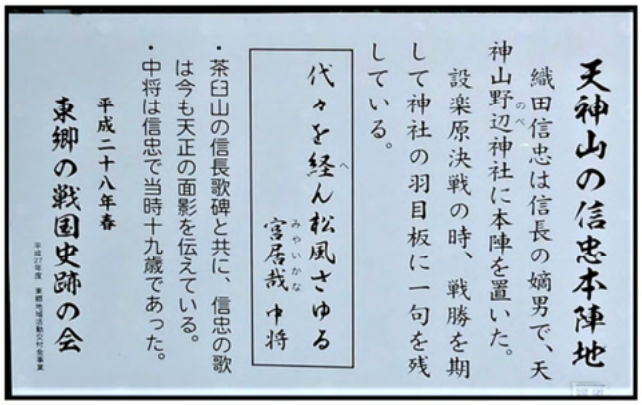
・この八剱神社周辺には、徳川家康軍の大軍が展開していました。

村祭り➡

演目:国定忠治
愛染かつら

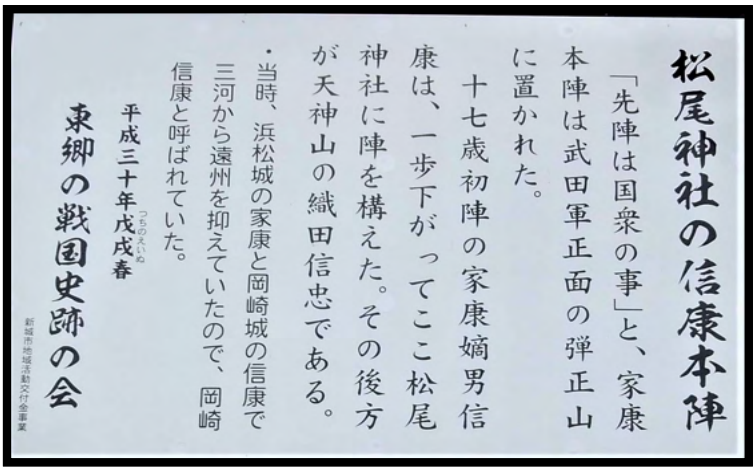
【織田信忠本陣地】・新城市富永字西田野辺神社

・信長は、嫡男織田信忠（20歳）に河尻秀隆をつけ、後方隊として天神山野辺神社に織田信忠の本陣を置いた。



【岡崎信康本陣地】・新城市富永字松尾山

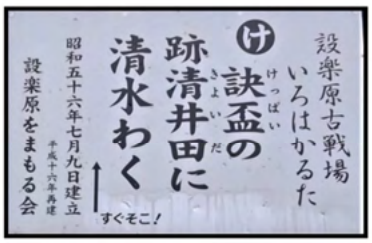
・家康は、嫡男岡崎信康（17歳）に信長本陣から2キロ先に後方隊の先鋒隊として、石川数正・平山親吉を付け松尾神社に本陣を置いた。織田信長に後詰を依頼した関係上陣地は、信長の前面の位置です。



・織田信忠
岡崎信康は、
信長・家康
の嫡男です。

【武田諸将訣盃跡】（清井田に2箇所）清井田　八束穂字清水ヶ入

・武田軍が、長篠城から決戦の地を目指して進軍し、丘を越えた場所が、清井田の地です。ここは、新東名高速道路により大きくロケーションが変貌した。道の駅【もっくる新城】ができて　、新城インターのランプウエイにより、清水寺の井戸も当時の面影がありません。大正三年に建てられた【武田諸将訣盃の跡】の石碑が僅かに想いを偲ばせます。

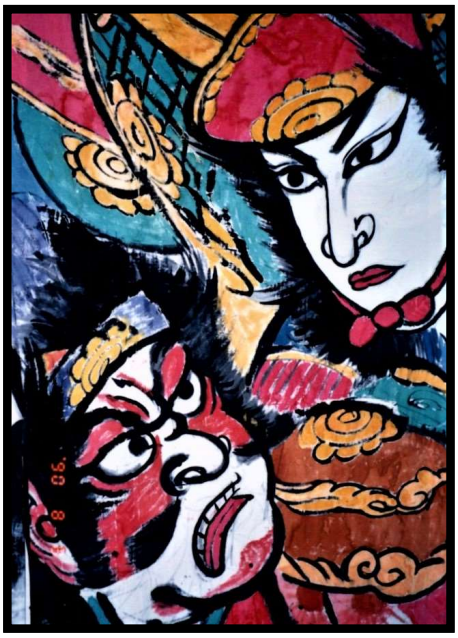


【武田諸将訣盃跡のガイドポイント】：井戸を探してみましょう！

見どころ・ききどころ

・武田4将の馬場信房・山縣昌景・土屋昌次・内藤昌豊が、明日の決戦を前に、戦の場所を見置き、清井田の清水湧き出る泉に集まり、今生の名残の決別の水盃を交わした場所です。

・武田4将は武田家の為に命を捧げました。武田4将の生きざま精神を現代に伝えたいと思います。

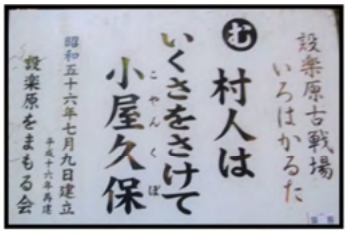


・いかだカーニバル
耕雲弥栄号の船の武将旗

【小屋久保と戦いの目撃者】新城市出沢七久保・・

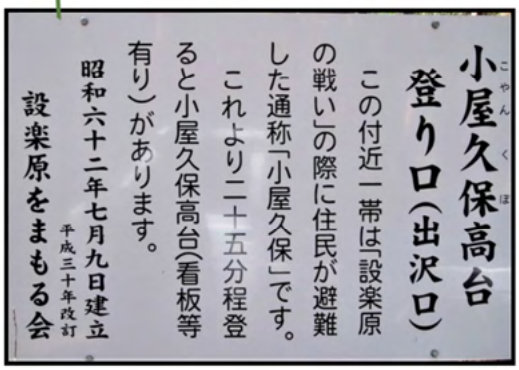
調査のなかで山中で多数の鹿に遭遇

【む】 村人はいくさを避けて小屋久保・・イロハカルタ



・戦いの戦火を避けて、戦場に住む多くの人が、かんぼう山の中腹の【小屋久保】に避難していた。今でこそ杉林で決戦場の設楽原はあまり見えませんが、戦い当時は草刈山で戦場の様子か一望できたと思われる。住民がかたずを飲んで目の前の闘いの成り行きを見た事でしょう。

・【山縣昌景が九度に渡り馬防柵に突と】・・【長篠の戦い】の文献の多くに、まるでその場に居合わせたかのように武将が登場し、戦いのむごさを伝えます。長篠合戦屏風の志村又右衛門と山縣昌景の構図描写のリアルさにも繋がっているように思える。戦が終息し帰路につく村人の胸中は、如何ばかりかと想像します。



【小屋久保のガイドポイント】:出沢七久保

雁峰山中腹(小屋久保)が狼煙を上げた場所付近

見どころ・聞きどころ　決戦場まつり➡

平和祈願狼煙隊

・この場所へは、花の木公園の近くの、七久保から林間を行く方法と、本宮山中腹と、中央からは【長篠・設楽原パーキング】からの方法の3通りがあります。

・いずれも雁峰山の林の中を、車で走行する事になります。

・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎重正が、のろしを上げたと伝わる【涼み松】と、【のたば】の史跡があります。

・信長と家康への謁見後の帰り道が、二人の運命を分けました。

・鳥居強右衛門は、長篠城外の篠場野で磔刑になりました。君命に殉じた、強右衛門の潔さは武士の手本と持てはやされました。

・鈴木金七郎は、武士を捨てて、作手の田代へ帰農しました。

【ら】来援を　見届け　金七郎帰農する・・イロハカルタ

【もう一つの村人の避難場所：万人ヶ入り】

村人はいくさを避けて万人ヶ入り

・戦いの戦火を避けて、戦場に住む大海と有海の多くの人が、【万人ヶ入り】に避難していた。

・当時此処からは、長篠の籠城戦の様子が間近に見えた位置で、戦場の様子が一望できたと思われる。戦いを避けて避難した多くの住民が、不安の中で身を寄せあっていた。

・今でも看板が立つ此処からは、大海の街並みの向こうに、決戦場の長篠と有海原が広がる。

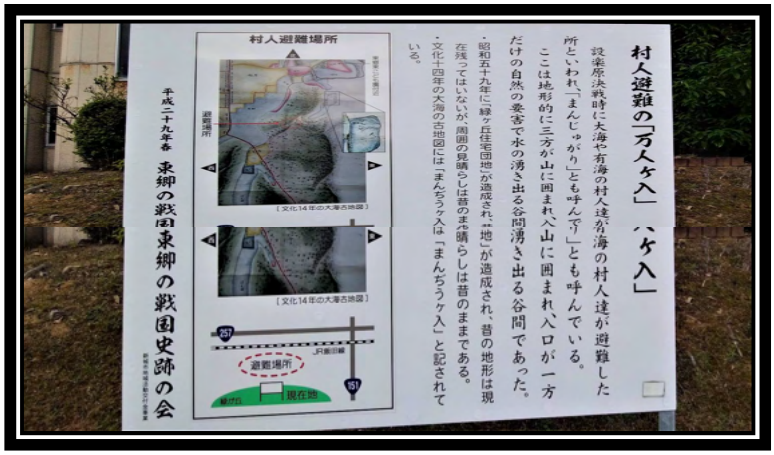
【万人ヶ入りのガイドポイント】：看板の裏へ廻る

大海の放下踊り（8月14・15日）➡

見どころ・聞きどころ　新城市大海緑ヶ丘

・大海地区の緑ヶ丘の、大仙研修棟の前に【万人ヶ入り】の看板が在ります。その裏側に回ると素敵なロケーションが目の前に現れます。

・この高台からは、当時、長篠城の籠城戦の舞台の、戦場になった【有海原】と【長篠城】が見渡せたと思われます。大きな窪地もあり身を隠す場所もありました。



・連吾川の土手沿いに在るホタル保護の看板

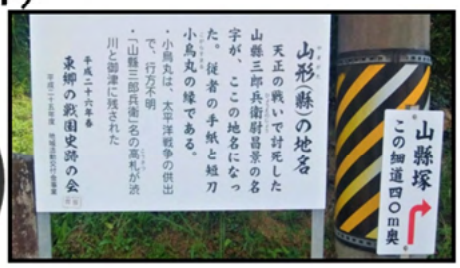
【山縣三郎兵衛昌景公の塚】(その1)
設楽原に倒れた戦国の武人たち

『武田信玄公以来の宿将』

・山縣昌景の赤備えの隊は、勇猛果敢な部隊として恐れられました。

・昌景は武田四天王の一人で、馬防柵への突撃で、徳川家康の被官大阪新助に、兜の眉廂深く討たれ命を落とし、家来の志村又右衛門が、主人の首級を抱えて戦場から去る様子が【長篠合戦屏風図絵】に描かれている。

【火おんどり坂】の途中に、山縣甚太郎昌次、名取又左衛門、高坂又八郎と共に4名の墓が寄り添うように祀られている。お盆の【火おんどり】の種火の【道行】は、この墓前に参り坂を上り切った山形畑で多くの松明に点火される。



【山縣昌景公の塚のガイドポイント】:火おんどりとお墓の説明
見どころ・聞きどころ　新城市竹広字山形498番地

・山縣昌景は、黒地に白ききょうの旗印で、馬防柵を築き待ち受ける、徳川家康の大久保忠世・忠助兄弟に果敢に、騎馬で突撃を計り奮戦しましたが、最後は力尽きました。
・墓の中央の【山縣墓】と彫られた碑は、江戸時代の三河絵図の中にも描かれています。
・墓の左のお墓は，大正3年に、長篠の戦い顕彰会により建立された物です。
・歴史資料館から、もっくる新城道の駅に帰る途中に墓参として立ちよります。山梨県からの方は、此処で武田節を一緒に合唱して参拝して往時を忍びます。武田慕情もあります。
・この場所では、火おんどりの火元の、【当時の庄屋】峰田家のお話をします。戦い直後から火おんどりの【火】の採火は、峰田家が執り行って来ました。

・山梨県天澤寺の扁額と山縣昌景公墓➡

・小浦宗光住職様から4名のガイドが説明を受けました。

【山縣昌景公の塚】(その2付近)
【黒畑阿弥陀堂】

・設楽原の決戦で、武田四天王の【山縣三郎兵衛】が、九度に及ぶ馬防柵への突撃で、蜂の巣のように銃弾を浴びて落馬した時、従者志村又右衛門が、主人を助け路傍に在ったお堂に入り、介抱したがその功も無く命を引き取ったため、やもなく首級を戴き、遺骸に短刀【小烏丸】と供養を頼む置書を残して立ち去ったと云われている。

・そのお堂を【黒畑阿弥陀堂】と云い毎年8月11日の夕刻、川路勝楽寺の住職をお迎えし、お施餓鬼が戦い直後より行われている。

・昭和53年に、鎌倉時代の作と伝わる本尊の黒畑阿弥陀仏と観音菩薩が盗難にあい、現在は弾正組の菅沼弥一氏が作られ寄贈された阿弥陀像と観音菩薩像が祀られている。

【黒畑阿弥陀堂のガイドポイント】:小烏丸の説明

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広字山形546－1番地

・市道竹広須長線の、設楽原歴史資料館途中の、信玄塚へ向かう坂道に在ります。

・山縣昌景公が、最期に従者の志村又右衛門に託した短刀【小烏丸】は、第二次世界大戦後に、米進駐軍の武器の徴収で接収され行え不明になりました。惜しい事をしました。

・この奥の小径を歩いて林間を【3分程】進むと、【設楽原歴史資料館】の裏側に到着します。火縄銃の玉発見地の3本の、コンクリート柱に出会えます。

行政・外交・軍事面の中心的人物

山縣三郎右兵衛尉昌景

(?～天正3年5月21日)

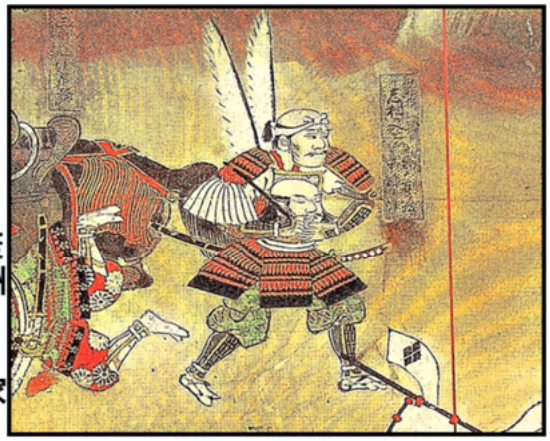
【山縣昌景公の塚】(その3)関連資料

【長篠合戦屏風】は日本独特表現による歴史資料です。

・犬山城白帝文庫所蔵の六双の屏風は、城主成瀬正一が描かせた絵図と伝わる。長篠合戦屏風はこのほかにも数点存在しますが、多くはこの成瀬家の物が原図に成っている。

・長篠合戦屏風は、犬山成瀬家本の他現在8点ほどの存在が確認されている。

・右の絵はその一部で、山縣昌景の家臣志村又右衛門が戦死した主人の首級を、小脇に抱えて自軍に帰る場面です。平成30年5月28日放映の、NHKファミリーヒストリー【志村けん】では仰天のルーツが明かされた。志村家は、甲州武田家の家臣で『天正壬午起請文』の資料の中に、徳川家康に降った武田の志村又右衛門が、天正10年に甲州街道を護る重要な任務を与えられ東村山へ移住したことが書かれている。これらの関東へ向かった志村一族が志村けんの先祖！ルーツなのか？志村家総本家は29代続き、分家である志村知之(けんの兄)様も18代続く名家です。



【長篠合戦屏風のガイドポイント】:首級の行くえ

見どころ・聞きどころ　昌景公ホームページ

山縣昌景公子孫　椚　孝信氏　製作

・山縣昌景は、武田信玄の嫡男、武田義信の重臣飯富虎昌の弟で、当初は【飯富源四郎】と名乗っていましたが、義信の謀反に連座して、虎昌も処刑されたのを機に、山縣家の名跡を継、駿河、遠江、三河衆の統括をになっていました。

・山縣昌景公には、八人の子息があり、嫡男の【甚太郎】はこの戦いで壮絶な最期を遂げましたが、武田勝頼の死後、各地に落ちのびて、それぞれの地で活躍しています。平成10年10月佐世保の山縣泰彦氏により、山縣塚一帯の墓苑が大きく改築され整備されました。最近では、藤沢の山縣雅武氏の皆様も、この地を訪れ慰霊され、【火おんどり】の盆供養の行事も見学されています。

故　志村けん氏
本人も驚く戦国との繋がり
令和2年3月29日コロナ禍で他界されました。

【山縣昌景公の塚】(その4)関連資料

【山縣昌景公の最期】‥黒畑阿弥陀堂　445年目の緊急速報！！

【長篠合戦屏風図絵】の正に圧巻と称されるのが、山縣昌景の落馬と、昌景公の首級を抱いて戦場を離脱しようとする、被官志村又右衛門を描いた場面です。山縣昌景の討ち死の状況を説明する通説の集約版と云えるものがこの屏風図絵(記述)です。志村又右衛門光家もあっぱれの武士といえます。

＊敗戦の中、苦労を重ねて天澤寺に辿り着いた事を思うと戦国の武士道です。

＊長篠古戦場見聞録には、『山縣の首級は、竹広村黒畑阿弥陀堂下に在り、程経て尋ねだし首実検に入れしといえども取留め不申』とある。

【山縣昌景公の被官志村又右衛門が、主君の頸を挙げて甲州に帰る。】

竹広付近の伝承では、首級は志村がもち帰って、徳川には渡さなかった。

‥‥【昭和40年9月峯田十輔氏:鳳来町誌‥長篠の戦い編より】

＊最近になりこの【首級】の行くえは、御子孫の山縣雅武氏のお話と写真で故郷の山梨県の、菩提寺の天澤寺に手厚く葬られていたことが解りました。

山縣昌景公の首級は、決戦の設楽原から山梨県天澤寺へ！

【信玄塚【火おんどり】の歴史】 愛知県指定無形文化財

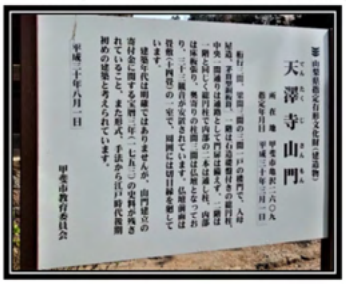
・毎年8月15日の夜、火元の峰田家を出発した【鐘】・【太鼓】・【笛】の行列は、火おんどり坂の途中にある【山縣昌景公の墓】にお参りして、信玄塚に繰り込みます。戦い直後から、戦時中の灯火管制の中でも連綿と行われてきた鎮魂の盆供養です。

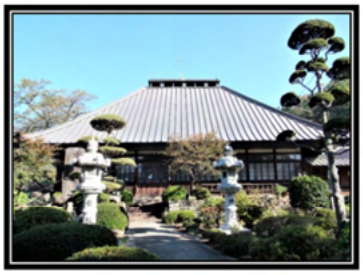
・昭和０６年　信玄塚で盆踊りが始まり現在迄続いています。
・昭和１０年７月９日　山梨県人の【長篠古戦場見学団】来訪さ
・昭和１０年８月　竹広の森谷広三郎は【信玄塚の由来】を刊行した。
・昭和１１年８月　松竹で、火踊りがニュース映画で放映された。
・昭和１３年５月　山梨県人により【宝篋印塔】が建てられた。
・昭和３１年３月　【韮崎市新府城】へ武田将士の英霊が分骨された。
・昭和３４年９月　伊勢湾台風により大松・小松がダメージを受けた。
・昭和４０年５月　火おんどりが、県の指定無形文化財に指定された。
・昭和４９年８月　福来寺・広全寺の前亡僧の墓石を改築した。
・昭和５０年２月　【四百年祭供養塔】が建立された。
・令和０２年１１月　大松・小松がまつくい虫の被害で枯れ死した。

・彼岸花の体内時計は正確で、お彼岸の開花時期をたがえたことがありません。

【山縣公の首級を訪ねて山梨県天澤寺に行って来ました】

・天澤寺山門と石垣に残る桔梗の山縣家の家紋





・首級は無時従者志村又右衛門により、遠く離れたふるさとの甲斐の国に持ち帰られ菩提寺の天澤寺に祀られていました。設楽原をまもる会の初代会長の（故）峯田十光氏の著書『柿の種』にも首級の行くえを心配した記述がありましたが、故山に帰れたことが分りこれで安心されたことでしょう。

天澤寺の古くからの山縣公墓と新しい山縣昌景公のお墓

位牌

【住職の小浦御夫妻と、山縣昌景公の子孫：山縣雅武氏らが私達を出迎えてくれました。】
444年目の慰霊法要を営んで頂き、私達も御霊前に手を合わせて来ました。

天澤寺住所：山梨県甲斐市亀沢2609番地

【岡部竹雲斎の塚と岩手左馬之助の塚】
設楽原に倒れた戦国の武人たち

・お墓は、金子蕃山の『蕃山随筆』に【血洗池】に面したる所に在りと書かれていることから「設楽原をまもる会」は【首洗池】に面した西北の高台に二基を建立した。

・岡部竹雲斎は、どこの武将か定かではない。戦死の説もいろいろな説がある。岩手氏は清和源氏に発し、笛吹川の中流右岸の岩手郷を領したことにより岩手を名乗った。

・お墓の近くに、火縄銃の玉発発見の【本田玉】の標柱が立っている。

【岡部竹雲斎と岩手左馬之助のガイドポイント】:坂を滑らないよう注意

見どころ・聞きどころ　新城市竹広字山形:首洗い池西北

・首洗い池から、後ろに目を向けると畑の土手に石塔を見る事が出来ます。秋には彼岸花が咲き誇ります。此処へは、細い坂道を気を付けて上がります。首洗池のベンチで休憩を取り、さあ元気に出かけましょう！戦国の【ロマン】を求めて！

・【本田玉】の、火縄銃の玉発見の標柱もその直ぐ近くに在ります。

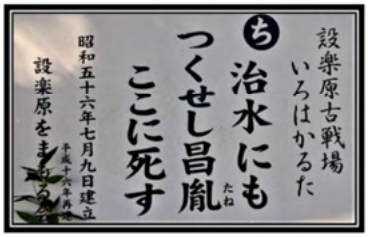
ようこそ火おんどりの里へ

信玄塚の閻魔大王は、ふるくより厄除と病魔退散のえんま様として地元に篤い崇敬を頂いております。お参りすれば日頃の非を許してもらえる上に、毎年８月１５日の『火おんどり』の火の粉を浴びた者には、特に夏病の治癒とぜん息など喉の病気に霊験あらたかと云われております。

・資料館石垣の
火おんどりレリーフ

【原隼人佑昌胤（まさたね）公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



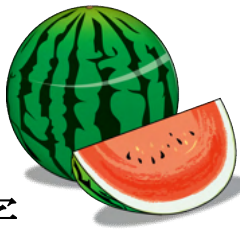
・武田家譜代の重臣で、代々陣場奉行の要職を務め、地理に精通し、陣立て等の資料を作成しました【44歳】で、徳川軍との激戦の末この地で戦死。

・現在、望月家の畑中に在りますが、畑の横の農道が、当時の幹線道路で【信州往還】です。この道を大勢の人馬や荷車が行き交っていた。

・火おんどりの【3本の種火】も、火元の旧庄屋の峰田家を出発して、火おんどり坂を進み、途中山縣三郎兵衛昌景公の墓前に参り、鐘・太鼓、笛・松明の順に行列を組んでこの畑の前の道を進み、信玄塚に繰り込みます。・・【道行】

【原昌胤公のガイドポイント】:畑には入らない

見どころ・聞きどころ 新城市字山形望月家畑中



・原昌胤公のお墓は、信玄塚の南西約100㍍の新城市竹広字山形537番地の3の平な畑中に在り、信玄塚の、小塚付近より見える位置に在ります。
・原昌胤家は、代々武田の譜代の重臣であり、【陣場奉行】の要職を務めていました。
・畑の横の、山縣昌景公墓に、真直ぐに伸びる細い農道が、戦い当時の幹線道路の【三州街道】です。
・この、長篠・設楽原の戦いの【戦目付】は、武田軍は、跡部勝資で、徳川軍は、本多忠勝だと云われています。

・山縣公墓に向かう当時の街道➡
現在は農道・信玄塚小松より

【内藤修理亮昌豊公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・武田信玄公以来の、武田四将の老臣の一人で、上野箕輪城代の内藤昌豊隊は、武田軍の中央隊長として、1500の兵士を率い天王山に布陣して、陣地を保持するために、連吾川沿いの、柳田前激戦地に6度打って出て、激しい戦いを展開したと伝わる。

・戦況不利と見て、大将の武田勝頼公に戦線離脱を進め、この地で壮絶な最期を遂げました53歳でこの地で戦死。

・平成十年に、設楽原まもる会は、内藤昌豊公の墓碑近くに【横田備中守綱松之墓】を建立した。

【内藤昌豊公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字天王：天王山公園奥

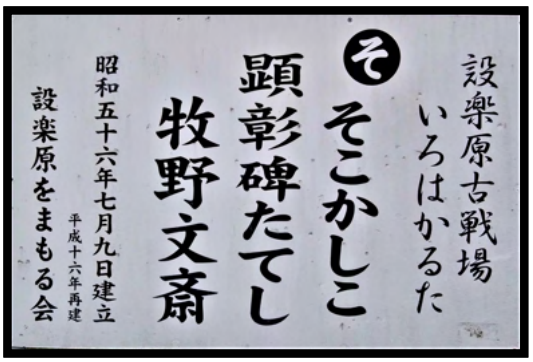
・お墓は、資料館前の道路を隔てた、中こども園の、天王山広場の奥まった【武田勝頼公指揮の地】の石碑奥に在ります。お墓の横には、設楽原をまもる会制作のイロハカルタ【な】の看板が立っています。

【な】内藤の　陣地も墓も　天王山・・イロハカルタ

・内藤昌豊は、【信虎・信玄・勝頼】の三代に仕えた老臣の一人で、信玄に重く用いられました、弓矢の名手として活躍して、織田・徳川軍の馬防柵を破るなど烈しい戦いを展開しました。

・『本多忠勝家武功聞書』によれば、内藤昌豊の兵二十余人が、第三の柵を乗り越え押し込んで来た記述があります。

・内藤昌豊公の年齢は、書物により54歳、60歳とも伝わります。

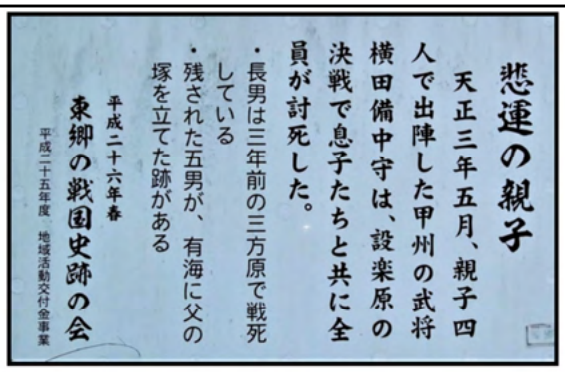


【横田備中守綱松公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・武田信玄:武田勝頼に仕え16歳で初陣、数々の戦功を立てるも、この戦いで51歳で戦死。書物に親しみ大変な物知りであったと伝わる。横田家は【長篠・設楽原の戦い】で、4人が戦死し、故郷の甲斐の国には誰も帰れなかった。5人の息子の内、長兄は3年前の三方ヶ原の戦いで亡くなり、続く3人は父と共にこの戦いで討死している。

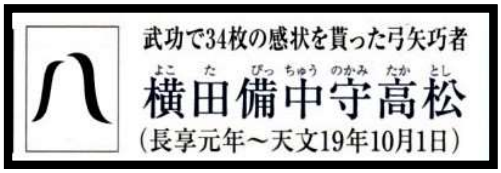
・・綱松の妻は、無事全員が帰ることを信じて出陣を見送った。



【横田備中守綱松公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ新城市八束穂字天王：天王山招魂碑西側横

・横田綱松公の塚は、天王山の招魂碑の築山の裾の、武田勝頼公指揮の碑の横に在ります。塚の後ろには、昭和43年3月に建立された、東郷地区の太平洋戦争の戦没者の慰霊碑が在ります。
その碑の中にも、出征した兄弟3人が誰も帰れなかった家が4軒あります。 ☞ 東郷地区戦没者慰霊碑



【米倉丹後守正継公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

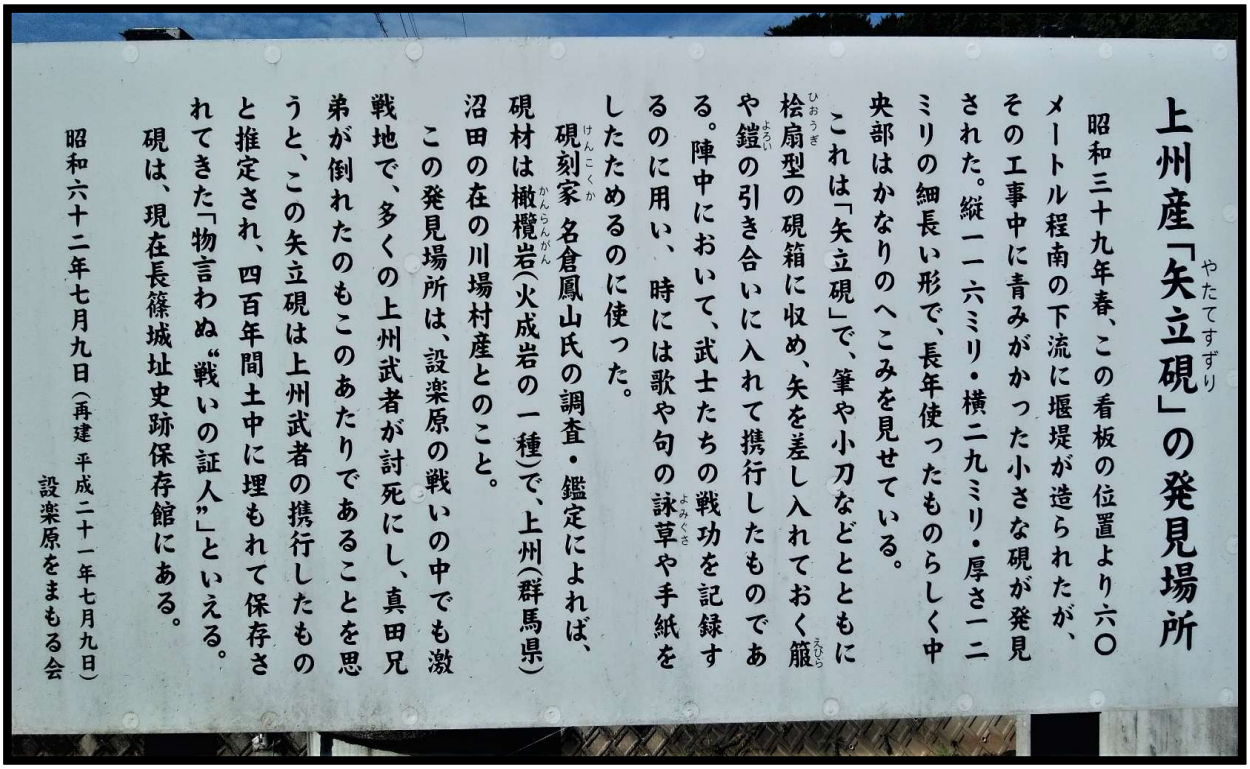
・米倉家は、清和源氏に発し、新羅三郎義光の曽孫を祖としていて、武田家とも深い関係がある。武川衆を束ねて、軍法工夫の記録も多い。

・『**藷山随筆**』の塚の位置からして、米倉丹後は織田陣馬防柵を敵中突破して、名誉の討死した。墓地は、現在新東名高速道路が【**塚**】の頭上を通過している。

【米倉丹後守正継公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　新城市大宮字長頭貝津：連吾川上流右岸

・塚は、東郷東小学校の裏門から、丸山砦跡を右手に見て、連吾川を越えて、細い十字路を右折し200㍍にあります。
塚の途中の連吾川土手に立つ【**物言わぬ戦いの証人**】の看板



上州産「矢立硯（やたてすずり）」の発見場所

昭和三十九年春、この看板の位置より六〇メートル程南の下流に堰堤が造られたが、その工事中に青みがかった小さな硯が発見された。縦一一六ミリ・横二九ミリ・厚さ一二ミリの細長い形で、長年使ったものらしく中央部はかなりのへこみを見せている。

これは「矢立硯」で、筆や小刀などとともに桧扇（ひおうぎ）型の硯箱に収め、矢を差し入れておく箙（えびら）や鎧（よろい）の引き合いに入れて携行したものである。陣中において、武士たちの戦功を記録するのに用い、時には歌や句の詠草（よみくさ）や手紙をしたためるのに使った。

硯刻家（けんこくか）名倉鳳山氏の調査・鑑定によれば、硯材は橄欖岩（かんらんがん）（火成岩の一種）で、上州（群馬県）沼田の在の川場村産とのこと。

この発見場所は、設楽原の戦いの中でも激戦地で、多くの上州武者が討死にし、真田兄弟が倒れたのもこのあたりであることを思うと、この矢立硯は上州武者の携行したものと推定され、四百年間土中に埋もれて保存されてきた「物言わぬ“戦いの証人”」といえる。

硯は、現在長篠城址史跡保存館にある。

昭和六十二年七月九日（再建 平成二十一年七月九日）
設楽原をまもる会

【小幡上総介信貞公の塚】

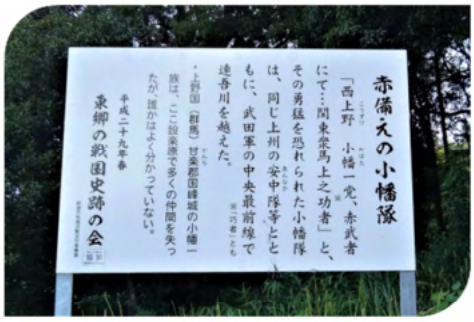
設楽原に倒れた戦国の武人たち

・小幡上総介信貞は、上野国甘楽郡国峰城主憲重の子6人兄弟の長男であり、家来を率いて、連吾川や馬防柵前で奮戦した。小幡勢の騎馬500騎は、鎧も、旗指物も、馬具も赤く染められた【赤備え】でした。35歳で戦死

・【設楽原をまもる会】は、平成9年3月『金子蕃山随筆』の記録をもとに、黒畑阿弥陀堂の奥まった、連吾川や馬防柵再現地が見える地に建墓した。

・【赤備えの小幡隊】として勇猛さを恐れられた。上州の安中隊とともに、武田軍の中央最前線で戦った。

・安中城主：安中景繁は、150騎で参戦したが、城主以下全員が討ち死にし帰郷した記録が無い。誰も古里へは、戻ることはできなかった。



【小幡信貞の塚のガイドポイント】

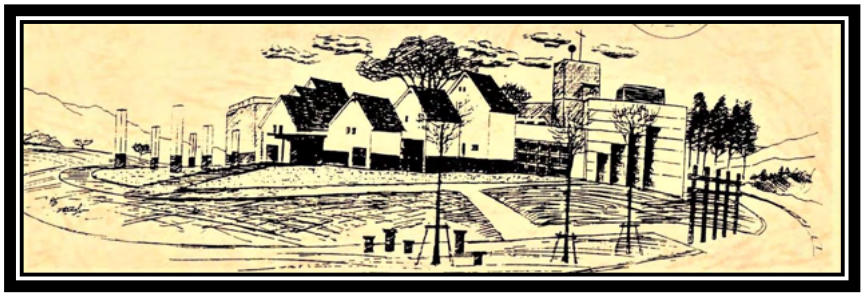
塚は黒畑阿弥陀堂の裏側➡

見どころ・聞きどころ　新城市竹広字山形５４６番地

・小幡塚は信玄塚から竹広の段上集落への、下り坂の途中の【黒畑阿弥陀】の30㍍奥に在ります。ここは、設楽原歴史資料館の第三駐車場になります。

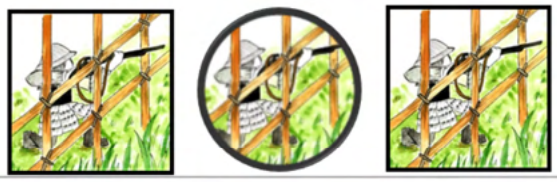
・ここからは、設楽原の馬防柵周辺が、右前方に見渡すことが出来ます。
・【東郷の戦国史跡の会】の看板で、武将の足跡を訪ねて下さい。
・お墓の横の細い山道を上がると、3分で3本の火縄銃発見の標柱と、設楽原歴史資料館の裏側に続きます。

・<u>設楽原歴史資料館</u>
<u>スケッチ画</u>



【甘利信康公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち



・甘利信康公は、山梨県韮崎市甘利郷の甲斐源氏の流れをくむ家柄で、代々武田氏の重臣であったと云われている。

・山縣昌景隊と共に、武田軍の左翼隊として戦い、武田軍退却となり立ったまま【無念の切腹】をしたと云われる。

【雄々しく立腹さばく甘利信康】の句看板

・大正3年に長篠古戦場奉賛会は、高さ115cm、幅97cmの【甘利郷左衛門尉信康之碑】を建立した。

・柳田橋東の交差点に在り、馬防柵再現地が前方に見える位置です。

【甘利信康公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字天王：柳田の辻

・甘利塚は、設楽原歴史資料館から、馬防柵再現地に向け坂を下った交差点の右側の位置に在ります。

・山梨県の甘利郷には、武田家発祥の【武田八幡宮願成寺】が在ります。このお寺は、ノーベル章の受賞者の大村智博氏の菩提寺でもあります。甘利信康は、設楽原の戦いでは、武田軍の左翼隊に属し、天王山の麓のダンドウ屋敷付近に留まり奮戦むなしく、頼みの村人が馬防柵の手伝いに従事し、たことで無念の立腹切腹をしたと伝えられています。

甘利信康公塚➡

・柳田橋近くの本多プラス㈱竹広倉庫大きく古戦場の看板が張られています。

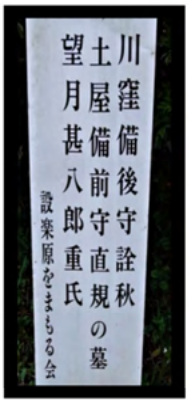
【柳田の常林寺の3名の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・八束穂の柳田集落の【常林寺】境内の裏手に、川窪備後守詮秋・土屋備前守直規・望月甚八郎重氏の3名の武田武将の塚が在ります。

・ここは、連合軍が築いた馬防柵の、真正面の柳田激戦地になります。ここからは、再現された馬防柵が一望できる。

川窪・土屋・望月の3武将は、武田軍の最後の配陣に、何れも中軍に属し天王山下に陣取り織田軍の主力と悪戦苦闘の末、主君の武田勝頼の退却の報に接して潔く討死したと伝わる。



【もう一つの設楽原の戦いのガイドポイント】

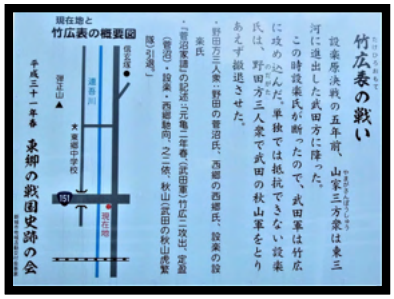
柳田橋の欄干

竹広表の戦い・・現在の東郷中学辺り

・天正三年の設楽原決戦の四年前、【設楽原の戦い】ともいえる【竹広】の戦いがありました。【竹広表の戦い】・当時、徳川氏への帰属を鮮明にしていた豊川三人衆（牧野文斎氏提唱）と武田方の三河先遣隊の秋山信友軍が、竹広で衝突した戦いです。

・秋山軍と戦った豊川三人衆は、【野田城の菅沼新八郎定盈】【川路城の設楽越中守貞通】【石巻西川城の西郷弾正清員】と甥の西郷義勝の三氏でした。・戦になった事情は、【田峰の菅沼】【作手の奥平】が武田方になったが、この豊川三人衆が徳川方のままであった事から攻撃された。三氏が協力して戦ったので、秋山軍は早々に竹広を去った。この戦いで応援にかけつけた、西郷義勝が討死した。義勝の夫人が徳川家康の側室となり、のちの西郷局（通称お愛の方です）2代将軍秀忠の生母です。

・竹広陣屋近くに立つ竹広表の戦いの看板➡



【高森恵光寺快川公の塚】

けいこうじ

設楽原に倒れた戦国の武人たち

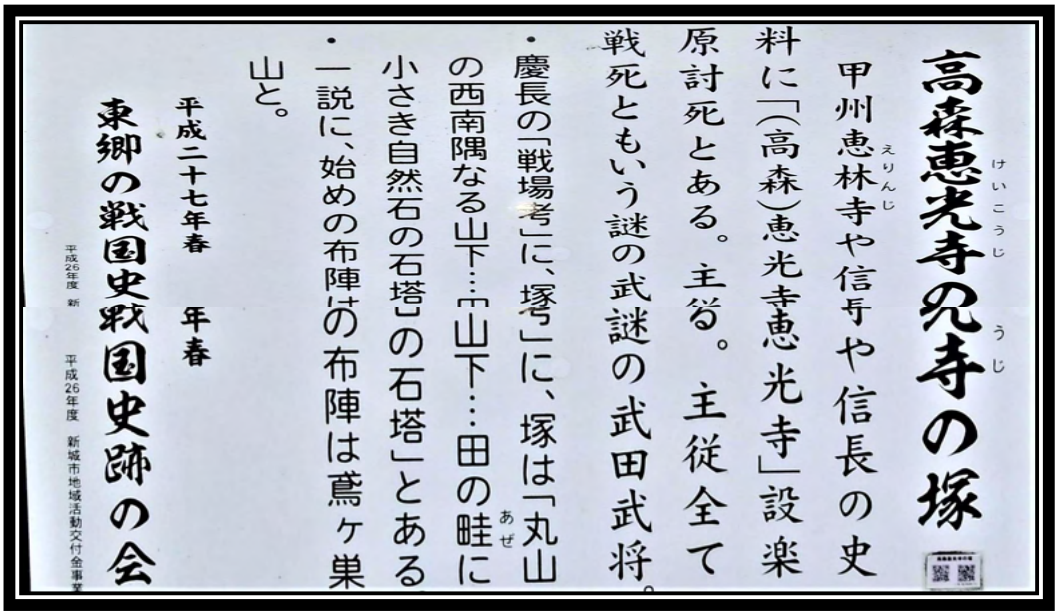
・高森恵光寺快川公は、山梨県塩山市にゆかりのある武将で、高森快川軍団は、始め鳶ヶ巣山砦にいたが、11日には設楽原に進出して、決戦時は連吾川を越えて、馬防柵を回り込んだこの場所で討死した。

・高森家の記録はない、武田家滅亡と共に織田軍により、【高森館】と菩提寺の【延命禅院】が焼き討ちされ，戦火により一切が灰になった為である。高森軍団も誰も故郷には戻れなかった。

【高森恵光寺快川公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市大宮地区：米倉塚近く

・高森恵光寺快川公の塚は、東郷東小学校の裏門から丸山砦跡を右手に見て、連吾川を越え細い十字路を左に曲がると200㍍程の先に見えてきます。↓看板



＊古戦場検定④：次の内武田五砦で無い砦は？

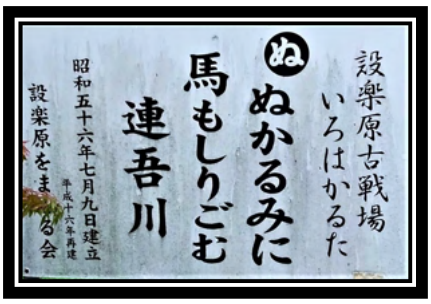
❶鳶ヶ巣山砦　❷中山砦　❸文殊山砦　❹姥ヶ懐砦　❺君ヶ懐砦　❻久間山砦

【傳五味与惣兵衛貞氏の塚】謎の塚
設楽原に倒れた戦国の武人たち

・五味与惣兵衛貞氏は、鳶ヶ巣山の中山砦で、酒井忠次率いる連合軍の奇襲攻撃で敗れ討死にしたとされているが、塩瀬久兵衛により理由は判らないが、武田勝頼の【才の神】の戦地本陣の近くのこの地に葬られた。その首塚が、豊川をへだてたこの地にあるのは確かに不思議な事です。

いろはカルタ『律儀にも塩瀬が残す五味の首塚』が路傍に立ちます。

・大正３年に信玄病院の牧野文斎氏の【長篠古戦場顕彰会】は、高さ90cm、幅70cmの『傳五味与惣兵衛貞氏之墓』の墓碑を建立した。・塚は、東郷東小学校から宮脇方面へ通じる裏門の道路横坂上に在る。



【五味貞氏の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字藤谷

・【り】 律儀にも　塩瀬が残す　五味の首塚・・イロハカルタ

・東郷東小学校の裏門から、須長の集落に向かう途中の、左岡上に在ります。謎の塚の看板が、道路に見えるように立っています。勝頼公観戦地の【才ノ神西の位置】です。

・五味貞氏の、子孫は、諏訪湖の周辺に多くいて、毎年のように【子孫の会】で、この場所を訪れ回向を手向けます。
・碑面の【傳】は、墓と伝えるということを意味しています。

設楽原決戦場まつり　　戦没者慰霊供養（信玄塚）

【土屋右衛門尉昌次公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・武田信玄公以来の重臣で、金丸平八郎と称していたが、元亀元年、名族土屋氏の名跡を与えられた。武田軍の右翼隊に属し戦いの時第二の馬防柵を突破し、第三の柵にたどり着いた時、火縄銃の玉に当たり討死といわれる。

・【ただ今、君のため心おきなく討死し、高恩を地下に報いん】と呼ばわる土屋昌次の大音声は、いつまでも人びとの耳に残り、敵も味方も、その壮絶な最期を称えて惜しまなかったと云われている。

・八束穂地区の八楽児童寮の、カルムの家の前に在る。

・馬防柵の石碑

【土屋昌次公の塚のガイドポイント】

八楽児童寮事務所前に在る太田夫妻の胸像

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字八子

【つ】土屋昌次　柵にとりつき大音声・・イロハカルタ

・八楽児童寮を過ぎて、50メートル程歩いた右手奥に在ります。大正3年に【長篠古戦場顕彰会】より建立された石碑と、大正6年に子孫の土屋正直氏によって立てられた、いくつかの石碑が在る大きな墓域です。

・塚の隣のカルムの家は、八楽児童寮を巣立った若人・家族が、帰郷の【家】として建てられました。太田順一郎・松枝御夫妻は、子供たちの【鐘の鳴る丘・希望の家】として尽力を注ぎ、八楽児童寮を創設し【多くの夢と希望】を子供達に捧げ現在に至っています。信玄地区の歴史です。同じ地区に住む者として誇りに思います。

信玄、勝頼二代にわたった側近

土屋右衛門尉昌続

（天文14年～天正3年5月21日）

【真田信綱・昌輝公の塚】
設楽原に倒れた戦国の武人たち
信濃松尾城主と弟

・八束穂地区の宮脇の三子山に、墓石に真田信綱・真田昌輝と仲良く両雄の名を刻んだ石碑が在ります。真田一族は東信濃の名族で、鎌原・常田の地域を従えて武田家に従っていた。

・両氏は、徳川家康が豊臣秀頼を攻めた、大阪冬の陣・夏の陣で、豊臣方に味方して名をはせた【真田幸村】の叔父に当たる。武田軍の右翼隊の馬場信房隊と共に戦い、丸山砦付近の大宮激戦地で奮戦し、その後宮脇付近で味方の脱出を助けた。ここに続くあぜ道には、赤い彼岸花のほか、見事な、白い彼岸花の群生を見ることが出来る。

・白い彼岸花の群生

【真田信綱・昌輝公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市八束穂字上前田：三子山

【み】三子山に真田兄弟の墓ならぶ・・イロハカルタ

・八束穂公民館を過ぎてから、四反田川沿いに左折し【甲田】の石標を左に見て進んだ所に在ります。

・武田軍にとり【諏訪法性の兜】は【御旗楯無の鎧】と並んで掛けがいの無い宝物でしたが、それを忘れて敗走する程の大敗でした。【甲田】は【諏訪法性の兜】を、初鹿野伝右衛門が、戦いで落ち延びる中で、疲労困憊の末落とした所だと伝わります。

・真田家の家紋の【六文銭】は、三途の川の渡し賃と云われ、戦いで死をも恐れない【勇猛】さを表しています。

【山本勘蔵信供公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・山本勘蔵は、山本勘助晴行の次男で24歳で奮戦勇戦の末、長篠城に近い有海原辺りで討ち死にした記録がありますが、塚は何故か遠く離れた設楽原の、勝楽寺前激戦地の位置に在ります。

・父の山本勘助は、武田信玄に仕えた軍師として名高く、諸説ありますが、豊橋市加茂町で生まれたと伝わります。幾多の苦難を乗り越えて、武田家の軍師として花咲きます。新城の地とも縁があり、山本信俱は、勘助祖父吉野貞久の地：新城市黒田に山本家を中興して13代故山本文夫氏に到っている。

【山本勘蔵信供の塚のガイドポイント】：父は軍師山本勘助

見どころ・聞きどころ　　新城市川路字下川路

・山本勘蔵の塚は、勝楽寺前激戦地を豊川に向かう田の中の、農道脇に在ります。

【か】勘蔵は　この地に死して　名を残す・イロハカルタ

・川路の勝楽寺の門前から、200m程の南の田のあぜ道に【傳山本勘蔵信供之墓】と小さな一石五輪塔が祀られています。
山本勘蔵は、武田勝頼の旗本付であったと伝わります。
徳川軍の、本多忠勝などの武将の追撃をかわしつつ、設楽原に向かう大海辺りの地で壮絶な戦死をしたと云われています。

・川路の人々は、山本勘蔵の塚を【カンスケの塚】と呼んで親しんでいます。　父親は軍師山本勘助➡

他国の情報と軍法の知識で功績
山本勘助晴幸（やまもとかんすけはるゆき）
（？～永禄4年9月10日）

【高坂源五郎昌澄公の塚】・謎の塚
設楽原に倒れた戦国の武人たち

・高坂昌澄は、長篠城の監視の部隊を率いて有海原辺りで戦死したと伝わる。その塚が遠く離れた川路の小川路に在るのは設楽原の苦戦を聞いて応援に駆け付けたのであろう。
父親は武田の名将として名高い【高坂弾正昌宜】です。高坂弾正は、甲斐の国の留守部隊の指揮官で、この戦いには参陣していないが【武田軍敗北】の報を受け、国境の駒場まで主君の勝頼を迎えに来ています。
・そこで息子昌澄の若い命が、設楽原で失われた事を聞き、断腸の思いであったと推測します。高坂弾正は、この後も 武田勝頼を、武田家唯一の宿将として支えました。・

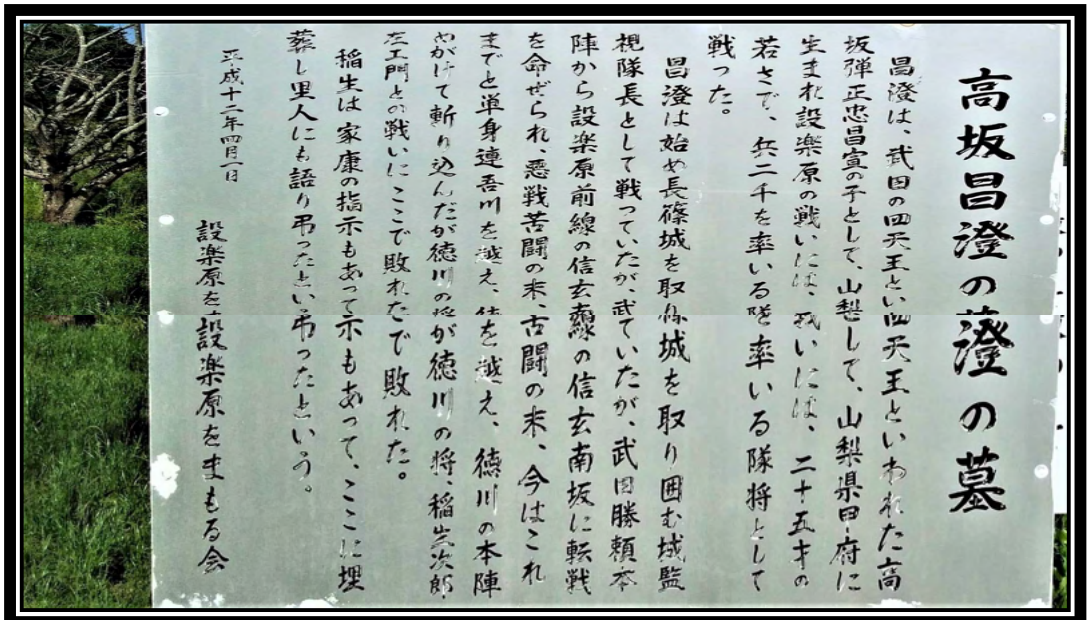
【高坂昌澄の塚のガイドポイント】：昌澄の父は『甲陽軍艦』の筆者とされる高坂昌信で武田24将の一人です。

見どころ・聞きどころ 新城市川路字小川路　ちかくの川路城のお鷹井戸➡

・【ゆ】 故ありて　昌澄の墓は小川路に・・イロハカルタ

・川路集落の国道151号線から、豊川へ向かう道は、勝楽寺横：郵便局右：駐在所左と、この大宮川近くの高坂昌澄の塚へと向かう4本の道があります。ゆっくり探してください。

・↑近くの巴神社



高坂昌澄の澄の墓

昌澄は、武田の四天王といわれた高坂弾正忠昌宜の子として、山梨県甲府に生まれ設楽原の戦いには、残いには、二十五才の若さで、兵二千を率いる隊将として戦った。
昌澄は始め長篠城を取り囲む城監視隊長として戦っていたが、武田勝頼本陣から設楽原前線の信玄南坂に転戦を命ぜられ、悪戦苦闘の末、古闘の末、今はこれまでと単身連吾川を越え、徒を越え、徳川の本陣やがて斬り込んだが徳川の将、稲生次郎左エ門との戦いにここで敗れたで敗れた。
稲生は家康の指示もあって示もあって、ここに埋葬し里人にも語り弔ったという。

平成十二年四月一日
設楽原をまもる会

これただ
【松平伊忠公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・深溝城主松平伊忠（39歳）は、織田・徳川連合軍の中で，城主級の武将でただ一人の戦死者です。

・鳶ヶ巣山砦の奇襲攻撃に参戦して奇襲後山を下りて岩代川を越え、武田軍を追撃中に長篠城包囲軍の武田軍小山田昌行の兵500に挟まれて戦死した。

・【400年祭奉斎会】は昭和50年5月4日に、この地に高さ100センチの石標を建立した。

・松平伊忠の戦死の地は、この作神の地と、大海の下の大海字中貝津の2説がある。

【松平伊忠公の塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市有海字作神：有海原

・もっくる新城の道の駅から、長篠方面に向かい長篠大橋手前の有海の交差点を、左折した林の裾に在ります。
・連合軍の唯一城持ちの武将で戦死をしたのが松平伊忠です。
・深溝松平家は、戦いではいつも最前線で戦い、松平伊忠は、長篠・設楽原の戦いで、息子松平家忠は、伏見城の戦いで討死をしています。そのため子孫はその功により、徳川幕府の重臣となり明治維新時には、島原7万石の大名となりました。松平家忠は、家忠日記を書き残し当時を知ることができる貴重な文献に成っています。・額田郡深溝に、松平氏の菩提寺【本光寺】が在ります。お墓の補修時に、大量の小判等が発見されたニュースが話題に成りました。

紫陽花寺としても有名です！

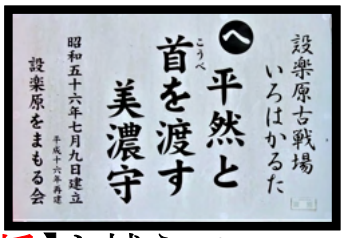
【馬場信房公の出沢の塚】
設楽原で倒れた戦国の武人たち

・馬場美濃隊は、開戦と同時に丸山砦付近で織田軍の佐久間信盛隊と激しくぶつかり、戦況が不利になると、勝頼本陣に向かい戦場からの引き上げを【進言】したとされます。味方の総崩れが起こる前に、少しでも戦力を残して退却を計りました。

・馬場美濃守は、【戦線ライン】を、寒狭川の右岸に張り押し寄せる追撃軍の中に再度身を投じ敵に首を与えたと言われている。

・長篠合戦図屏風の右上部に、馬場美濃守の敵の槍に突かれる姿と、白馬が描かれています。追っ手を前に策に窮した旗本の笠井肥後守満秀は、自分の馬に主君を押し上げると、祈る気持ちで愛馬に出発の鞭を当てて見送ったと云わる。

【馬場信房公の塚のガイドポイント】



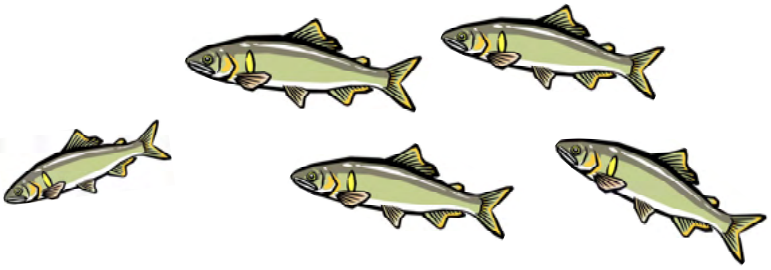
見どころ・聞きどころ新城市字出沢前畑（橋詰）

・馬場信房公の塚は、　武田勝頼が寒狭川【猿橋】を越えて落ち延びるのを見届けた、横川の銭亀交差点脇に在ります。ここは、決戦場の設楽原からの退却の道筋上になります。大正3年に、長篠古戦場顕彰会により建てられた、高さ155センチ、幅120センチの【馬場美濃守信房之碑】があります。碑の隣には、明治26年に地元の今泉金次郎氏により建てられた【馬場美濃守戦地之墓】が祀られています。

・出沢地区の人々は、昔から忠烈な勇士馬場美濃守を祀って来ました。現在は、区総代が主催し毎年8月24日にお施餓鬼が行われています。近くには、名勝【鮎滝】があり笠網漁が夏の時期の風物詞となっています。

新城市ご当地ソング・・【寒狭川慕情】・・ユーチューブで検索！

武田軍が総崩れ、連合軍が猛追



【笠井肥後守満秀公の塚】

設楽原に倒れた戦国の武人たち

・笠井満秀について『甲陽軍艦』には、【命は義より軽い　御恩に報いる為の我が命】と記され武田勝頼の旗本で、勝頼の敗走を見届けて、自ら勝頼の馬にまたがり、滝川助義と死闘を繰り広げ相討死したと伝わる。

・相討ちの寒狭川（花の木公園）の川原に、大正3年に長篠古戦場顕彰会と、昭和63年に設楽原をまもる会により【滝川助義・笠井肥後守相討の地】の2基の石標が立てられた。

・出沢の【龍泉寺】の裏に立派な塚が建立された。

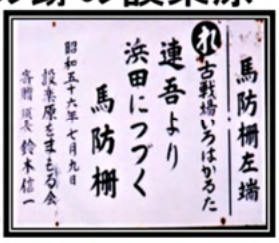
【笠井肥後守満秀公の塚のガイドポイント】

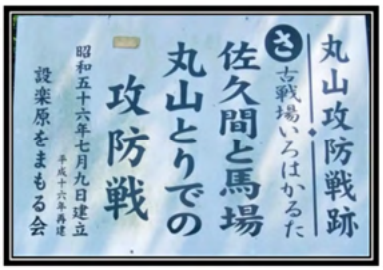
見どころ・聞きどころ　　新城市出沢的場田：龍泉寺

・新城総合公園裏手の出沢地区の【龍泉寺】の裏の出沢公民館に隣り合って【笠井肥後守満秀公】の墓域が在ります。イロハカルタ
【わ】【わが主君の身代わりとげし　笠井肥後】

・武田軍退却の古戦場跡　お食事は花の木公園で三河のナイアガラの滝を見ながら！　お話も店主の丸山様に伺うことも出来ます。

【丸山砦跡】‥第5章　戦いの跡の設楽原





・設楽原の北に位置する丸山砦は、信長の家臣の佐久間信盛が、6千の兵で占拠していましたが、武田軍の**馬場信房隊**が700の兵で奪還をした場所で、設楽原の戦いでも、指折りの壮絶な死闘が行われたエリアです。

・当時は、丸山の広さは現在の倍の大きさであった事が記録されている。昭和になり良い盆栽用の土が取れたことから、徐々に今の大きさに成った。

＊【**真田信綱・昌輝兄弟**】もこの付近の激戦で、亡くなったと云われています。連吾川沿いに上州産【**矢立硯**】発見の看板がある。

・遊歩道が北部ふるさとの会により整備され丸山砦に容易に上に登ることが出来る。

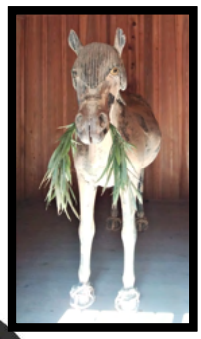
【丸山砦のガイドポイント】：戦いの跡

石座神社の祭礼：大宮地区の笹踊➡

見どころ・聞きどころ　　新城市大宮

・甘利信康公墓を、馬防柵を左に見ながら、須長公民館方面に進んだ交差点の左側に在ります。現在は、小さな小山ですが、当時の丸山砦は、戦場の北側の【**重要な拠点**】でした。
斜面を注意しながら登ると、当初佐久間信盛・のち馬場信春の史跡案内の石柱が立っています。此処からの眺めは、設楽原の古戦場の狭さを感じ取ることが出来ます。

・ここで約5万人余りの、兵士が戦ったと思うと驚きです。
織田・徳川軍の築いた、馬防柵再現地前方に見て、左側には、武田軍が陣を張った【**信玄台地**】の山並みを見渡すことが出来ます。しばし、戦国の昔に思いを馳せます。
戦い当時、織田信長・徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる石座神社がこの先に在ります。



・**丸山砦跡の近くの石座神社と神馬小屋➡**

【馬防柵再現地】(その1)

【馬防柵再現地散策説明】

・織田信長と徳川家康は、5月18日に設楽原に到着すると、3日半で連吾川沿いに、須長の浜田から 竹広の連吾迄2㌔半に渡り二重三重の【馬防柵】を築きました。弾正山を陣城化して、戦国最強と言われる武田軍の騎馬隊を撃破した。馬防柵の効果その❶柵木に火縄銃を置くことで命中率が格段と上り、長時間戦える。❷柵内の兵士が、安心して戦える。

・この戦いでは、火縄銃が大量に効果的に使用され、その後の築城方法、戦術にも多くの変化をもたらした。清和源氏からの名門武田氏は、この戦いを機に衰退の道を歩むことに成った。

【馬防柵再現地のガイドポイント】 ：戦いの跡

見どころ・聞きどころ 新城市大宮字清水：弾正山東裾

・設楽原をまもる会は、1981年に前長110mの【馬防柵】を手造で再現しました。
織田信長と徳川家康は、ここに到着すると、馬防柵を2日半で築きました。
設楽原決戦場まつりでは、勇壮な火縄銃の演武と、子供たちの戦いの模擬合戦が見られます。

五月十八日
織田・徳川連合軍の突貫工事始まる

・武田勝頼観戦地、【才の神(アカハゲ)】の位置説明。
・織田軍と徳川軍の、馬防柵の虎口の違いの説をします。
・鳥居強右衛門が、狼煙を上げた雁峰山の涼み松の説明。
・連吾川の説明：河川改修前は、台風で常に溢れる様な小川の説明。
：田は明治8年の記録では、下田と記録された沼田でした。
・馬防柵の由来の説明。岐阜から信長が兵士に柵木1本と縄を持たせました。
・鉄炮三段撃ちの解説『諸説あり』:玉込め31秒:その間に武田軍に騎馬は、340m疾走して馬防柵に到達します。A玉を込める兵士B銃を渡す兵士とC鉄砲を撃つ兵士の分業体制が今では有力です。
・土屋昌次の祖霊の碑の説明をします。
・信長・家康の巧妙な作戦・極楽寺での軍議後、ウナギの寝床のような狭い設楽原に馬防ぎの柵を構築しました。
・当時、この辺りは、雑木で江戸時代初期の植林で今の様になりました。

＊古戦場検定⑤：設楽原から今までに発見された火縄銃の玉の材質で最も多いものは？
❶ 土玉　❷ 鉄玉　❸ 銅玉　❹ 鉛玉

【馬防柵再現地】(その2)

【長篠・設楽原合戦屏風絵図】

・馬防柵再現地の入口に建立されています。合戦屏風絵図は、日本独自の第一級の歴史資料です。犬山城の【成瀬家】の屏風を模したもので平成28年に建てられた。5月21日の決戦の様子がこの合戦屏風により、手に取るように解る。

・信長の位置、家康の陣地、勝頼の指揮位置、馬防柵を構築しての連合軍の陣形、山縣昌景が、撃ちとられて志村又右衛門が首級を持ち去る場面等、目の前に戦い当時のロケーションと雰囲気が広がる。

・馬のいななき・ほら貝・鐘太鼓・火縄銃の爆音が今にも聞こえるようだ。

成瀬家本の長篠合戦屏風複製

【馬防柵再現地のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ 新城市大宮字清水

犬山城

【れ】 連吾より　浜田につづく　馬防柵・・・イロハカルタ

・戦い当時、織田信長・家康連合軍は、弾正山の裏側に、軍隊を隠していて、次から次へと新手の兵士を戦いに繰り出したと伝わります。
【弾正山全体を、陣城化】して鉄壁の軍事基地を構築しました。

・武田軍は、甲斐の国から約1000頭余りの馬を、戦いの為に連れてきたと言われています。当時の馬は【木曽駒】のような小形の馬でした。

・左前方に見える【丸山砦跡】の説明。当時は今の倍の大きさで、昭和になり現在の姿になりました。織田軍の佐久間信盛と、武田軍の馬場信房が奪い合った、設楽原北側の重要な戦場になった場所と伝わります。

・馬防柵の役割の解説：①柵木に掛ける事で【命中率】が上がる。
②柵木に掛ける事で、【長時間戦える】③柵木に掛ける事で、柵の内で戦う兵士が【安心して戦える】防御施設　推定7000本から8000本の柵木使用

長篠設楽原古戦場検定⑥

長篠合戦屏風図絵の実像に迫る

合戦図屏風は、日本独自の
第一級の歴史資料です

7問の質問に答えてください　下線の問題より正解を○で囲んで下さい

スマホ・辞書等で検索可　　設楽原ボランティアガイドの会

① 合戦屏風図絵には、戦功考証の為【旗　指　物】で自己の存在を強くアピールした武将が書かれています。屏風絵図の左上部に、【永楽銭】の旗と、【唐人笠兜】を掲げて書かれている部隊の大将は、誰でしょう。楽市楽座の発案者でもあります。

佐久間信盛　・　滝川一益　・　織田信長　・　羽柴秀吉（豊臣秀吉）

② 長篠合戦屏風図絵の中で、右上部に【大】の字の諏訪大明神の四半旗指物の絵がかれている部隊の大将は、誰でしょう。清和源氏の流れをくむ名門です。

真田信綱　・　武田勝頼　・　馬場信房　・　土屋昌次

③ 長篠合戦屏風図絵の中で、左中央に【金の開扇】の馬印と【五】五大明王に旗指物の絵がかれている部隊の大将は誰でしょう。陰陽師の旗も見えます。

徳川家康　・　大久保忠世　・　酒井忠次・　石川数正

④ 屏風図絵の中で、左上部に【金瓢箪】の旗指物の絵がかれている部隊の大将は誰でしょう。岐阜・稲葉城攻略時に千成ビョウタンで合図した逸話があります。

徳川家康　・　武田勝頼　・織田信長　・　羽柴秀吉（豊臣秀吉）

⑤ 屏風図絵の中で、左中央で、【鹿の兜】を着用し仁王立して書かれている部隊の大将は誰でしょう。

本多忠勝　・　榊原康政　・　平岩親吉　・　鳥居元忠

⑥ 屏風図絵の中で、【主人の首】を小脇に抱えて、志村又右衛門が自軍に持ち帰ろうとしていますが、その主人とは誰でしょう。

原昌胤　・　内藤昌豊　・　甘利信康　・　山縣昌景

⑦ 屏風図絵で、明らかに時代考証上違う部分が描かれています。それは何処？

馬防柵　・　火縄銃　・　長篠城　・　連吾川

【馬防柵再現地】(その3)屏風の解説

・長篠合戦屏風は、戦後70年の江戸時代の初期に、戦勝側の成瀬家の要請により描かれたもので、5月21日の戦いが、一瞬で分かる構図で描かれています。4扇の下方に兜をかぶらず立っている人物が、成瀬家の始祖、成瀬正一です。❶信長の陣地の位置・茶臼山は、戦況により何時でも戦線より離脱できる場所 ❷勝頼の旗指物【大】は諏訪大明神の大で【風林火山】の武田家本来の旗では無く・四郎勝頼の名前の意味する事。❸長篠城は中世の平山城です。天守閣らしいものと狭間が描かれているが、これらは、1576年の安土城の築城から近世城郭として現れた。❹家康の陣地の陰陽師の旗(ダビデのマーク)は戦い時の天候・吉凶を占わした祈祷師❺家康の陣の【五大力菩薩】の旗は、使い番で戦場を駆け巡り情報伝達役 ❻描かれている火縄銃の数＊連合軍33挺 武田軍5挺:騎馬の数＊連合軍25騎 武田軍28騎の物語る事❼着物を着てかがんでいる人物は絵師？❽原田弥之助が旗の切れ端を、自軍に持ち帰っている切れ端が、倒れた兵と一致する妙。❾山縣昌景の首級を、志村又右衛門が抱えて立ち去る画。 ❿信長の唐人兜⓫本多忠勝の鹿の角の兜⓬大久保忠世のアゲハ蝶⓭大久保忠佐の釣り鐘らは、論功行賞のための現代のコスプレ衣装⓮勝頼の観戦地・才の神の位置・鉄塔⓯殿(しんがり)の馬場信房が右上に描かれている。⓰酒井忠次による【鳶ヶ巣山・ 武田五砦】の奇襲攻撃の画。

【新城市のお盆の三奇祭のガイドポイント】

火おんどりの他にも

【乗本万灯】・・・新城市乗本・・鳶ヶ巣山

【鍋づる万灯】・・新城市市川・・万灯山

【火おんどり】・・新城市竹広・・信玄塚

夏の炎のまつりに酔いしれる！

・【乗本万灯】⇒毎年8月15日の夜、精霊送りと 悪霊鎮送の意味を持つと云われマンド・マンドと唱えながら行われ、市内竹広の火おんどりと並び【火】を使う盆行事です。さらしを腹に巻き、足にはわらじをはいた勇壮な若者が、5から6㍍の縄につけられた。【万灯】(麦わらで作成)を力強く頭上で振り回します。

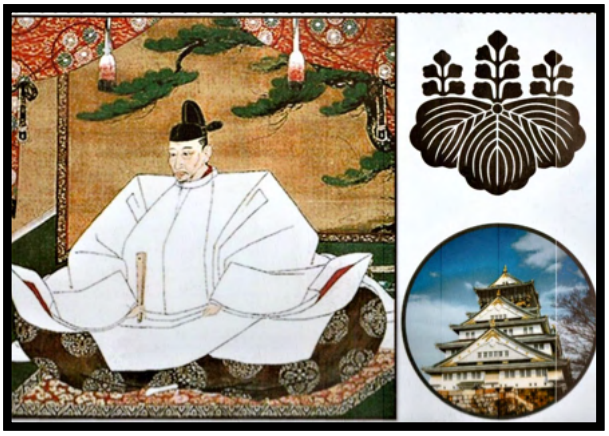
・乗本万灯は、火おんどりの盆供養と同じく、長篠・設楽原の戦いの鳶ヶ巣山砦の、戦没者の慰霊の行事も兼ねているとも伝わります。

乗本万灯☞

☜鍋づる万灯

【馬防柵再現地】(その4)長篠合戦屏風・連吾川が大河で描かれている絵図

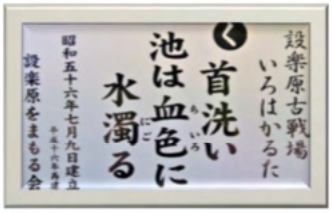
長篠合戦屏風に描かれている武将です。私は誰でしょう？



＊喜蔵とりつぎ銃　全長158㎝　墨書銘天正11年9月9日　京都大徳寺龍源院所蔵
日本で最古の在銘火縄銃　　信玄砲も戦国時代の伝説の古い火縄銃です。

【首洗池】(その1)

場所国道151号線竹広交差点の横



・文献によっては、過去に【血洗池】【刀洗池】と云われていた記録がありますが、現在は【首洗池】です。何れも当時の戦いの激しさを思い起される名前です。

・今でも池の水は赤く濁っています。戦い後、戦没者を信玄塚に埋葬する為に、武具や戦没者を洗い清めた為だと云われています。しかしこれは、鉄分を多く含んだ赤土の土壌が原因です。今は錦鯉が多く住み魚の【天国】に成っている。

・昔はヒルが多く住み、柳の木が池の周りに在り、道行く人が、恐ろしさを感じた池です。

【首洗池のガイドポイント】:池の鯉を覗いてみよう！

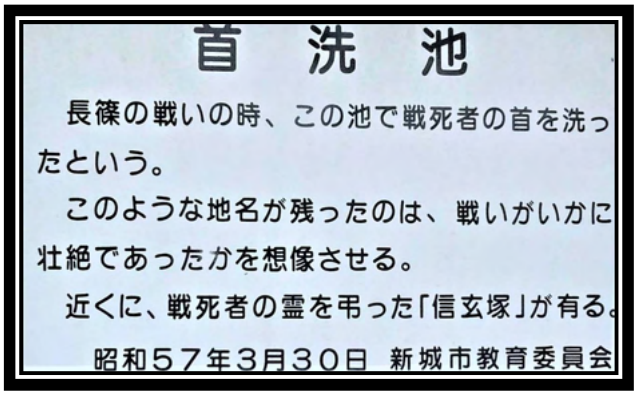
見どころ・聞きどころ　新城市竹広字高原地内

首洗池の蓮の花➡

・首洗池は、もっくる新城の道の駅から、車で5分程の、竹広交差点の手前の場所に在ります。【信号が赤で】車が停車した場合は、【大変運が良い】と思って下さい。

・改修によって現在はプールの様な、味気ない池に成っていますが、戦いが終わり、周辺の両軍の遺体処理を、この池で行ない兵士の身体を清めて信玄塚に埋葬したと云われます。

・大将首は、この近くの聖堂山勝楽寺で【首実検】がなされました。織田信長は、【松楽寺】を勝利に因んで、【勝楽寺】に変えた逸話があります。



首　洗　池

長篠の戦いの時、この池で戦死者の首を洗ったという。

このような地名が残ったのは、戦いがいかに壮絶であったかを想像させる。

近くに、戦死者の霊を弔った「信玄塚」が有る。

昭和５７年３月３０日　新城市教育委員会

＊古戦場検定⑥の回答　①織田信長②武田勝頼③徳川家康④羽柴秀吉⑤本多忠勝⑥山縣昌景⑦長篠城・・川に掛る橋と天守閣は当時なかった。

【首洗池】(その2)

【首洗池】現在はこの様に多くの錦鯉が住む池です。

【首洗池2】:草魚150㎝黒色を探そう！

見どころ・聞きどころ　新城市竹広地内:首洗い池

・イロハカルタ【首洗い　池は血色に水にごる】の看板が在ります。
・首洗池は、以前は灌漑用のため池の役割を果たしていましたので、今迄に何度か池の【改修の記録】が、竹広の古文書に在ります。
・前回は、平成23年12月17日に現在の様に、竹広区の大勢の協力を基に、新城市の【めざせ明日の町づくり事業】の支援を得て完工しました。
・完工時に、20匹、池に放した色とりどりの【鯉】が、今では100匹あまりに増えて、大きさも50㎝ほどに育っています。

・この池から季節になると前方に森谷家の鯉のぼりが気持ちよさそうに空を泳ぐのが見えます。

令和２年夏老朽化した為補修中

首洗池に立つ看板

【首洗池の看板のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広地区内：首洗い池

・飯田線の【三河東郷駅】を利用した方が、設楽原歴史資料館へ向かう途中の、休憩する場所に建てられています。
お地蔵さまと、木製テーブルベンチが御出迎えをしてくれます。

・戦国時代の面影を残す興味深い歴史や、自然がお待ち致します。のどかな田園が、広がる古戦場をゆつくり歩いてみませんか。看板を見て、【設楽原を巡るコース設計】を考えて見て下さい！

＊新城市のご当地ソング・・【新城恋慕情】・ユーチューブで検索してください！

信玄塚 火おんどりの由来記

設楽原の戦い後、避難していた村人が目にしたものは、傷つき倒れそのまま永遠の眠りについた両軍の兵士の姿でした。村人は手厚く弔い二つの塚を築きましたが、その夏、塚から蜂の大群が出て人々を悩ませました。それを亡霊だと考えた村人が松明を焚いて供養したのが【**火おんどり**】の始まりだと云われます。村の男たちは大きな松明を抱え、太鼓や鐘の音に合わせタイを袈裟十字に振りかざし、【**ヤーレモッセモッセモセ**】と唱えながら勇猛果敢に踊ります。それはあたかも武田軍が、戦場で苦戦する修羅場を表しているようにも見えます。

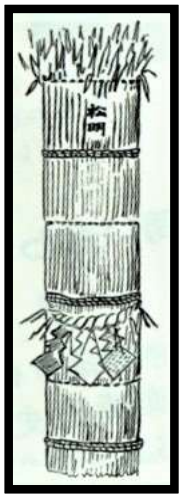
火おんどり

愛知県指定無形文化財

毎年８月１５日のお盆の夜。火おんどりが、新城市竹広地区の信玄塚で行われます。祭りの半月前から各戸で【タイ】と呼ばれる松明を作り準備します。川辺に自生するヨシを編んで、その中に乾燥させた羊歯（しだ）を詰め込みます。祭りの夜になると、

- 法被、鉢巻、猿股姿で竹広の旧庄屋の峰田家（火元）に集まる
- 当主が起こした浄火を、３本のお種に移し火元を出発し、火おんどり坂を登る
- 途中山県昌景（やまがたまさかげ）公の墓前を通り、坂上で松明に火を点じ信玄塚に繰り込む
- 行列先導には、火元の峰田氏・竹広区長・鐘、太鼓、お囃子（はやし）、タイ、と続き信玄塚の大塚・小塚の周りを３周回る
- そして太鼓や笛の音のテンポが速くなったのを（道行きから岡崎に変わる）を合図に、タイを袈裟十字（けさじゅうじ）に振りかざし【ヤーレモッセ　モッセモセ】と唱えながら勇猛果敢に踊り狂う

3.匹の龍の
驚きの写真



・火おんどりは、令和元年は台風の最中でも盛大に行われ、令和2年は、コロナ禍の中でも規模を大幅に縮小して無観客で行い長年の伝統を次代に引き継いでいます。

【信玄塚】(その1)戦いの跡
【竹広信玄塚散策説明】

・設楽原の戦いでは、多くの兵士が亡くなりました。里人は2つの塚を築いてねんごろに弔いました。

・【大塚】には武田方の兵士を 【小塚】には連合軍の兵士を埋葬したと伝わっています。埋葬後まもなく、塚から【蜂の大群】が出て、三州街道を行きかう人馬を悩ませました。これを武田軍の亡霊の仕業と考えた村人は、勝楽寺の三世玄賀和尚の指導で、お施餓鬼を行いました。

・今に伝わる【火おんどり】の盆行事です。

写真は小塚の観音石仏。空道和尚造

【信玄塚のガイドポイント】:戦いの最終章の祈りの場所

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄原558番地

・【大塚】信玄塚広場の東北端に在り、高さ3㍍塚の径13㍍の円墳形・・塚の上に【供養塔と地蔵石仏】があります。昭和46年8月15日に、竹広八剣会は、2代目【松碑】を建立しました。

・【小塚】信玄塚広場の南端に在り、高さ1，5メートル塚の径3，6㍍の円墳形です。かっては、300年に及ぶ雄大な松が、そびえていました。それぞれ、【大松】・【小松】と呼んでいましたが【伊勢湾台風の影響】で枯れてしまいました。

・宝暦7年(1757)に、竹広の断上に生まれた【空道和尚】が造ったと伝わる【観音石仏と小塚供養物】が塚上にあります。

・信玄塚400年供養塔の前
ボーイスカウト　パチリ！

【信玄塚】(その2)戦いの跡
【信玄塚の閻魔大王坐像】

・江戸時代の宝暦7年、設楽家の領主設楽貞根が、天正の役の戦没者を弔うために、福来寺(明治8年廃寺)の十三仏として、竹広の弾正に生まれた【空道和尚】に造らせた石像です。像高154cm　高さ212cm
玖老勢石製です。像は裏に【地蔵菩薩】を背負っています。大塚のお地蔵様と、小塚の観音石仏も空道和尚の作と伝わる。

・閻魔大王は、閻魔帖を持った司録像と司令像を従えている。閻魔庁の最高裁判官で、天国行き、地獄行きの判定を下します。
嘘をつくと舌を抜かれると云われています。
製作当時は赤色で彩色。よく見ると長い間すわっている為、右足つま先を怪我している。

【閻魔大王像のガイドポイント】:閻魔堂の裏側も見ましょう！

見どころ・聞きどころ　新城市竹広信玄塚広場

・お参りすると全ての人が【極楽浄土】に往生出来ます！
・施主:旗本設楽家領主・・設楽貞根
・製造年:江戸時代の宝暦7年(1757)
・年齢:264歳・・令和2年現在
・兄弟:13人兄弟の上から5番目の地蔵菩薩
・好物:コンニャク・・沙汰を下す上でコンニャクは、表裏が無く人の生きざまを正直に映す為と云われています。
・所在地:新城市竹広信玄原557番地1
・床面積7．28㎡現在のお堂は平成11年2月吉日新築落成

・閻魔大王坐像の裏側➡
地蔵菩薩を背負っています
お盆の8月15日のみ御開帳されます。

・この冊子を手にした方は、ご利益満載！

【信玄塚】(その3)戦いの跡
【福来寺跡と僧侶のお墓】

福来時の由来記

・現在は、お寺の境内跡が信玄塚の【火おんどり】広場です。江戸時代の、設楽原の決戦後78年目に、設楽家の領主設楽貞政により寺領が与えられ、設楽原の戦没者を、追善供養する寺として建てられました。以後設楽家は、明治の代になるまで領民と共に、武田軍の討死諸亡霊供養をして来ました。明治8年に廃寺となり川路の勝楽寺に、ほとんどのものが移管された。

・川路の【聖堂山勝楽寺】では、武田将士等の【位牌113基】が祀られ、蔡祀されている。

・昭和50年に、廣全寺と福来時の前住亡僧侶の墓石が、信玄塚の一隅に集められ信玄塚を訪れる多くの方に、回向されている。

【福来寺のガイドポイント】：祈りの場所

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広信玄塚広場

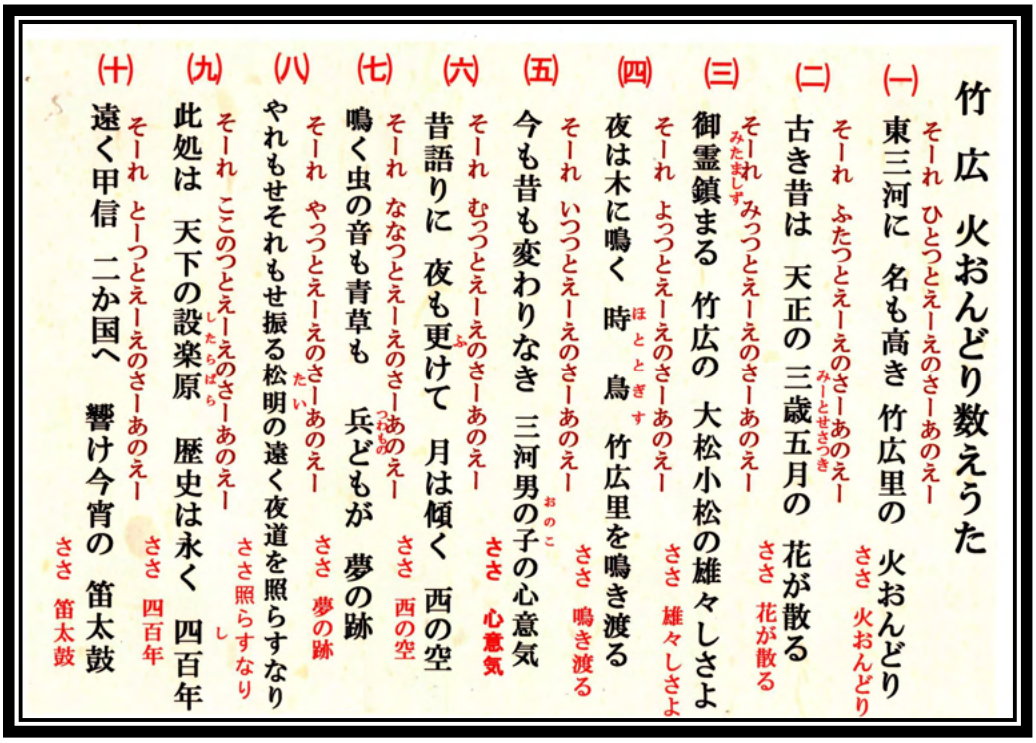
・信玄塚では、福来寺の説明が欠かせません。合わせて、閻魔大王坐像の作者の説明をします。空道和尚は、正徳年間の(1711)年に、竹広の農家に生まれ、幼少のころから利発で、旗本設楽家に取り立てられ、鈴木千之助と称しましたが、武士の生活に疑問を持ち、仏門に入りました。和尚の最期について、般若寺の記録には、【安永元年9月18日、自ら断食して往生す】とあります。般若寺の裏山に穴を掘り空気孔を付け、念仏を唱えながら亡くなったと云われる人物です。

・現在【勝楽寺】で祀られている、長篠・設楽原の戦没者の位牌は、牧野文斎氏による【信玄祖師堂】に寄進安置されていたものです。

・こんな驚きの切符もあります。

福来寺と閻魔大王御朱印セット

昭和6年より盆踊りの曲目として信玄塚で歌い踊り継がれています。



竹広 火おんどり数えうた

(一) そーれ ひとつとえーえのさーあのえー
東三河に 名も高き 竹広里の 火おんどり
そーれ ふたつとえーえのさーあのえー ささ 火おんどり

(二) 古き昔は 天正の 三歳五月の 花が散る
そーれ みつとえーえのさーあのえー ささ 花が散る

(三) 御霊鎮まる 竹広の 大松小松の雄々しさよ
そーれ よっつとえーえのさーあのえー ささ 雄々しさよ

(四) 夜は木に鳴く 時鳥 竹広里を鳴き渡る
そーれ いつつとえーえのさーあのえー ささ 鳴き渡る

(五) 今も昔も変わりなき 三河男の子の心意気
そーれ むっつとえーえのさーあのえー ささ 心意気

(六) 昔語りに 夜も更けて 月は傾く 西の空
そーれ ななつとえーえのさーあのえー ささ 西の空

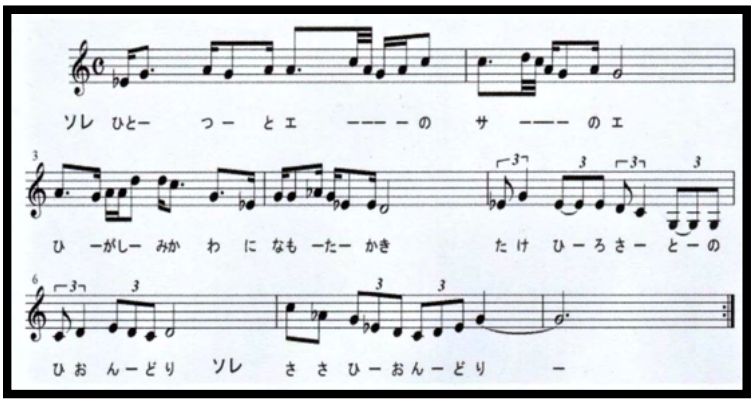
(七) 鳴く虫の音も青草も 兵どもが 夢の跡
そーれ やっつとえーえのさーあのえー ささ 夢の跡

(八) やれもせそれもせ振る松明の遠く夜道を照らすなり
そーれ ここのつとえーえのさーあのえー ささ 照らすなり

(九) 此処は 天下の設楽原 歴史は永く 四百年
そーれ とーつとえーえのさーあのえー ささ 四百年

(十) 遠く甲信 二か国へ 響け今宵の 笛太鼓
ささ 笛太鼓

数えうた採譜
ピアニスト
中村はるみ氏



・戦前戦後の長い間の唄い手
故 稲垣福次様現在は、稲垣孝治氏

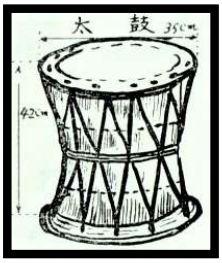
【信玄塚】(その4)戦いの跡

竹広の古地図に残る【福来寺】の絵地図　明治8年廃寺

【福来寺の絵地図のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広信玄塚広場

・絵地図の中に、福来寺の住所が左に描かれています。
・下部の赤く描かれている場所が現在の、閻魔堂から竹広公民館に続く農道です。
・信玄塚の広場の中央に、福来寺が在るのが分かります。
・閻魔堂が、現在と昔と同じ位置に在るのが分かります。
・信玄塚では、現在は盆踊りに合わせて竹広区民の夜店があります。
・昭和6年から始まったと伝わる信玄塚の盆踊り風景写真



信玄塚（その5）戦いの跡

【甲軍戦没将士の供養塔】 昭和13年山梨県民他の浄財で建立されました。

【供養塔のガイドポイント】:鉄製のサークル棒がありません

見どころ・聞きどころ　　**信玄塚広場には五基の供養塔**

・昭和13年５月２１日に、山梨県内外の有志により、高さ３６０㌢基礎石１５０㌢の山梨県産の花崗岩で【長篠役甲軍戦没将士慰霊塔宝篋印塔】が建立されました。

・横の副碑には、長篠・設楽原の戦いの模様が５８８文字で刻まれています。裏面には、基金協力者１８４名・１４団体と発起人名が彫られています。供養塔のサークルの鉄棒は、太平洋戦争中に鉄材の供出で提供され現在迄ありません。

・昭和３１年３月２４日に、山梨県韮崎市により、武田将士の英霊が韮崎市の【新府城址】に分骨されました。韮崎市により【長篠の役軍陣没将士分骨碑】も建てられています。

盛大な分骨式写真

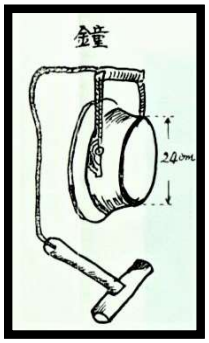
【信玄塚】(その6) 戦いの跡

【信玄塚の供養塔】 昭和50年【長篠の戦い400年祭奉斎会建立】

【信玄塚の供養塔のガイドポイント】

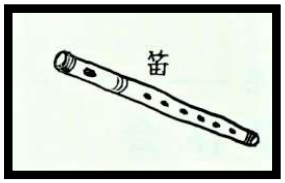
見どころ・聞きどころ 竹広信玄塚広場 火おんどり道行

【め】 冥福を 祈る 武将の慰霊牌・・・・イロハカルタ



- 昭和50年2月1日(1975)に、長篠・設楽原戦後400年祭の記念事業として【四百年祭供養塔】が建立されました。碑高3．65メートル 台座幅2メートル の宝塔形です。
- 世界では、【戦いの火種】が続く 信玄塚では鎮魂の火祭り、【火おんどりの盆行事】が続く！
- 地元の人は、戦いの後、命を落とした武者を、敵味方の区別なく埋葬して弔って、人々の優しさや、戦いの無い世界への願いを込めて【火おんどり】を続けて来ました。写真左から(故)笛の名手:滝川時夫氏、数え歌の唄い手:稲垣福次氏、太鼓鐘の名手:竹内幸男氏と親戚

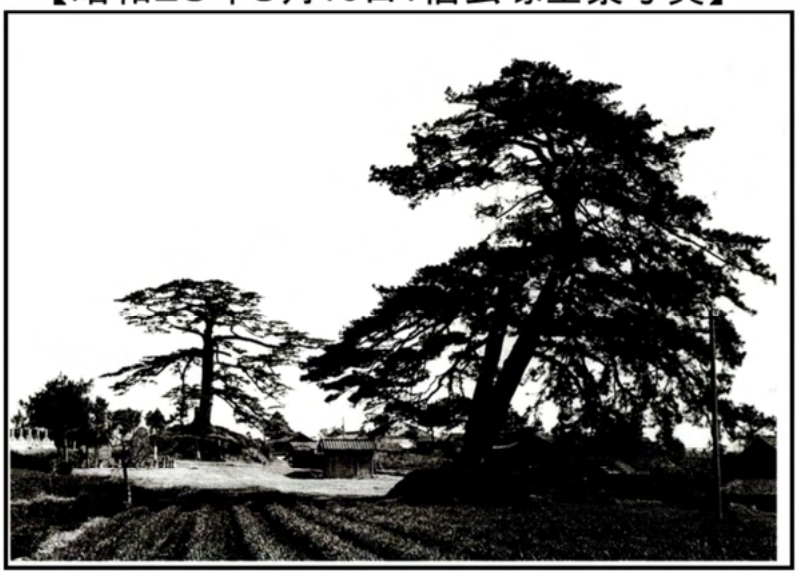
巨大松明➡



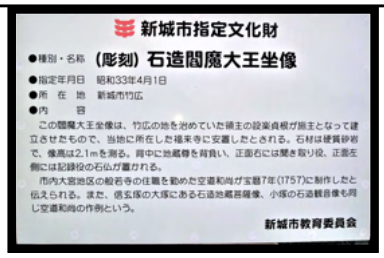
・村人の手間と心が、戦いの戦没者を祀る。

【信玄塚】(その7) 戦いの跡

【昭和28年8月15日：信玄塚全景写真】



閻魔大王発行の御朱印



【昭和28年の信玄塚のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　竹広信玄塚広場

閻魔堂の前の看板➡

・昭和34年の9月26日の、【伊勢湾台風】の影響で、樹齢300年以上経た雄大な大松と、小松が相次いで枯れてしまった。現在は、その後に植えられた松がずいぶん大きくなっています。

・昭和46年8月15日に竹広八釼会は、大塚の下に石碑を建立しました。碑の文面は以下の通りです。

【討死の霊に手向けん二代松幾世霜を命永かれ】

・設楽原の、古戦場に住む人々は、戦い直後から、【長篠・設楽原の戦没者】の慰霊供養を、竹広の【信玄塚】で400年以上に渡り連綿と行って来ました。当時手当てを受ける小松写真　左

＊令和2年11月　松くい虫の被害で大松・小松が枯れてしまった。大松写真

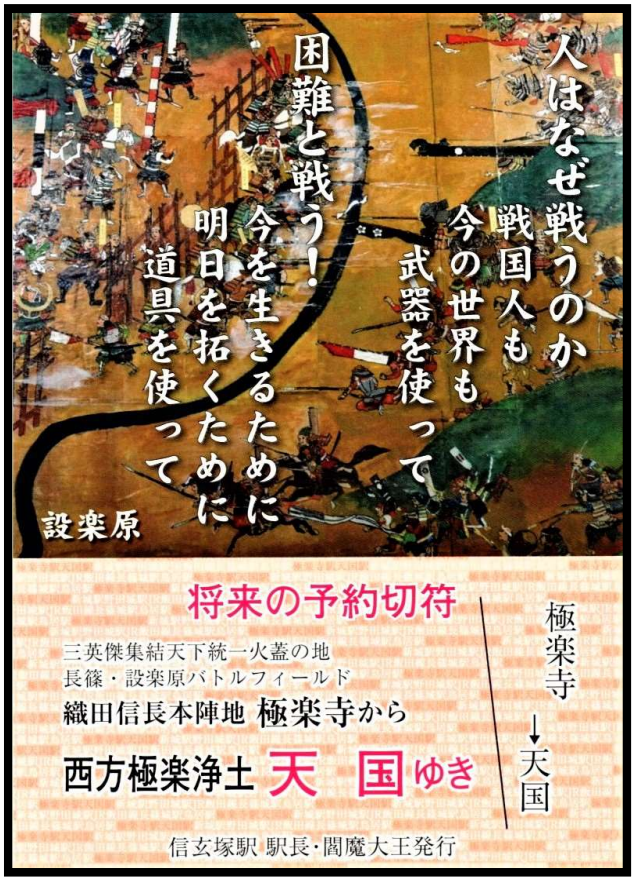
ガイドプラス【長篠・設楽原の戦いの三が並ぶ雑学】

- 戦いの時は【天正三年】五月二十一日
- 主戦場は、【三河の国】（三州）設楽原
- 戦国時代の日本【三大合戦】の1つ（諸説あり）
- 【三英傑集結】の戦い【織田信長・徳川家康・豊臣秀吉】
- 武田勝頼は、【武田信虎・武田信玄】に次いで【三代目】
- 織田軍の兵数は、【三万人】
- 使用した火縄銃は、【三千挺】射撃方法は【三段撃】・【三段構え】
- 戦場近くを流れる川は、【連吾川・大宮川・五反田川】の【三つの川】
- 【山縣三郎兵衛】　・【山家三方衆】☞【作手奥平・田峯菅沼・長篠菅沼】
- 現代に続く慰霊の祀り【長篠のぼりまっり】【作手古城まつり】【設楽原決戦場まつり】の新城戦国絵巻【三部作】

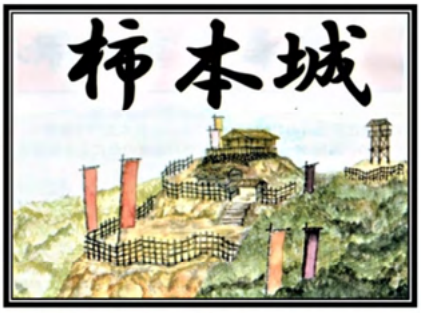
ガイド塩瀬眞美氏寄稿より

・武田勝頼が長篠から側室に出したラブレター　〒

手紙は、おそらく医王寺本陣から受け人の元へと思われます。『機嫌いかがお過しですか。そればかりが心にかかり、そなたの事を思い続けています。入梅のことで油断なく養生することが大切です。』残念ながら切封で宛名不明：東京大学が所有しています。



ガイドプラス【柿本城と清龍山満光寺】



・平成29年のNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の放映により新城市山吉田の柿本城が、にわかに脚光を浴びクローズアップされました。

・当時は、NHKの井伊直虎館や井伊谷宮からも、柿本城址と満光寺を訪れる方が数多くお見えに成り、それにより柿本城武将隊が誕生して地域の活性化の一役買っています。地域住民により柿本城址周辺が整備され、安全に散策できるようになりました。
柿本城は、徳川家康が三河・遠江国境（浜松城の守り）を整備するために、井伊家被官であった、柿本城主鈴木重勝に命じて、永録11年（1568）に築城され、元亀3年（1572）年には、武田信玄の家臣山縣昌景が、5000の兵で襲いかかり、城主鈴木重好は満光寺の住職の仲介で和睦して城を明け渡しています。柿本城主（鈴木重勝）宇利城主（近藤康用）都田城主（菅沼忠久）らの国衆は、井伊谷三人衆として戦国乱世を生き抜くための手段として協力し合って行きます。

見どころ・聞きどころ：家康から褒美をもらった満光寺の鶏

・元亀年間（１５７０）家康が武田信玄に追われ逃げる途中、満光寺に泊まった時に「一番鳥が鳴いたら起こして」と頼み寝た。夜半にいつもより早く鳥が鳴いたので言われたとおり住職は家康を起こした。家康一行は急ぎ闇の中を出発した。すると夜明けと共に、武田軍の山縣昌景が寺を包囲した。家康一行は危機一髪命拾いをしたという。後で武田軍が寺を奇襲した事を知り、家康は、満光寺の鶏に3石の（米）扶持を与えたという。
【やまの吉田の　満光寺様のトリになりたや　ニワトリに】
この民謡は、今ではほとんど歌われませんが昔は、山吉田近隣の方は皆さんが歌えたと言われます。満光寺の庭園は、誠に見事なもので愛知県の文化財の指定を受けています。５月の連休には、縁側の緋毛氈（ひもうせん）の上に座り素敵なサツキを眺める事が出来ます。まるで桃源郷に迷い込んだ様な気持ちになります。満光寺庭園道の駅鳳来三河三石

ガイドプラス【煙厳山鳳来寺と湯谷温泉】

・【おんな城主直虎】の放映により、新城市門谷の鳳来寺を訪れる方も目立ちます。戦国時代に鳳来寺に6年間も匿われていた「虎松」（のちの井伊直政が、鳳来寺の名僧の指導を受けて学問を究めた場所です。直政がその後「徳川四天王」と呼ばれるまでに成長したことは、鳳来寺で高等学問を習得した所以であろうと思われる。

・鳳来寺は、大宝3年（703）に利修仙人により開山されたと伝わる古刹で1425段の表参道の石段と【傘杉】（推定樹齢800年、樹高60mの大杉）が出迎えてくれる。今では鳳来寺山パークウェイで簡単に車で鳳来寺に行くことも出来ます。江戸時代には、徳川家代々将軍から手厚い庇護を受けて繁栄した。日本三東照宮の鳳来寺東照宮と仁王門は、三代将軍家光が祖父の徳川家康の誕生縁起により寄進した、国の重要文化財に成っています。
秋の【鳳来寺山紅葉まつり】には、大勢の紅葉を楽しむ人で賑わいます。

見どころ・聞きどころ：飯田線の電車を真上から見れます。

・湯谷温泉は、鳳来寺を開した利修仙人が発見されたと伝わる源泉【鳳液泉】が湯元です。天竜奥三河国定公園の、自然の恵み溢れる静かな環境の中、宇連川の両岸に9件ほどの旅館が温泉街を形成しています。板敷川の清流も見ごたえがありますが、【田舎茶屋まつや】で、大変美味しいと評判の炭焼き五平餅を頂いた後に、目前の湯谷温泉10景の1番のビュースポット【薬師如来】からの【馬の背岩】の眺めは実に絶景で全国に発信したく成ります。インスタ
この湯谷渓谷には多くの鳶が生息し、湯谷観光ホテルではトンビの餌付けも体験することが出来ます。夏はホタル観賞、冬は東栄町の花祭（ダイジェスト版）、レンタサイクルで景色を楽しみながら散策等の旅を満喫することが出来ます。

足湯の利修仙人

薬師如来像と馬の背岩

ガイドプラス【作手　文殊山城】　復元物見台

・戦国時代中期の作手は甲斐の武田氏と、三河の徳川氏の勢力のしのぎあいのエリアであった。武田信玄に取り作手は京都への西上作戦の通過地点の意味合いを持つ重要な地点でした。亀山城（奥平・徳川）と、古宮城（武田）の各々の支城が作手の狭い場所地に点在していた。奥平氏と武田氏との、戦国の駆け引きのドラマが幾多にも繰り広げられた場所です。NHKの大河ドラマに推薦できる戦国ストーリーが数多くあります。

・もう一つ作手の歴史を紐解くと必ず【米福長者】の話しが、史実かあるいは昔ばなしのように語られている。戦国乱世を力強く生き抜いた話題が作手の山里には豊富にある。

文殊山城内に祀られている【文殊菩薩】

・令和2年10月24日設楽原ボランティアガイドの会で作手高原に研修に行って来ました。

見どころ・聞きどころ：作手にある山城【山家三方衆】

【古宮城】武田信玄が重臣の馬場信房に命じ、元亀２年（１５７１）に奥平氏の亀山城監視の為に築城した、武田氏の最新の技術の粋を凝らしたお城です。長篠・設楽原の戦い後廃城と成りましたが、今でも当時の遺構を見ることができ、続１００名城にも推薦され、多くの山城ファンが日本各地より訪れます。

【川尻城】奥平氏が、群馬から作手に入り最初に築城したお城です。後に亀山城に移りそこを本拠地としました。

【亀山城】応永３１年（１４２４）奥平貞俊が築城、奥平氏５代が居城としました。元亀年間には武田氏側に属していましたが、離反し徳川氏に着きました。そして長篠城の戦いへと移ります。

【文殊山城】長篠・設楽原の戦いの２年前【元亀年間１５７０～７３】に、武田氏との和睦の証として造られたお城です。作手の見晴らしの良い位置に築城したお城で別名を【一夜城】とも云います。遠く本宮山方面と作手盆地を見下ろす事が出来ます。

【宇津木城】奥平氏が、赤羽根・見代・和田に至る山道を監視するために築いたとも考えられる出城です。住所作手大字保永字打木

【和田城】和田の南の丘陵に城跡があります。天文6年（1537）に築城されたと伝えられています。天正元年（1573）に奥平氏が武田を離れ、徳川家康についたため、合戦の舞台となりました。

【塞之神城　】米福長者とも武田軍が築城したとも伝わるお城。作手山城の中でも年代的には古く、古宮城を見下ろす位置に在りました。

【石橋館】つくで手作り村の道の駅近くの【慈昌院】が、石橋館の跡です。奥平氏の長篠城の戦い後の輝かしい歴史の陰には、謀反で42名が亡くなると云う一族の惨劇が石橋館でありました。

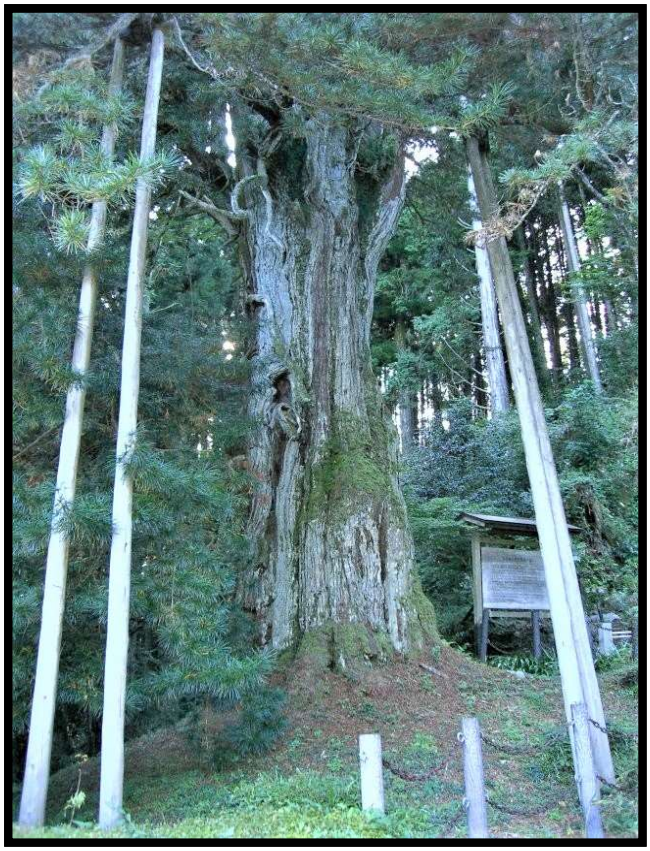
ガイドプラス　翔龍山　甘泉寺　作手鴨ヶ谷門前23番地
【烈士鳥居強右衛門勝商のもう一つのお墓】

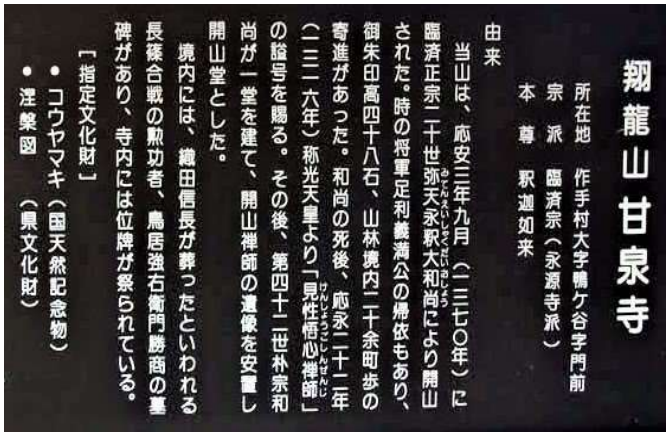
・甘泉寺へは、杉山交差点を国道301号線沿いに、くねくねした道を30分程進むと作手高原の平坦なエリアに出ます。亀山城址を右の高台に見て進み、右折して古宮城址を過ぎた場所に在ります。甘泉寺は、応安3年に臨済宗の寺として開山されました。境内には、樹齢600年以上とも伝わるコウヤマキの巨木が、【強右衛門のお墓】の守護神の様に佇んでいます。

・甘泉寺の扁額と甘泉寺鐘楼

【鳥居強右衛門勝商のお墓】
見どころ・聞きどころ　織田信長の命で此処に葬ったと伝わります。

【お墓は、新城市の新昌寺と豊川の松栄寺にもあります】
強右衛門の奥様のお墓もここ甘泉寺に祀られていました。





翔龍山甘泉寺

所在地　作手村大字鴨ケ谷字門前
宗　派　臨済宗（永源寺派）
本　尊　釈迦如来

由来

当山は、応安三年九月（一三七〇年）に臨済正宗二十世弥天永釈大和尚により開山された。時の将軍足利義満公の帰依もあり、御朱印高四十八石、山林境内二十余町歩の寄進があった。和尚の死後、応永二十二年（一四一六年）称光天皇より「見性悟心禅師」の諡号を賜る。その後、第四十二世朴宗和尚が一堂を建て、開山禅師の遺像を安置し開山堂とした。

境内には、織田信長が葬ったといわれる長篠合戦の勲功者、鳥居強右衛門勝商の墓碑があり、寺内には位牌が祭られている。

［指定文化財］
・コウヤマキ（国天然記念物）
・涅槃図　（県文化財）

コウヤマキの巨木【樹高28メートル幹囲6・5メートル】

＊坂田住職の読経の中、ガイドのメンバーは鳥居強右衛門の位牌に焼香してまいりました。72

ガイドプラス　俳人松尾芭蕉も訪れた？

【　新城市の自然の絶景　】

・①鳳来寺山の鏡岩：新城市門谷字鳳来寺

『木枯らしに　岩吹きとがる　杉間かな』

・②鳳来四谷の千枚田：新城市四谷

新城市四谷の鞍掛山麓に広がる全国有数の棚田で日本棚田100選にも選ばれています。春の田植え時期と秋の黄金色の稲刈り風景は見事で、大勢のカメラマンで賑わいます。

『夜着一つ折出して旅寝かな』

松尾芭蕉は、鳳来寺で2首の俳句を詠んでいます。

持病が悪化して鳳来寺山の途中で引き返した記録があります。

【阿寺の七滝】はじめ新城市内には沢山の滝があります。

・阿寺の七滝
日本の滝100選の一つです。

- 鳴沢の滝：作手守義小滝８０
- 百閒滝　：七郷一色：県内最大滝
- ナイアガラの滝：横川長篠堰堤

鳴沢の滝

百閒滝（パワースポット）

【乳岩・乳岩峡】【ナイアガラの滝・日本三大美堰堤】

乳岩川に沿う3㌔の渓谷を乳岩峡と呼びます。鍾乳洞

花の木公園内にある発電所の堰堤です。73

ガイドプラス　耳寄りな話　郷土の偉人

①空道和尚・正徳年間（1711）に竹広の農家に生まれ、鈴木仙之助として旗本設楽家に仕え、享保16年に仏門に入り空道と名乗った。安永元年（1772）年、還暦を迎えた年の9月18日に、般若寺の裏山に一室を作り、竹筒で空気孔をつけて、その中で念仏を唱えながら亡くなった。竹広弾正に空道和尚誕生と伝わる【井戸】が在る。

②岩瀬忠震・（1818～1861）幕末―開国期の外交官・・昌平坂学問所で学び、海防掛目付の要職に抜擢された。日米通商条約調印後、外国奉行に指名され、アメリカ、オランダ、イギリス、フランス、ロシアとの通商条約の締結業務を担当したが、その直後安政の大獄で、井伊直弼により、作事奉行への左遷、免職、永蟄居の処分となった。享年43歳：新城市川路の勝楽寺境内に【岩瀬肥後守忠震之顕彰碑】が在る。

③牧野文斎・（1868～1933）明治―昭和前期の医者・・大正3年長篠古戦場顕彰会をおこし、信玄祖師堂を建て、古戦場の史跡保護を進めた、設楽原まもる会の建てた【イロハカルタ】・【そこかしこ顕彰碑たてし牧野文斎】が　天王山に在ります。 信玄病院跡地が【牧野文斎記念公園】です。

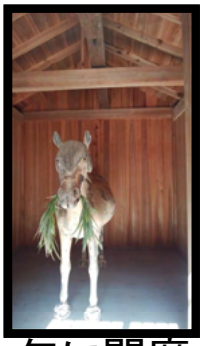
【空道和尚は、設楽原山麓に多くの造形物を残しています】

空道和尚の作品を訪ねて

・信玄塚の閻魔大王座像

・竹広の牧野宅に祀られている　賓頭盧尊者像⇒

・聖堂山勝楽寺の魚鼓



・大宮石座神社の神馬

・空道和尚は、還暦を迎えた年に閻魔大王像を彫り上げ、般若寺の裏山に穴を掘り民の平安と、設楽原の戦没者の御霊を供養しながら入寂したと伝わります。

ガイドプラス長篠・設楽原の戦い・武田勝頼公

●この絵の上段は、武田勝頼公　下段は北条夫人と嫡男の信勝像。戦国時代のこのような絵は稀で、武田勝頼公の一面を窺う事のできる絵です。原典は、和歌山県高野山持明院所蔵。

●絵は、天正五年三月三日に、諏訪大社千手堂の落慶法要が催された折りに、迎えたばかりの、北条夫人を伴い、今で言う新婚旅行に諏訪湖畔に出かけた時に描かれた物だと伝わっています。武田勝頼公に取りまして、束の間の平穏な時でした。

山梨県甲州市では、毎年【ふるさと武田勝頼公まつり】の行事で、慰霊法要と、武者行列で、武田勝頼公を偲んでいます。

＊甲州市ご当地ソング・・【武田慕情】・・ユーチューブで検索！

ガイドプラス　長篠・設楽原の戦い・武田勝頼公

【武田勝頼公夫妻と嫡子信勝の辞世の句】

【おぼろなる 月もほのかに 雲かすみ
はれてゆく 空の 西の山のは】　武田勝頼公
出典『理慶尼記』

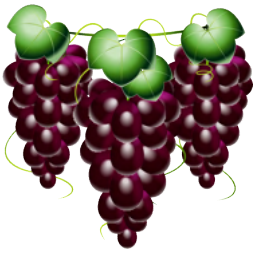
【黒髪の 乱れたる世ぞ はてしなき
思ひに消ゆる 露の玉の緒】　北条夫人
出典『甲乱記』

【あだに見よ　誰も嵐の桜花　咲き散る
ほどは　春の夜の夢】　武田信勝公
出典『理慶尼記』

【辞世の句ガイドポイント】

見どころ・聞きどころ

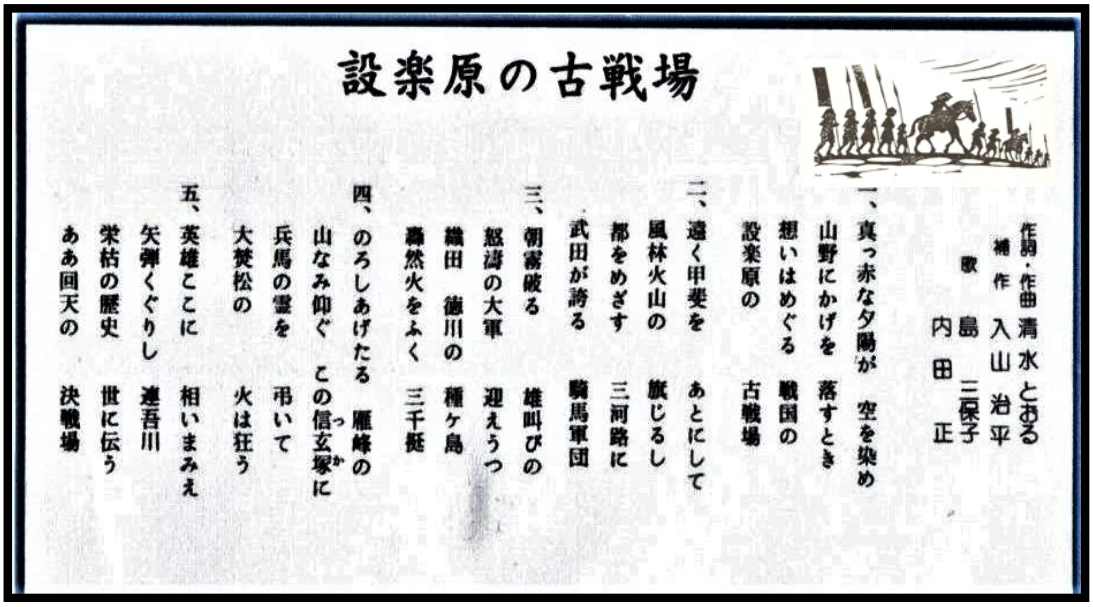
・【辞世の句】は、後世に作成された物が多くあると云われていますが、武田勝頼夫妻と、嫡子信勝の辞世の句は、新府城から再起を図るべき、小山田信茂の岩殿城へ向かう途中の3月３日の夜、現在の甲州市の【大善寺】に着き3月１１日に【自決する間に】詠まれた辞世の句だと言われています。
・柏尾山大善寺は、甲州ブドウ発祥の地と云われていて、【ぶどう寺】とも呼ばれ、ワイン、ブドウも販売しています。ぶどうを持った薬師如来が祀られています。
・武田勝頼に取り、武勇こそが【存在証明】・家臣の結束という、複雑な家系の運命を背負わされていました。



ガイドプラス【武田勝頼公-夫人の辞世の句の詠唱】

山梨県甲州市　天童山景徳院

【設楽原の古戦場の歌】：決戦場まつり等で披露されています。



設楽原の古戦場

作詞・作曲 清水とおる
補作 入山 治平
歌 島 三保子
内田 正

一、真っ赤な夕陽が　空を染め
山野にかげを　落すとき
想いはめぐる　戦国の
設楽原の　古戦場

二、遠く甲斐を　あとにして
風林火山の　旗じるし
都をめざす　三河路に
武田が誇る　騎馬軍団

三、朝霧破る　雄叫びの
怒濤の大軍　迎えうつ
織田　徳川の　種ヶ島
轟然火をふく　三千挺

四、のろしあげたる　雁峰の
山なみ仰ぐ　この信玄塚に
兵馬の霊を　弔いて
大焚松の　火は狂う

五、英雄ここに　相いまみえ
矢弾くぐりし　連吾川
栄枯の歴史　世に伝う
ああ回天の　決戦場

・祝　40周年　設楽原をまもる会

＊武田家終焉の地　甲州市との交流

毎年会員による

【ふるさと武田勝頼公まつり】

に参加して慰霊を弔って来ました。

景徳院山門にて➡

・信玄塚:昭和56年8月15日

供養塔再建記念　武田家旧恩会

ガイドプラス 【チンギスハンは義経だった：英雄伝説がここにも】
武田勝頼公は、天目山から逃れて四国に渡り、大崎玄蕃と名前を変えて活躍したと伝わる落人伝説があります。

・歴史資料館から信玄塚への小道に「宇宙桜」が植樹されています。これは【武田勝頼土佐の会】が植えたものです。高知県吾川郡仁淀川町では、その伝説の元に、観光振興のために歴史ロマンの発信をして、かつよりくん弁当や、かつよりキャラ募集をしています。

武田勝頼キャラ
"かつよりくん"

見どころ・聞きどころ　　新城市設楽歴史資料館エリア

・宇宙桜は、【武田勝頼土佐の会】が、平成29年4月29日の設楽原をまもる会の総会後に植樹したもので別名【ひょうたん桜】とも言います。遅咲きの桜で、設楽原歴史資料館周辺の桜が満開後に薄白色の花を咲かせます。

・武田勝頼公が、甲斐の天目山で自決せず、土佐に落ちのびていたなんて、なんという戦国の【歴史のロマン】ですね。

・故　中嶌才資氏の色紙

ガイドプラス　一筆啓上発信の地

【日本一短い手紙】の発信地は設楽原の陣中

・現在の、新城市立東郷東中学校付近に布陣した、徳川家康の家臣の本多重次が陣中より妻に宛てた手紙が日本一短い手紙として有名な『一筆啓上火の用心　お仙泣かすな　馬肥やせ』です。

・このお仙が、当時幼子であった仙千代【のちの丸岡藩主成重】の事です。福井県丸岡町では、平成5年に【日本で一番短い手紙】を募集して町興しの　イベントを行っている。

・この手紙は、唯一の息子である仙千代を心配し、家中を取り仕切る妻に火事に気を付け、馬の世話を怠りなくするようにとの、妻子を気遣う優しさと、同時に武士の心が伺えます。

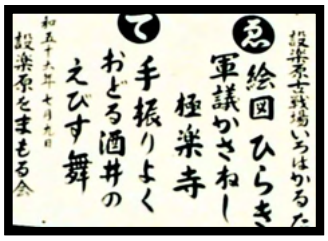
・新城市消防署の玄関にモニュメントの石碑が建立されているj。　右写真→

【日本一短い手紙の発信地のガイドポイント】

見どころ・聞きどころ　　新城市竹広東郷中学前畑中

・バスで、東郷中学を通る時に、この辺りの場所から手紙が、本多作左衛門から、奥様宛てに発信された事をお話をします。
・手紙は、天正3年5月18日～20日の間に書かれたもの。本多重次は、この設楽原の決戦で7箇所に傷を受け、目を傷めたと云われています。
・新城市消防署入口を入った右側に、新城ロータリークラブが建てた【日本一短い手紙】の石碑が在ります。市内の方でも、この石碑の存在を知る人は多くはありません。
・この道を、北に真直ぐ進むと信長・家康が、設楽原に到着次第、軍議を開いたと伝わる、【極楽寺跡】が左手高台に見えてきます。極楽寺が、その頃建っていたか不明ですが、設楽原歴史資料館に、極楽寺の【布目瓦】が展示されています。

・極楽寺跡に立てられた看板



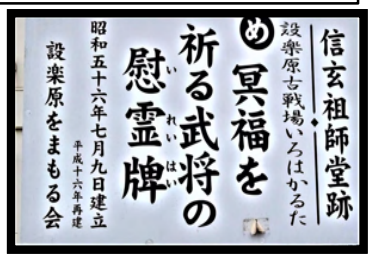
ガイドプラス【牧野文斎と牧野文斎記念公園】

・牧野文斎は、八東穂の信玄病院の医者で、大正3年5月に【長篠古戦場顕彰会】の中心人物として尽力され、武田諸将の立派な墓碑11基を建立した。

・この他、案内石標を設楽原から長篠城址にかけ、43基を設置した。尚、文斎寄稿傳として【設楽原戦場考】が出版された。

・石標は何れも花崗岩で、高さおよそ三尺、五寸角石造である。信玄病院の跡地が現在【牧野文斎記念公園】になっている。この公園碑は、孫の牧野尚彦氏の建立である。

【信玄病院跡：牧野文斎記念公園】



【牧野文斎記念公園のガイドポイント】

東郷中こども園前の祖師堂の看板➡

見どころ・聞きどころ　新城市八東穂八子971番地

•公園は、平成２１年４月１８日に信玄病院の跡地に出来ました。八楽児童寮の道を挟んだ前に在ります。石造りの大きな２本の門柱が、往時の信玄病院の隆盛を偲ばせます。

・明治・大正・昭和と、信玄病院は、県内でも有数の入院病棟を持つ病院でした。信玄病院へ行く道の左右には、駄菓子屋、旅館、たねや、提灯屋、綿屋等が繁盛しました。文斎氏は、病院経営の傍ら、地域の振興事業にも多くの貢献を果たしました。牧野文斎氏の【長篠古戦場顕彰会】は、史跡保存に尽くし、古戦場に多くの墓石碑を建立して、戦没将士の慰霊に勤めました。【長篠古戦場顕彰会】の思いは、現在【設楽原をまもる会】に引き継がれています。

☜ありし日の信玄病院
信玄祖師堂の写真➡

【設楽原歴史資料館前の不思議なもの】
ガイドプラス【京都の鴨川の橋脚】

・設楽原歴史資料館の、岩瀬忠震公の銅像前に鎖で四角く囲まれたコーナーの中に、不思議なコンクリート製の様な石柱があります。

・京都盆地の中央を流れる鴨川は、古来より幾度か氾濫して来ました。これはその橋脚ですが表面に削られた文字は、【天正十一年】と微かに、読み取ることが出来ます。天正11年と云えば、京都に本能寺の変があった翌年に当たります。織田信長が無念の最期を遂げた同じ年に、武田家も滅びました。戦いは、【あしたを奪います】。

・設楽原をまもる会の会員が、平成11年頃、京都の古物商より買い求め此処に設置した物です。歴史のロマンを感じさせる橋脚です！

【京都鴨川の三条大橋橋桁のガイドポイント】
見どころ・聞きどころ

・天正11年刻印の京都三条大橋の橋桁が、設楽原歴史資料館前の岩瀬忠震公の銅像前の木陰の中にあります。
織田信長と武田勝頼は、7年前の設楽原で雌雄を決する死闘を繰り広げました。

・天正10年6月２日に信長は、京都本能寺で没した、そのわずか3ヶ月前の天正10年3月１１日に武田勝頼は、甲斐の天目山の田野の地で自刃しました。　歴史の織りなす綾でもあります。

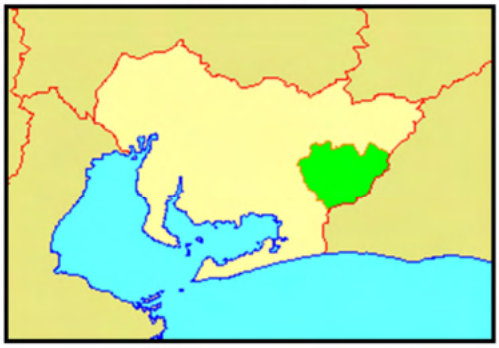
・二者が没した翌年の刻印が刻まれた橋桁が、この設楽原の新城市設楽原歴史資料館に在るのも、何かの因縁であろうか？

・それとも、京都本能寺で没した織田信長と、三条河原にさらされた武田勝頼公が、現況確認と互いの健闘を称えにやって来たのであろうか？いずれにしても、何の看板も無いため、三条大橋の橋脚は静かに時を数えるのみである。

【ヤマユリ】が咲くと、梅雨が明けます。戦国の【長篠・設楽原の戦い】も新暦７月９日
それは、新城のヤマユリの平均開花の時です。四百四十五年前も今も、花は静かに咲きます。

ガイドプラス【新城戦国三部作】

新城市の位置図(グリーン色)



【しんしろ戦国絵巻三部作のガイド】:鎮魂の慰霊祭です

見どころ・聞きどころ

- 長篠合戦のぼりまつり　新城市長篠:長篠城址周辺
- 作手古城まつり　新城市作手:亀山城址周辺
- 設楽・原決戦場まつり　新城市:設楽原古戦場周辺

- 【長篠・設楽原の戦い】の両軍の戦没将士の霊を慰めるために、慰霊法要や、長篠設楽原鉄砲隊の火縄銃の演武、武者行列等が行われ当時の様子が再現されます。それぞれの地区で、まつりの特徴を工夫して、見ごたえがあるまつりに成っています。戦国絵巻三部作のまつりで、往時を忍びます。
- 地域の活性化にも繋がり、子供から大人まで多くの見物人で賑わいます。新城市の歴史資源の、伝承発信の場にも成っています。
- 長篠のぼりまつりでは、鳳来地区の小学校のちびっ子ガイドが活動していて、その説明を受けるのも楽しく歴史を学ぶ事が出来ます。知って得するチャンスです。

・長篠・設楽原バトル　キャラクターキャストです！私は誰でしょう？

イラストキャスト提供　小野田真由美氏と原田克幸氏

ガイドプラス聖堂山勝楽寺曹洞宗

・聖堂山勝楽寺は、JR三河東郷駅の前に在るお寺で、長篠・設楽原の戦いや、川路城主【設楽家】にゆかりのある名刹です。

・元【松楽寺】という名前でしたが、戦勝側の、織田信長と徳川家康が立ち寄り勝利に因んで、松楽寺を【勝楽寺】に改めたと云われている。

・寺の庫裏には、空道和尚が製作した【魚鼓】長さ190cm　胴回り150cm・時を告げる物が吊るされている。

・勝楽寺には(右上写真)両軍の戦没将士の位牌113基【連合軍19基、武田軍93基、戦没者一切諸霊位牌の113基】が安置祀られている。

・川路城主設楽家の菩提寺です。岩瀬忠震公の顕彰碑が在る。

【勝楽寺のガイドポイント】

勝楽寺竜宮門➡
令和2年夏落成

見どころ・聞きどころ　新城市川路字夜燈：JR三河東郷駅前

・お寺の国道151号線に面した場所に【ね】ねんごろに　まつり絶やさぬ　勝楽寺・・イロハカルタの看板が在ります。
・勝楽寺では、毎朝、設楽原の戦没者の読経が挙げられます。
・聖堂山勝楽寺は、豊川の近くに在り、決戦当時勝楽寺前は、【勝楽寺前激戦地】となりました。史跡も周辺には多くあります。
・本堂入口に、掛る【聖堂山勝楽寺の扁額】は、西郷隆盛と一緒に、桜島の錦江湾で入水自殺を計った【月照】の兄弟弟子の【月舟】が書いたもので、庫裏に掲げられている空道和尚造と伝わる【魚鼓】と同じ、聖堂山勝楽寺の寺宝に成っています。
・岩瀬忠震公の石碑も大きく立派なもので、【岩瀬忠震会】により毎年慰霊法要の供養が営まれています。

・岩瀬家の墓石群

・前の畑中に立つ
勝楽寺前激戦地の看板

ガイドプラス　長篠・設楽原の戦いゆかりの【お城】

- ❶ 野　田　城　信玄が開城させた城
- ❷ 古　宮　城　武田軍が最後に築いた城
- ❸ 亀　山　城　作手奥平氏の居城
- ❹ 高　天　神　勝頼が攻め落とした遠州の城
- ❺ 長　篠　城　この戦いの籠城戦の城
- ❻ 岡　崎　城　援軍要請の使者が向かった城
- ❼ 田　峯　城　勝頼が敗戦直後向かった城

作手古宮城遠望

❺の長篠城は日本100名城の46番目で年々訪れる方が増えています。
❷の古宮城は続日本100名城の150番になり訪れる方が急上昇中

【続日本100名城の作手古宮城のガイドポイント】：NO150

見どころ　聞きどころ

・設楽原歴史資料館から、少し足を延ばして古宮城を訪れる方が多く見受けられます。国道151号線の杉山交差点を301号線沿いに40分程山道を進んだ所に在ります。奥平氏の亀山城を過ぎた、作手高原の中央の小高い森の中です。白鳥神社の領域です。

・古宮城は、元亀3年（1572）に、奥平氏の【監視】のために武田信玄の重臣馬場信房が、甲州流の縄張りで、武田と三河との最前線に、最新の軍事基地として築いた城です。亀山城の目の前の位置に造られました。武田氏築城術の粋を極めた遺構跡を見ることが出来ます。

・横堀と竪堀、そして土塁が複雑に組み合わさった縄張りはコンパクトながら周辺でも例を見ない巧妙なものです。築城から2年後に、織田徳川軍の前で自焼しましたが、名城の面影を今に残しています。
　武田信玄も勝頼も、ここに滞在したと思うと、戦国のロマンですね。
　巨大迷路のような縄張りですので、グループで行くことをお勧めします。

作手歴史民俗資料館➡
・古宮城の情報がゲット出来ます。

作手高原で深呼吸

ガイドプラス　河川改修前の連吾川

【この小さな川が戦国の歴史の流れを大きく変えた】

・連吾川は、台風等で大雨が降ると必ずというほど水が溢れ出て、田畑に被害をもたした。改修前は、子供がぴょこんと飛び越えて遊ぶほどの小川で、江戸時代の検地では、下田と記された深い沼田の地域でした。

改修後の連吾川

改修以前の竹広激戦地からの連吾川の風景

改修前の連吾川

新城文化会館中ホールの緞帳図:【山湊馬浪の図】やまのみなとうまのなみ　⇓

【ガイドプラス弾正山古墳群】 10号墳

設楽原の決戦の徳川家康の本陣となった場所

・東郷中学の裏の丘陵が弾正山で、一帯には10基の古墳があり、弾正山古墳群と呼んでいる。ここを舞台にして長篠・設楽原の戦いがありました。

・1号墳から8号墳までが後期古墳で、9号10号は数少ない前期古墳の代表的なものです。9号墳は【粕塚】ともよばれ、直径17㍍、高さ3㍍の円墳である。未掘墳で遠くからでも見ることが出来る。家康物見塚の場所です。10号墳は東郷中学の裏山にあり、【物見塚】ともよばれている。かってはフライングディスクゴルフコースもあり多くの方がこの10号古墳を見ながらゴルフを楽しみました。古墳は全長50㍍、後円部直径30㍍、後円部高さ6㍍、前方部長さ20㍍、前方部幅14㍍前方部高さ1・5㍍の前方後円墳です。

・9号墳、10号墳は昭和53年10月15日に県指定文化財。
1号墳～8号墳は昭和33年4月1日に新城市指定史跡に成っている。

【弾正山古墳群のガイドポイント】

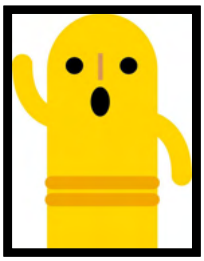
見どころ・聞きどころ 新城市竹広字断上154－1

現在9号墳:10号墳を周回するマウンテンバイクコースを整備中！

・弾正山古墳群9号墳(粕塚)

・弾正山古墳群10号墳(物見塚)

・弾正山古墳群地図



＊古戦場検定⑦: 朝日さす 夕日輝く み仏の つばきのもとに 黄金千両
どこに武田軍の軍資金が埋まっているのでしょう？①9号古墳 ②椿の木 ③仏様

子供のためのガイドプラス　おまけ
【古戦場の昔ばなし①】

『　びんずる婆さん　』　竹広地区

竹広の連吾川にかかった鉄橋の下に釜渕という渕があります。この淵は別名びんずる渕とも云います。

・釜ぶちは、両岸が切り立ったようになっていて薄暗く大きな滝が音を立てて流れています。むかし、この淵の岩の上に、時々びんずる婆が出てはビーンビーンと糸をつむいで付近の人を気味わるがらせていました。竹広の空道和尚は村人に頼まれ、賓頭盧尊者像を造り淵の上の岩に祀ったところ不思議にもそれからは現れなくなったそうです。その賓頭盧尊者像は、現在びんずる淵から竹広の連吾の牧野正俊様宅の庭に移されて丁重にお参りされています。昭和33年4月1日　新城市指定文化財

【古戦場の昔ばなし②】　『　石座神社の神馬　』　大宮地区

・この馬は、初め白い馬でしたが毎夜に出て田畑を食い荒らすので格子造りの馬小屋に入れて黒く塗った。そうしたらもう出てこなくなったと云う。空道和尚作と伝わるこの神馬は、体高105㎝、体長150㎝

昭和33年4月1日　新城市指定文化財

【古戦場の昔ばなし③】　『　おとら狐　』　長篠地区

・長篠の戦いの折、長篠城本丸の櫓の上から1匹の狐が戦いの様子を見ていました。長篠城内の稲荷末社に棲む狐で文字道理高みの見物をしていましたが、鉄砲の流れ玉に当たり左目を失明しました。それまでも左足を痛めており、片目片足の異形の狐でした。その後戦いに勝った城主は、　稲荷末社を置き去りにして新城へ移ってしまいました。怒った狐は、城の近くに住む万兵衛の娘【おとら】にとり憑き生き続けました。【おとら狐】はとり憑いた人間の体を借りて、長篠城の戦いを語り、多くの人に悪戯を重ねました。困った住人は医王寺の住職に頼んで、伏見稲荷を迎え、おとら狐を封じ込んだといいます。品物が紛失すると油揚を供えて探してもらう風習がありました。

城藪稲荷は現在大通寺境内に移り多くの信仰を集めています。

大人のためのガイドプラス　おまけ

【戦　国　銘　酒　名　鑑】・どんな文献にもありません！

＊様々のお酒がありますが、飲んだお酒のチエック欄です・□

＊□清酒　にらさき武田の里　　製造元　大冠酒造(株)

＊□辛口清酒　独眼竜正宗　　製造元　内ヶ埼酒造所

＊□果樹酒　日川渓谷と武田の秘境・大和村　武田勝頼

源朝臣　天童山-景徳院　　製造元　　中央葡萄酒(株)

＊□新潟清酒　春日山天と地　　製造元　　(株)武蔵野酒造

＊□大吟醸　　織田信長　　製造元　　日本泉酒(株)

＊□奥州仙台　　伊達政宗麦酒　　製造元　　長沼環境(株)

＊□特別本醸造清酒　　勝盃　長篠城　　製造元　丸石醸造(株)

＊□純米大吟醸　　濃姫　　製造元　　日本泉酒造(株)

＊□清酒　豊臣秀吉　　製造元　　日本泉酒蔵(株)

＊□本醸造　明智光秀　　製造元　　林酒造

＊□信州の白い酒　川中島　製造元　　(有)千野酒造場

＊□清酒　清州城信長　　鬼ごろし　　清州桜酒造(株)

＊□純米大吟醸　ねのひ　織田信長　　製造元　日本酒蔵元

＊□戦国浪漫之酒　高級清酒　長篠合戦　製造元　福井酒造(株)

＊□清酒　濃州諸白　　女城主　　製造元　　岩村醸造(株)

＊□山廃仕込みの酒　奥三河長篠城強右衛門　製造元　日野屋商店

＊□純米不老門　　長篠合戦図屏風　　製造元伊勢谷商店

＊□純米吟醸　　井伊直虎　　製造元　　花の舞酒造(株)

＊□純米吟譲　　利家の郷　　製造元　　常盤醸造(株)

＊□岡崎の地酒　　家康の郷　本醸造　製造元　柴田酒造場

＊□純米吟譲　　白鷺の城　　清酒　　製造元　　田中酒造場

＊□純米酒　　風林火山　　製造元　　大冠酒造(株)

＊□大吟醸　　徳川家康　　製造元　　丸石醸造(株)

＊□焼酎　武田二十四将軍師　山本勘助　製造元笹一酒造(株)

＊□純米吟譲生貯蔵酒　明智光秀　桔梗咲く　製造元　東和酒造

＊□純米吟譲　　明智光秀　時は今　　美富久酒造

＊□蓬莱中取り純米吟譲　　光秀　　製造元　　渡辺酒造店

＊□キレ味緑茶　　Asahi 若武者　　製造元　アサヒ飲料(株)

・さて貴方は、いくつ□にチエックが付きましたか？

・時の流れの中で、廃業の製造元もあります。

ガイドプラス【長篠・設楽原の戦に登場する山城物語】

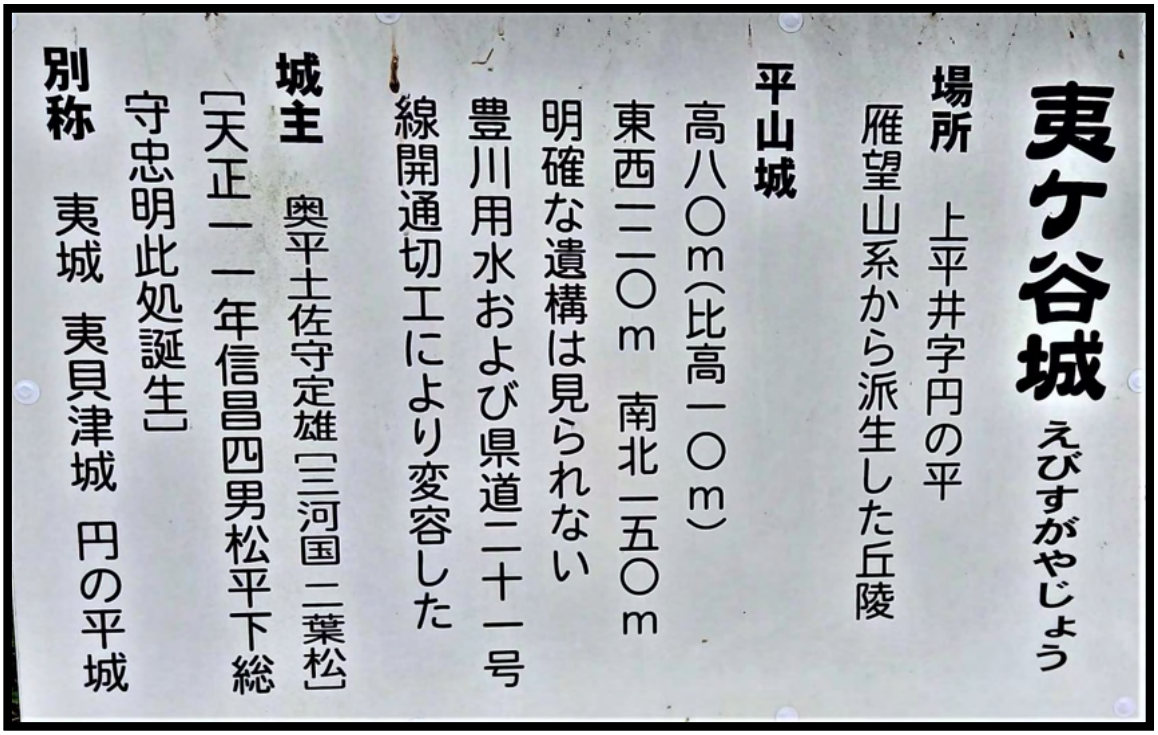
大谷城址と夷ヶ谷城址

・長篠・設楽原の戦いに勝利した奥平信昌が新しい城を築いたのが郷ヶ原の新城【シンシロ】で、その北の山側の地域が平井郷ヶ原です。設楽原の決戦では渦中になった場所でもある。 大谷城（おおやじょう）は、上平井の山城で、山家三方衆の一人田峰の菅沼定広が、平野への出口として隠居して永正５年に築城。遺構ははっきりしない。周囲は山林。定広嫡子定継は幽玄川西側の台地に城を築き、この城を上平井の本城に対し新城【シンジョウ】と呼んだ。

・大谷城遠望

見どころ・聞きどころ：　平井郷ヶ原の山城

【夷ヶ谷城：別名円の平城】城は東西１２０㍍×南北１５０㍍程の規模であったと考えられており、昭和３３年４月１日に市の史跡に指定されています。長篠城主や新城城主の奥平信昌の四男で、徳川家康の養子となった松平忠明がこの城で生まれた事が分かっています。遺構は残っていませんが、高低差がある地形が城の面影を感じさせます。【手ぶりよく踊る酒井のえびす舞】5月20日設楽原の決戦前日の極楽寺山の軍議の席で、徳川軍の重臣酒井忠次が、　得意とするかくし芸の【夷舞（えびすまい）】を披露した。夷ヶ谷城として、その城名が残っています。



ガイドプラス【戦いは勝つときも負ける時もある】
こんなところにも落ち武者の物語が【望月峠】

・国道151号線沿いの本郷の町を過ぎたところを右折して、473号線をどんどん山奥に入って進み人里離れて心細くなったころで、やっと到着したのが【雲海の里そば処茶禅一】である。ここは長篠の戦いの決戦場の設楽原から約60㌔も離れた場所である。茶禅一の尾林氏と、東栄町に古くから伝わる【花祭りの里】の双子姉妹が笑顔で出迎えてくれた。敗戦後、武田軍の望月義勝が信濃への逃避行のさい落ち武者狩りにあったと伝わる【望月峠】がすぐ近くにある。ミシュランガイドにも掲載された茶禅一のそばは絶品で，大勢のお客様で賑わいを見せていた。

・茶禅一と駐車場からの眺め

令和2年11月29日

そば処 茶禅一

見どころ・聞きどころ：東栄町の民話より

・天正三年五月二十一日の【長篠・設楽原の戦い】に敗れた武田軍は、寒狭川と宇連川伝いに一路信濃に向かって敗走した。望月右近太夫義勝（信濃望月郷城主）もその一人であった。主従５名は難儀を重ねやっと御園村へとたどり着いた。村の老婆に一夜の宿と食事をを所望し床に就いた。ところが老婆はその足ですぐ名主に伝えると、竹槍を持った大勢の村人に取り囲まれてしまった。望月義勝も、はかられた事を悟りもはやこれ迄と【竹槍をもって我に迫は見苦し、我が刀をもって我を斬れ。我は信濃の産。死後は信濃風が吹き来るところへ葬れ。さあらば仇せじ】と大喝して果てた。ところがである、村人は義勝の大小の刀と持ち金を奪うと遺骸は谷底へ突き落してしまった。暫くするとその村に災難があり不幸が続いた。これはあの武士の怨念だと、義勝が言い残した様に、信州風の吹く御園峠に移し祠を建てねんごろに祀ったところ災いは止んだ。刀は、氏神様の熊野神社に奉納した。現在は【望月様】とあがめられお祭りがなされています。

・望月峠に祀られている望月義勝の祠・花祭りの鬼のイラスト

評判のカキ氷

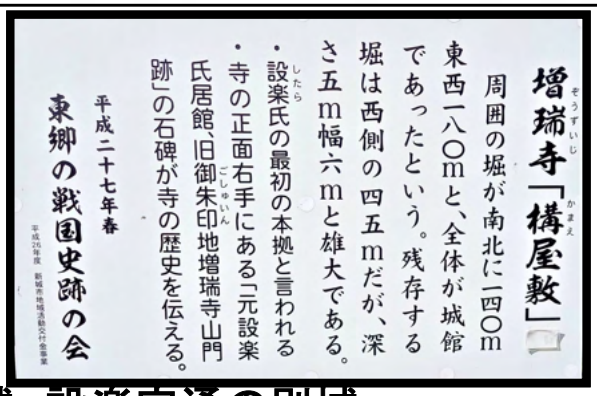
・茶禅一☎0536－76-0621　　冬季は道路事情で休業する時もあります。

ガイドプラス 【設楽氏の領地だから設楽原？】

設楽原には居館跡をはじめ多くの設楽氏の城館跡があります。

・設楽氏は鎌倉時代初期に、三河国設楽郡設楽郷が発祥だとされる。足利氏の根本被官であり番衆であった。本家新城設楽家は、【長篠・設楽原の戦い】の設楽貞通の代に、武蔵国多摩郡（八王子設楽家）と武蔵国埼玉郡（加須設楽家）に分家した。新城設楽家は、設楽貞通の2男貞信を祖とします。徳川家康の家臣として小牧長久手の戦い、小田原征伐の陣に供奉し、大坂の夏の陣では伏見城の城番を務めた。設楽貞喬は、采地の竹広に竹広陣屋を構え、貞喬の嫡男の貞丈の3男が岩瀬忠震です。一族は徳川幕府の旗本として使えます。

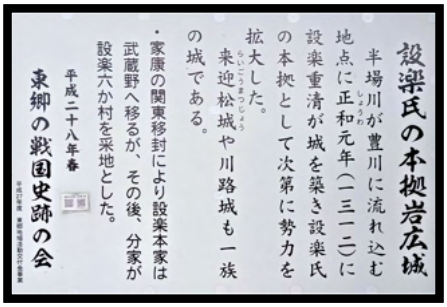
設楽家家紋　三つ盛り十二葉菊　聖堂山勝楽寺が菩提寺です。



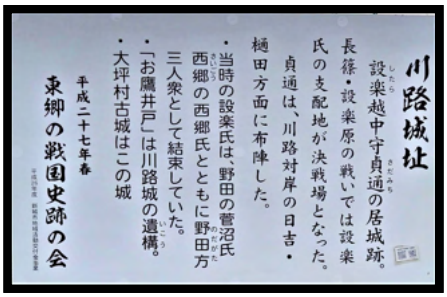
【設楽氏ゆかりの城館】

＊①増端寺屋敷：（新城市富永字原ノ内）鎌倉期の居館跡で設楽氏発祥の地国道151号線の沿線にあります。

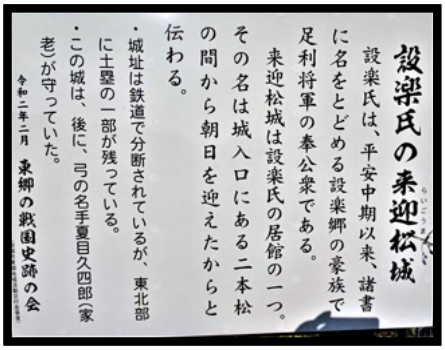
＊②岩広城：（新城市富沢）1312年に築かれたとされる。別名岩広村広瀬城。設楽守通の別城とされています。豊川の広瀬岸にあります。



＊③川路城：（新城市川路）別名大坪村古城。城跡に歴代城主が鷹狩の鷹の飼育に使用されたと伝わる「お鷹井戸」があります。城跡の西に小川路稲荷が残っています。新城川路駐在所奥にあります。



＊④来迎松城：（市内富永）城跡には稲荷大明神と宝筐印塔があります。



令和2年11月3日の信玄塚の大松

・松くい虫の被害で？枯れ死

・それともコロナ禍で？
あんな時もあったと笑える時が
早く来るといいですね！第三波

信玄塚の小松の写真

・先祖の心を大切に再び松を植えて、又再生する日が必ずやってきます。

長寿の心得：この戦いでは多くの尊い命が失われました。
私たちはその無念に答える為にも元気で明るく天寿を目指そう！

【還暦】60歳　とんでもないよと追い返せ。
【古稀】70歳　まだまだ早いと突っ放せ。
【喜寿】77歳　せくな老楽これからよ。
【傘寿】80歳　なんのまだまだ役に立つ。
【米寿】88歳　もう少しお米を食べてから。
【卒寿】90歳　年齢に卒業はないはずよ。
【白寿】99歳　百歳のお祝いが済むまでは。
【茶寿】108歳　まだまだお茶が飲み足らん。
【皇寿】111歳　そろそろゆずろうか日本一。
【天寿】120歳　大還暦：仏教用語の人間の寿命。

【設楽原決戦場まつり】

平和祈願狼煙隊：雁峰山中腹
参加者は現代の強右衛門です！

・狼煙はドラム缶に発炎灯100本程度を使用します。

第7章　ようこそ新城市へ

・こんな石柱もあります

・山梨県甲府市の皆様　新城市長：穂積亮次様と【ようこそ新城市へ】お出迎え
令和元年11月2日　新城市設楽原歴史資料館前にて

馬防柵再現地にて

新城市章

新城市は、戦国の歴史の宝庫!

このまちは、戦国の武将が訪れた跡を伝える“まち”

戦国の流れを変えた古戦場 … 決戦は天正3年(1575)旧暦5月21日のことです。

好きです！新城！！

「長篠・設楽原の戦い」の地へようこそ！

設楽原ボランティアガイドの会

戦いの序章【武田　信玄】【甲斐の虎　風林火山】

・元亀３年(1572)武田信玄が、徳川家康を、浜松城の北の三方ヶ原で一蹴した【三方ヶ原の戦い】この行軍の途中に、家康配下の菅沼定盈の守る野田城を開城させます。
信玄は、ここで発病(一説には銃創説)し進軍を止め、甲斐の国に帰る途中で亡くなります。この出来事が、周辺の軍事バランスを大きく変えて、３年後の天正３年（1575）の【長篠・設楽原の戦い】へと繋がることに成ります。

戦いの本章【武田　勝頼】この時３０歳　【悲運の名将】

・武田勝頼は、諏訪頼重の娘を母にもつ武田信玄の四男です。信玄亡き後の跡目を、長男義信は自害、次男信親は竜芳として僧籍、三男信之は早世した為、継ぐことに成りました。戦国の巨星、武田信玄に勝る戦功を挙げるべく、名門の自負を胸に“長篠城”から３㌔の“設楽原”で決戦に臨みます。長篠合戦屏風絵図の、右上部に【大】の字の諏訪大明神の旗指物の絵が描かれています。ここが、設楽原での武田勝頼戦地本陣【才の神】です。この戦いの７年後に天目山で自刃します。北条夫人が武田八幡神社に奉納した夫の武運長久を願う起請文は、戦国の悲しみです。
＊新城市竹広の“信玄塚”では、【火おんどりの盆行事】で【長篠・設楽原の戦い】の両軍の戦没者の菩提を弔っています。

【織田　信長】この時４２歳

・織田信長は、桶狭間の戦いでの勝利で、武名は一気に高まります。徳川家康の要請に応え、武田軍に囲まれた【長篠城】の後詰めとして、設楽原に陣を張り馬防柵を構築して、鉄炮の威力を高めました。【天下布武】に邁進しますが、本能寺で明智光秀の謀反により49歳の生涯を閉じます。好んだとされる、幸若舞の敦盛の文句そのままです。
『人間五十年　下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなり　一度生を得て滅せぬ者のあるべきか』

【徳川　家康】この時３４歳

・武田勝頼との戦いに備え、同盟者の織田信長に加勢を頼みました。元亀3年(1572)の【三方ヶ原の戦い】の屈辱と汚名を晴らす舞台が、“設　楽　原”となりました。幼少期から苦難の人質生活に耐え、江戸幕府の２６５年間の長期徳川政権の礎となりました。

【奥平　貞昌】この時２１歳　【長篠城主籠城軍】

・戦いに勝利した奥平信昌は、恩賞として徳川家康から【大般若長光】の名刀と長女【亀姫】を正室に迎え、織田信長からは【信】の一字を頂き翌年には、戦いで荒廃した長篠城に変えて郷ヶ原に【新城城】を築きました。　新城市内には、戦いに因んだ駅名があります。

JR飯田線　至豊橋　野田城　新城　東新町　茶臼山　三河東郷　とりい　長篠城

・広告協賛店　光田屋(株)げんき館
この街の介護ショップ

光田屋は健康な明るい毎日を応援します。

福祉用品の販売とレンタル

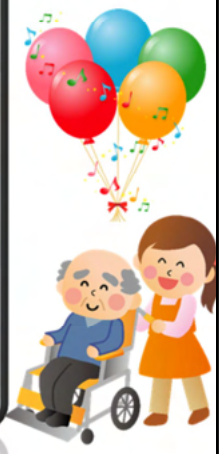
げんき館
CLEAN&HEALTH

住宅改修

貸布団

光田屋株式会社 げんき館
〒441-1386 愛知県新城市字南畑74
TEL (0536) 23-2131(代) FAX (0536) 23-4811
URL http://www.mitudaya.co.jp

光田屋 検索



参考文献

『設楽原戦場考』・・・・・・・・・・・・・・・・・設楽原をまもる会
『戦国ウォーク長篠・設楽原の戦い』設楽原をまもる会
『かるたでつづる設楽原古戦場』・・・設楽原をまもる会
『長篠戦後四百年史』・・・・・・・・・・・・新城市教育委員会
『東三河の史跡めぐり』・・・・・・・・東三河戦国史愛好会
『長篠・設楽原の戦いとは』新城市設楽原歴史資料館
『ガイド長篠の戦い』・・・・・・・・・・・長篠城址史跡保存館
『長篠の合戦を巡る大人の修学旅行』・・・鳳来商工会
『長篠戦後四百年史』・・・・・・・・・・新城市郷土史研究会
『定本　決戦場　設楽原写真集』・・・設楽原をまもる会
『甲陽軍鑑』　『信長公記』　『新城51景の会』
『戦国エンターテインメントマガジン歴史人』

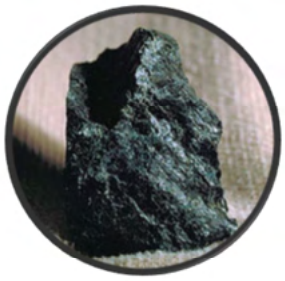
新城市　桜淵公園笠岩橋

協力者：設楽原をまもる会
協力者：北部ふるさとの会
協力者：竹広地区の皆様

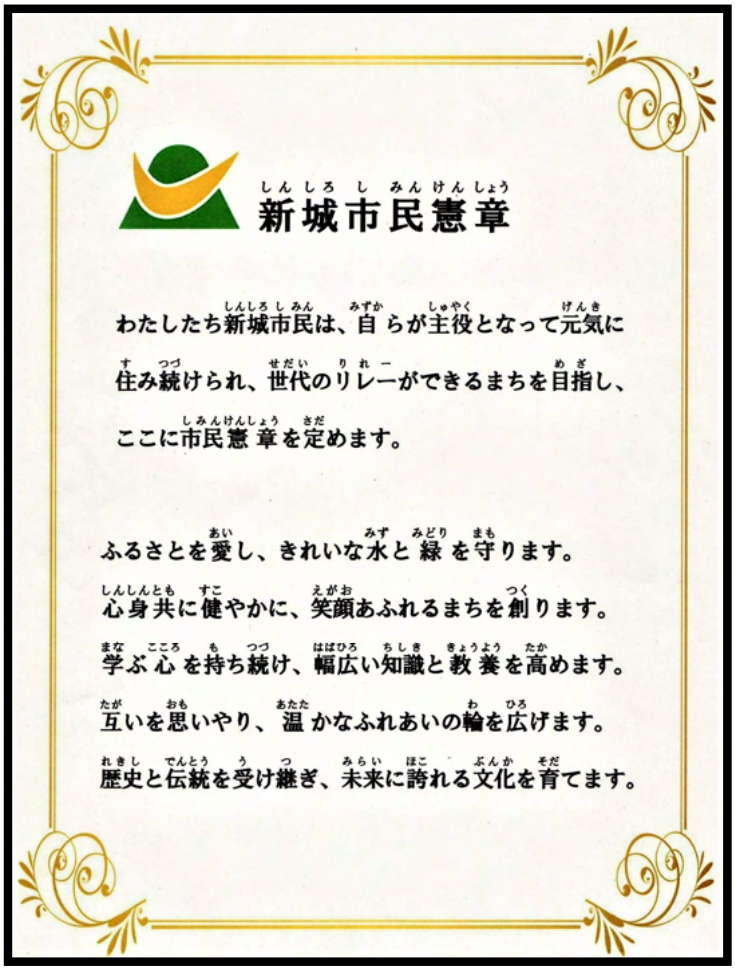
新城市の営業部長➡

ようこそ新城市へ　気を付けてお帰り下さい！

新城市の花　ササユリ
木　ヤマザクラ
鳥　コノハズク
岩　松脂岩
カエル　モリアオガエル



この「まち」には、いっぱい次の世代に伝えることがある！



新城市民憲章

わたしたち新城市民は、自らが主役となって元気に住み続けられ、世代のリレーができるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

ふるさとを愛し、きれいな水と緑を守ります。
心身共に健やかに、笑顔あふれるまちを創ります。
学ぶ心を持ち続け、幅広い知識と教養を高めます。
互いを思いやり、温かなふれあいの輪を広げます。
歴史と伝統を受け継ぎ、未来に誇れる文化を育てます。

ガイドの心得五箇条
●笑顔で明るく
●案内時間の正確さ
●礼儀：挨拶の正しさ
●身なりの清潔さ
●トイレ休息時間の配慮

編集委員　稲垣孝治　梶村昌義　小林重男
塩瀬眞美　杉山賢視　鈴木　健　滝川治
竹内雅史　藤原孝久　柴田賢治郎
印刷；製本　設楽原ボランティアガイドの会
提供　新城市南畑74番地　介護ショップ
光田屋げんき館　☎0536-23-2131

長篠・設楽原の戦いの史跡巡りガイド

目　　次　（長 篠 の 古 戦 場）

見どころ・聞きところ　2

第１章 長篠・設楽原の戦い

位置図 古戦場地図　3

長篠・設楽原の戦い当時の武将の年齢　4

① 長篠・設楽原の戦い 至る経過　5

② 長篠・設楽原の戦いの全容　6

③ 長篠・設楽原の戦い 本章　7

戦いの時系列・天正３年

④ 長篠・設楽原の戦い 本章　8

火縄銃の歴史

⑤ 長篠・設楽原の戦い その後　9

⑥ 戦い 奥平貞昌のその後　10

⑦ 戦い その後の武田勝頼１　11

僅かな兵に守られ落ち延びる

⑧ 戦い その後の武田勝頼２　12

勝頼公主従は自刃して果てた

⑨ 戦い その後の古戦場の塚　13

⑩ 戦いのゆかりの寺　14

⑪ 戦い直後から現代に続く　15

火おんどり（写真）　16

ガイドの基点道の駅 もっくる新城　17

第 2-1 章 長篠の古戦場散策

長篠の籠城戦の舞台を探索　18

織田・徳川軍はなぜ勝てたのか

長篠城の攻防戦・古戦場散策概要　19

長篠大橋から見た寒狭川の流れ　20

馬場美濃守信房公の塚は何と３か所　21

馬場美濃守信房公殿忠死之長篠の碑　22

中央構造線長篠露頭　23

蟻封じ塚 その１　24

新城市長篠字広面３０

蟻封じ塚 その２　25

長篠城大手門跡

長篠城址史跡保存館 その１　26

長篠城址史跡保存館の概要

長篠城址史跡保存館 その２　27

保存館の館内 血染めの陣太鼓

長篠城址史跡保存館 その３　28

武田勝頼・武田信玄

長篠城址史跡保存館 その４　29

長篠城址本丸跡

長篠合戦のぼりまつり　30

長篠城址史跡保存館 その５　31

お堀とタニシまつり

長篠城址史跡保存館 その６　32

駐車場の片隅にさかさ桑

上空からの長篠城址全景　33

長篠城址拡大図　34

達磨山大通寺 曹洞宗　35

長篠山醫王寺 曹洞宗　36

医王寺民俗資料館　37

興国山新昌寺 曹洞宗　38

鳥居強右衛門磔死之史碑（その１）　39

武士の鑑

鳥居強右衛門磔死之史碑（その２）　40

鳥居強右衛門磔刑の背旗

鳥居強右衛門の生誕地のお寺 松永寺　41

強右衛門戦国街道ラン　42

もう一人の岡崎への援軍要請の使者　43

鈴木金七郎重正

烈士 鳥居強右衛門勝商の歌　44

第 2-2 章 長篠城の攻防戦

酒井忠次の大迂回作戦　45

三枝勘解由守友・守義兄弟の塚　46

鳶ヶ巣山砦　47

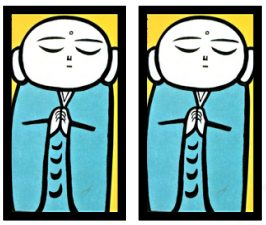
中山砦　48

牛渕橋から見た長篠城址　49

長篠・設楽原歴探訪ファイナル　50

戦いの勝敗を深堀する

長篠・設楽原の戦いの史跡巡りガイド



目　　次　　（設楽原古戦場①）

第３章 設楽原古戦場散策

設楽原決戦場のガイドポイント　1
決戦場の設楽原散策概要　2
横断幕のガイドポイント　3
設楽原古戦場地図　4
新城市設楽原歴史資料館 その１　5
　新城市設楽原歴史資料館の概要
長篠合戦図屏風の説明　6
新城市設楽原歴史資料館 その２　7
　館内説明 火縄銃
新城市設楽原歴史資料館 その３　8
　館内展示の信玄砲
新城市設楽原歴史資料館 その４　9
　影武者のスチールパネル
新城市設楽原歴史資料館 その５　10
　資料館屋上の説明
新城市設楽原歴史資料館 その６　11
　岩瀬忠震公の銅像
新城市設楽原歴史資料館 その７　12
　資料館周辺は桜のお花見の穴場
新城市設楽原歴史資料館 その８　13
　火縄銃の弾発見地の標識

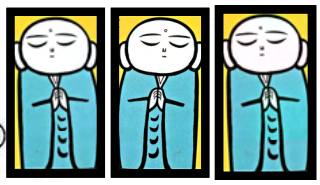
第４章 戦いの跡

武田勝頼公指揮の地の石碑　14
武田勝頼公観戦地の石碑　15
織田信長戦地本陣地 茶臼山　16
織田信長の移動経過　17
　馬防柵での鉄砲三段撃ちは本当？
家康物見塚 その１　18
　物見塚と山岡荘八氏揮毫の石碑
家康物見塚 その２　19
　連吾川と雁峰山
家康物見塚 その３　20
　戦いはなぜ連吾川で行われたのか
家康物見塚 その４　21
　竹広激戦地の石碑と供養碑
徳川家康本陣地（八釼神社）　22
織田信忠本陣地　23
武田諸将訣盃跡　24
小屋久保と戦いの目撃者　25
もう一つの村人の避難場所万人ケ入り　26

第 5-1 章 設楽原に倒れた戦国の武人たち

山縣三郎兵衛昌景公の塚 その１　27
　武田信玄公以来の宿将
山縣三郎兵衛昌景公の塚 その２　28
　黒畑阿弥陀堂
山縣三郎兵衛昌景公の塚 その３　29
　長篠合戦屏風（志村又右衛門）
山縣三郎兵衛昌景公の塚 その４　30
　山縣昌景公の最期
山縣公の首級を訪ねて山梨県天澤寺に　31
岡部竹雲斎の塚と岩手左馬之助の塚　32
原隼人佑昌胤公の塚　33
内藤修理亮昌豊公の塚　34
横田備中守綱松公の塚　35
米倉丹後守正継公の塚　36
小幡上総介信貞公の塚　37
甘利信康公の塚　38
柳田の定林寺の３名の塚　39
高森恵光寺快川公の塚　40
傳五味与惣兵衛貞氏公の塚　41
土屋右衛門尉昌次公の塚　42
真田信綱・昌輝公の塚　43
山本勘蔵信供公の塚　44
高坂源五郎昌澄公の塚　45
松平伊忠公の塚　46
馬場信房公の出沢の塚　47
笠井肥後守満秀公の塚　48

長篠・設楽原の戦いの史跡巡りガイド



目　　次　　設楽原古戦場②

馬防柵再現地 その２ 51
長篠・設楽原合戦屏風絵図（成瀬家）
長篠合戦屏風絵図の実像に迫る 52
馬防柵再現地 その３ 53
合戦屏風の解説
馬防柵再現地 その４ 54
長篠合戦屏風
首洗池 その１ 55
竹広交差点の横
首洗池 その２ 56
錦鯉・草魚を探そう
首洗池に立つ看板 57
信玄塚 火おんどりの由来記 58
火おんどり画像 59
信玄塚 その１ 60
竹広信玄塚散策説明
信玄塚 その２ 61
信玄塚の閻魔大王坐像
信玄塚 その３ 62
福来寺跡と僧侶のお墓
福来寺と閻魔大王御朱印セット 63
信玄塚 その４ 64
福来寺の絵地図
信玄塚 その５ 65
甲軍戦没将士の供養塔
信玄塚 その６ 66
信玄塚の供養塔
信玄塚 その７ 67
昭和２８年の信玄塚 全景写真
第６章 戦いに因んで ガイドプラス雑学
長篠・設楽原の戦いの三が並ぶ雑学 68
柿本城と青龍山満光寺 69
煙厳山鳳来寺と湯谷温泉 70
作手 文殊山城 71
作手 翔龍山 甘泉寺 72
新城市の自然の絶景 73
耳寄りな話 郷土の偉人 74
武田勝頼公の絵 75
武田勝頼公夫妻と信勝の辞世の句 76
武田勝頼公・夫人の辞世の句の詠唱 77
勝頼公は、四国に渡り大崎玄蕃に 78
一筆啓上発信の地 本多重次 79
牧野文斎と牧野文斎記念公園 80
京都の鴨川の橋脚 81
しんしろ戦国絵巻三部作 82
聖堂山勝楽寺 曹洞宗 83
長篠・設楽原の戦いゆかりの城 84
河川改修前の連吾川 85
弾正山古墳群（家康の本陣） 86
子供のための古戦場の昔ばなし 87
戦国銘酒名鑑 88
大谷城と夷ヶ谷城 89
望月峠と御園の茶禅一 90
設楽氏の領地だから設楽原？ 91
設楽原決戦場まつり 92
長寿の心得
信玄塚の大松・小松（写真） 93
第７章 ようこそ新城市へ
山梨県甲府市の皆様（写真） 94
新城市は、戦国の歴史の宝庫 95
参考文献 96
ようこそ新城市へ 97
ガイドの心得五箇条

目 次 長篠の古戦場 98
目 次 設楽原古戦場 ① 99
目 次 設楽原古戦場 ② 100

・多くの皆様のご協力で完成致しました。今後も整理をしてまいります。有り難う御座いました。

【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

雁峰山麓の“新東名”

雁峰の山波に沿って、トンネルと高架で新城を走り抜ける高速道は、改めて大地の刻む美しい緑の山を私たちに語りかけている。

山の木の実が、遠い祖先の命をつないだことを
山の緑が、今も地球の大気の源であることを

発展や成長の陰は、生命の里

新城市内を走る新東名　　**新城５１景の会コラボ**

２０１７年２月に新東名高速道路新城インターが開通しました。

これにより古戦場の景観が変わりましたが、長篠・設楽原を訪れる多くのお客様の交通が便利になりました。もっくる新城の【道の駅】も連日賑わいを見せています。

【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

町衆が演じる 富永神社 祭礼能

・新城最初の「能」の記録は、天正４年（1576）、家康の命で新城を築いた時の「祝能」である。

・やがて、富永神社に奉納する「祭礼能」としてプロの手から本町を中心とした町衆の手に移り250年の歴史を刻んできた。

舞台も装束も 見事な「能の街」

富永神社の祭礼能　　**新城５１景の会コラボ**

富永神社　新城市宮の後78番地　　0536－22－1969

この【祭礼能】は、富永神社で行われる秋の例大祭の初日に奉納される【能】と【狂言】を言います。長篠城主であった奥平信昌は、新たに築いた城（新城城）の落成記念として観世与三郎を招き、城中で祝能を催したのが始めだと云われています。

【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

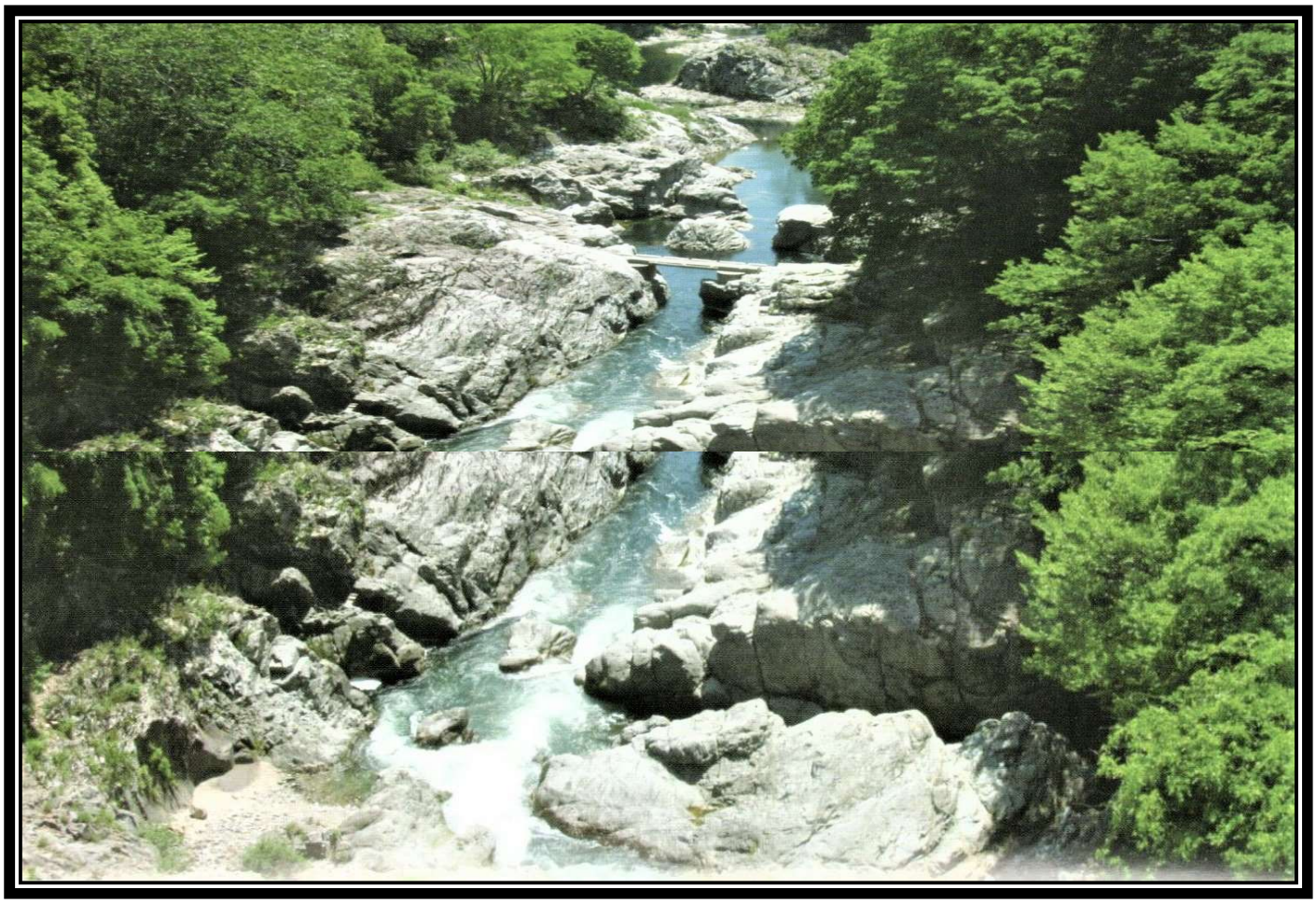
勅使を助けた“猿橋”の伝説

・寒狭川を前に思案する旅人を見た山の猿。
大猿３匹、背を伸ばして橋の形をつくり、旅人の勅使（草鹿砥公宣卿）を渡らせたという。

・川幅が狭まる「鵜ノ首」の下流、鮎滝川下の猿橋の谷は更に狭まり、今、小さな橋が架かる。

豊川本流が最も狭まる峡谷地形

武田軍が退却時に渡河したと伝わる猿橋　**新城５１景の会コラボ**



新城市出沢・横川地区の寒狭峡に掛る小さな沈降橋です。

設楽原の決戦で負けた武田軍が、故郷の甲斐の国を目指して落ち延びて行ったエリアと云われています。

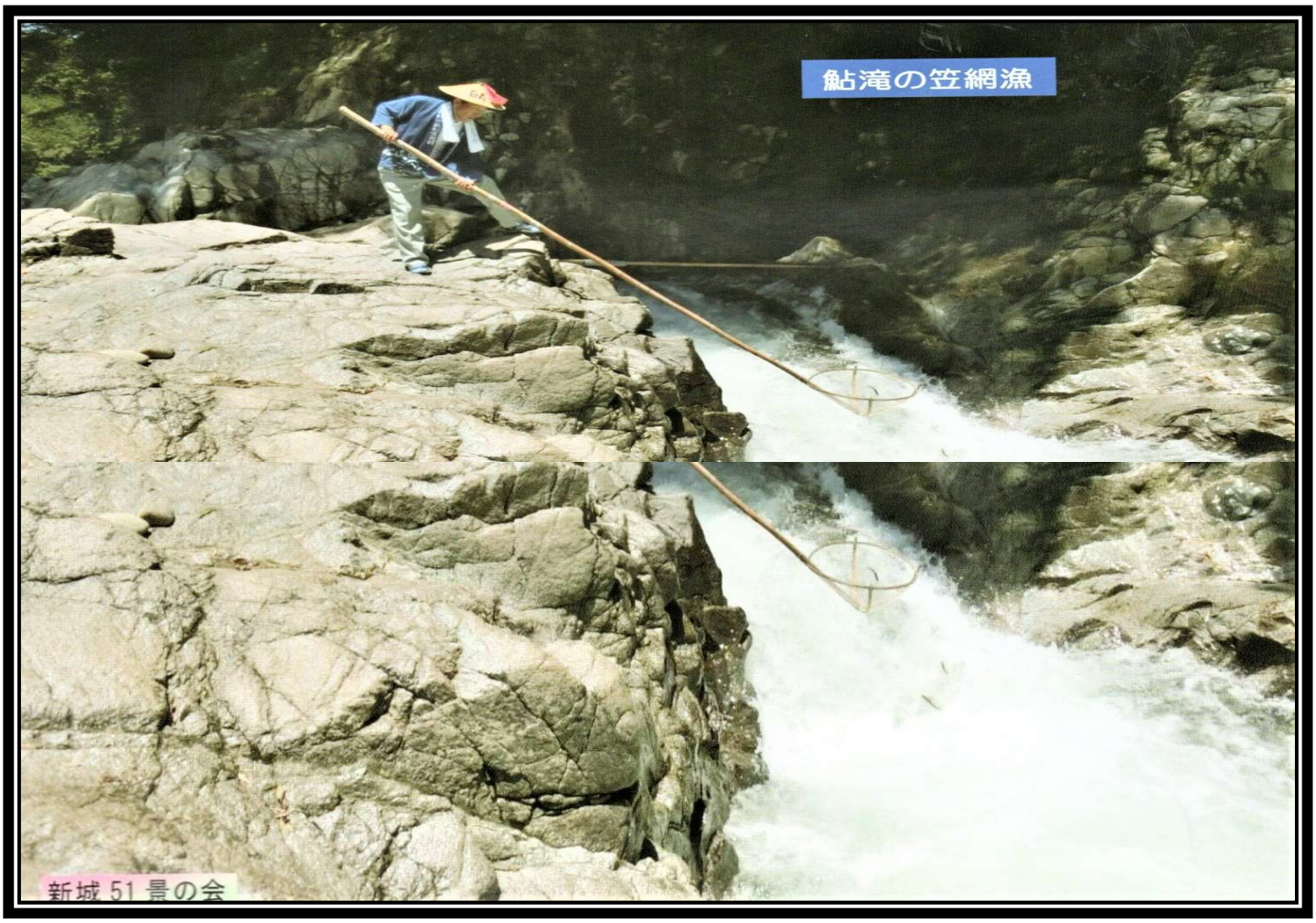
【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

時を待つ じっと待つ、鮎を待つ

・敗戦と言わない「終戦の日」から 72 年。
・あの年、浜松が艦砲射撃で壊れる音が聞こえ
　　豊橋が焼夷弾で燃える炎が見え
　　焼け落ちた豊川海軍工廠の煙が
　夕方、私たちの村を覆いました。

あの年も今も、鮎は豊川を上る…

出沢の笠網漁　　**新城５１景の会コラボ**



新城市出沢の寒狭川は、江戸時代の1643年に新城藩主が【二の滝】が木材の運搬の障害に成っているとの苦情を耳にして、石工を呼び寄せてこれを切り開かせました。この時出沢の瀧川宗右衛門一貞（地元の代官）が、さらに私費を投じて三の滝の【棚巌】と言われた大岩盤も切り開かせました。これにより滝を飛ぶ鮎の群れが増え、1646年瀧川家は【永代滝元支配】のお墨付きを与えられ、以来、出沢地区の特権に成ったと云われています。

【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

鳳来寺開山の 利修仙人像

・人里離れた鳳来寺山の中腹、どの様に造られたのか想像しがたい巨大な石の庇（ひさし）の下に開山の利修仙人が祀られている。

・仙人の文武天皇の病気平癒祈願はよく知られるが役行者は最先端の科学知的識の持主という。

元禄6年(1693)、玖老勢の野口に造立

鳳来寺山開山の利修仙人　　**新城５１景の会コラボ**

利修仙人は、欽明天皇（570年）に生まれたとされます。文武天皇が病気になられた時都に招かれ、鳳凰の背に乗って京都に飛び、法力で病気を治癒しました。天皇はたいそう喜ばれ大宝3年（703年）に、この山に壮大な七堂伽藍を建て【鳳来寺】と命名されました。山の名も【鳳来寺山】と呼ばれるようになりました。利修仙人は、308歳の文慶2年（878年）に入定されたと云われています。

【歴史の小径】古戦場に関係する写真集

若さと老いを 豊かに抱える 樹木

・杉の巨木が立並ぶ甘泉寺（かんせんじ）の参道を登りきると、
幹周り 6.5m、太さ日本一の高野槙（こうやまき）がある。
木曽五木（ごぼく）の一つで、日本特産種。

・地上数メートルの所で 4 幹に分かれ、落雷にもめげず
3 本が天を目指している。

樹は、地上で最も寿命が長い生物

作手甘泉寺のコウヤマキ　　**新城５１景の会コラボ**

所在地　新城市作手鴨ヶ谷字門前の甘泉寺境内にあります。推定樹齢は600年以上で樹高28メートル、幹囲6，5メートルの大木です。優雅さと剛健を誇り、全国一にふさわしい名木です。烈士　鳥居強右衛門勝商のお墓の横に守護神の様に佇んでいます。

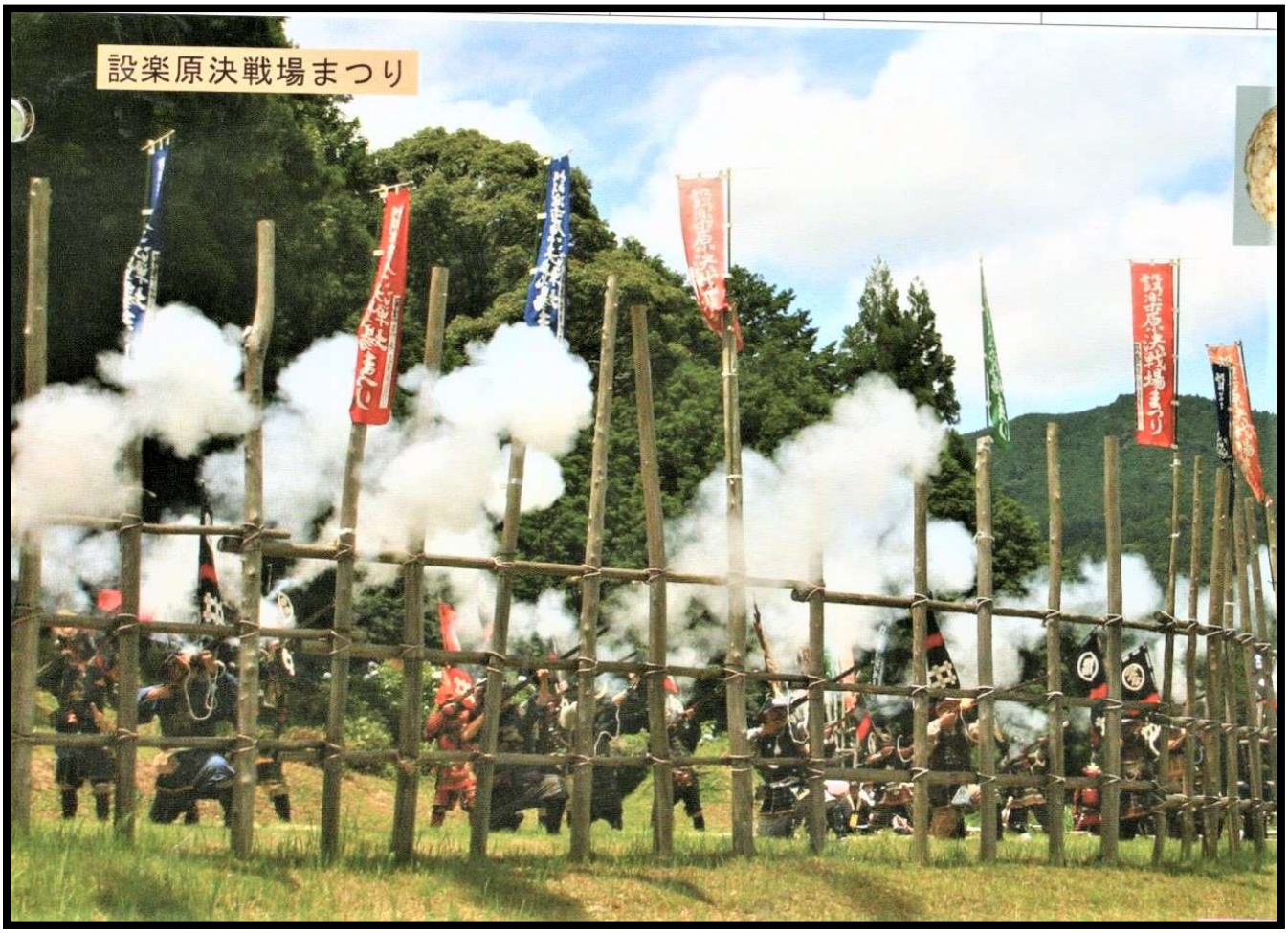
【歴史の小径】 古戦場に関係する写真集

七夕に願いを込める7月は

・古くから、集中豪雨の時季でした。
・戦国の「長篠・設楽原」は、旧暦５月 21 日（現７月９日）の鉄砲の戦いで勝敗がつきました。

それから四百年、古戦場は無名の塚を祀ります。

世界では 戦いの火種が続きます



・設楽原決戦場まつりは、信玄塚・歴史資料館・馬防柵再現地をメイン会場として、【設楽原をまもる会】が中心となり、地域の皆様が協力して行う【手作りのまつり】です。設楽原をまもる会は、昭和55年7月に誕生して40周年が立ちました。設楽原古戦場に点在する戦国将士の多くの塚は、一族の【あした】をかけて戦った彼らの夢の跡である。そのはるかへだてた【あした】を、地元に住む私たちが護って行くまつりが、【設楽決戦場まつり】です。

【設楽原全景】古戦場に関係する写真集

織田信長・徳川家康の築いた馬防柵の弾正山風景

【馬防柵再現地】

【歴史の小径】 古戦場に関係する写真集

今日のことも 俄に遠し 除夜の鐘　冨美子

・12月も半ばを過ぎると、急に余日を少なく感じる。どこかで去り行く年を惜しむのであろう。

・年越しに聞こえる百八の鐘の音は、新しい年への踏切り板。あしたへの一歩の･･･

・天正の亀姫も、母を偲びながら年夜（としや）の鐘を聞いた

･･･亀姫ゆかりの大善寺

大善寺の梵鐘　　**新城５１景の会コラボ**

大善寺（新城市西入船）は、1532年田峯城主菅沼定継が新城市片山に【大膳庵】を建てたのが始まりだと云われています。徳川家康公の長女・亀姫の発願で大膳庵を、現在の場所に移して【大善寺】と改めたと云われています。境内には【亀姫の墓】とされる塔が在ります。